

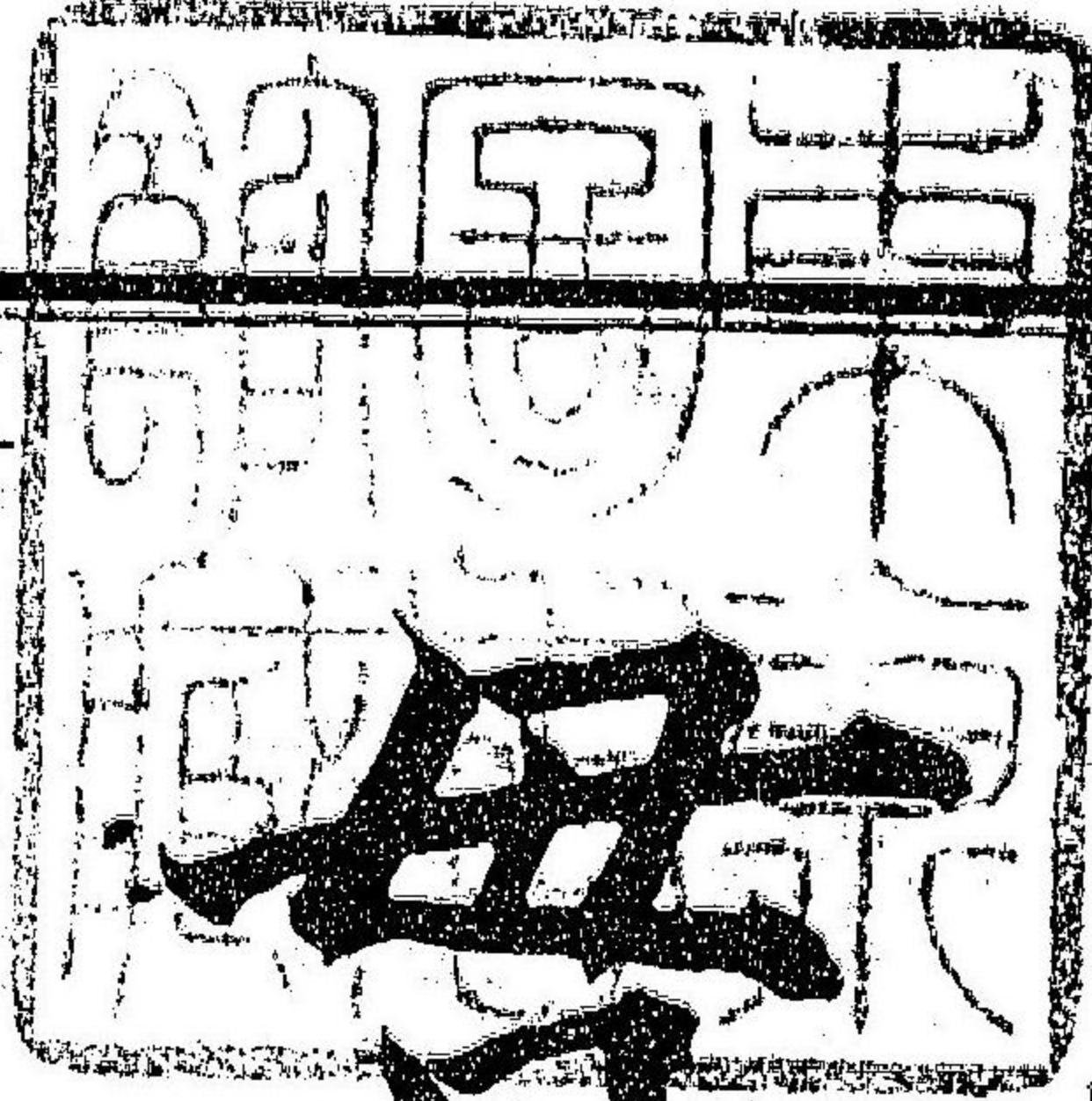
水越成章校閱  
越石齋編述

龜頭  
遺書  
編輯  
**日本刑法講義大全**

明治十六年二月刊行



特 14  
185



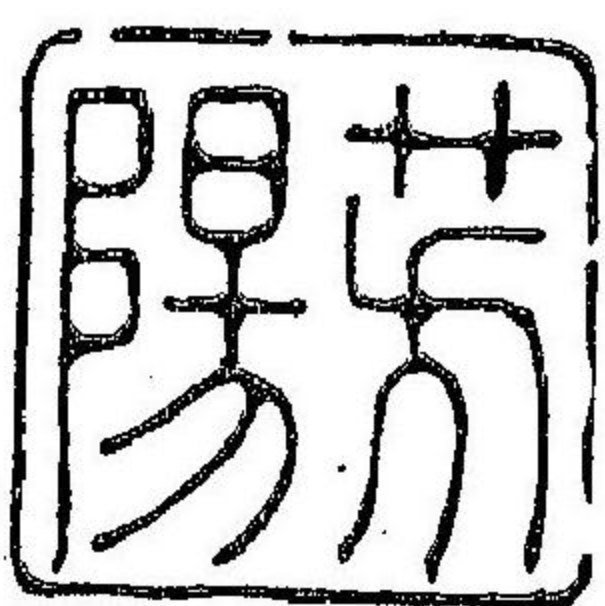
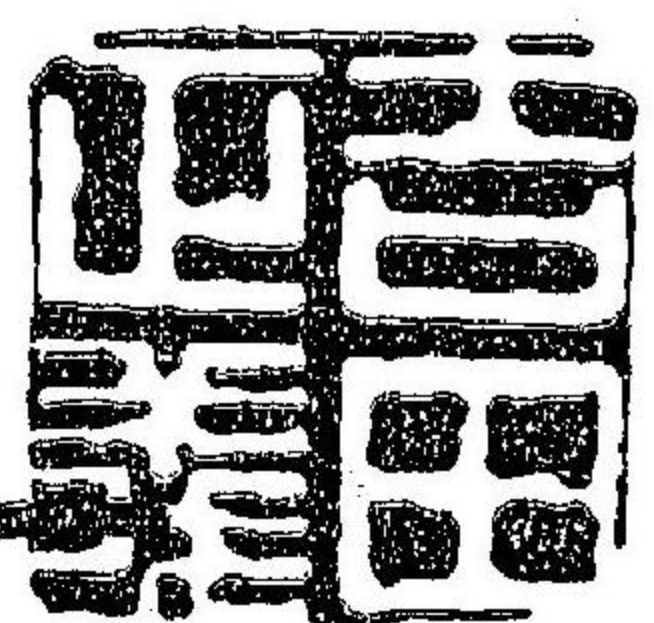
融會通貫

通會



壬午之秋書于  
湊川畔寓居

檢事吉田正義



凡例

一予刑法ヲ註スルニ當リ巨多ノ類書ヲ蒐ゾ之ヲ閱スルニ何レモ完全  
無欠ニシテ能其意ヲ洞徹スト虽モ或ハ言辭高尚ニ過キ往々鄙俗ノ  
得テ解ス可カラザル者多シ故ニ法律ヲ知ラント欲スルモ文ノ易カ  
ラザルヲ見テ自カラ抛棄シ竟ニ入テシテ刑律ノ何者タルヲ知ラシ  
メザルニ至ル豈ニ概難ニ堪ユ可ケンヤ於之乎一書ヲ編シ日本刑法  
講解ト曰フ此書固ヨリ大人君子ノ為メニスルニ非ザレバ文辭自力  
ヲ鄙俗ニシテ大人ノ指突ヲ免ガレズト虽モ其解義ニ至テハ明々晰  
々實ニ幼童婦女ト重モ容易ク一讀ノ下ニ其意ノアル所口ヲ悟リ得  
可キカ

一刑法世ニ頒行セラレシ以來已ニ一周年其間本法ニ關スル各官省ノ  
布告布達等ハ上欄ニ集メテ看照ニ便ス其長款ナル刑法附則ノ如キ  
モ亦同ニ上欄ニ在リ

明治十六年一月

編者識



第一篇 總則

第一章 法例

計十章 自第一條 至第五條 一丁才

第二章 刑例

計八 自第六條 至第十一條 二丁才

第一節 刑名

自第十二條 至第十三條 三丁才

第二節 主刑處分

自第十四條 至第十五條 六丁才

第三節 附加刑處分

自第十六條 至第十七條 九丁才

第四節 徵償處分

自第十八條 至第十九條 九丁才

第五節 刑期計算

自第二十條 至第二十一條 九丁才

第六節 假出獄

自第二十二條 至第二十三條 十丁才

第七節 期滿免除

自第二十四條 至第二十五條 十一丁才

第八節 復權

自第二十六條 至第二十七條 十二丁才

第三章 加減例

自第二十八條 至第二十九條 十三丁才

第四章 不論罪及レ減輕

計二節 自第三十條 至第三十一條 十四丁才

第一節 不論罪及レ宥恕減輕

自第三十二條 至第三十三條 十五丁才

第二節 自首減輕

自第三十四條 至第三十五條 十六丁才

第三節 酌量減輕

自第三十六條 至第三十七條 十七丁才

第五章 再犯加重

自第三十八條 至第三十九條 十七丁才

第六章 加減順序

第九十條 十八丁才

第七章 數罪俱發

自第九十一條 至第九十二條 十九丁才

第八章 數人共犯

計二節 自第九十三條 至第九十四條 二十丁才

第一節 正犯

自第九十五條 至第九十六條 二十丁才

第二節 從犯

自第九十七條 至第九十八條 二十丁才

第九章 未遂犯罪

自第九十九條 至第一百條 二十一丁才

第十章 親屬例

自第一百零一條 至第一百零二條 廿二丁才

第二篇 公益ニ關スル重罪輕罪

計九章 自第一百零三條 至第一百零九條 廿三丁才

第一章 公室ニ對スル罪

自第一百一十條 至第一百一十一條 廿三丁才

第二章 國事ニ關スル罪

計二節 自第一百一十二條 至第一百一十三條 廿三丁才



第一節	内乱ニ関スル罪	自第百二十八条	卅三丁ウ
第二節	外患ニ関スル罪	自第百二十九条	卅五丁才
第三章	靜謐ヲ害スル罪	計九節	卅六丁才
第一節	兇徒聚衆ノ罪	自第百三十六条	卅六丁才
第二節	官吏ノ職務ヲ妨害スル罪	自第百三十九条	卅六丁ウ
第三節	囚徒逃走ノ罪及ヒ罪人ヲ藏匿スル罪	自第百四十二條	卅七丁才
第四節	附加刑ノ執行ヲ適凡ノ罪	自第百五十四條	卅九丁才
第五節	私ニ軍用ノ銃砲彈藥ヲ製造及ヒ所有スル罪	自第百五十六條	卅九丁才
第六節	往來通信ヲ妨害スル罪	自第百六十二條	三十丁才
第七節	人ノ住所ヲ侵スル罪	自第百七十一條	卅一丁ウ
第八節	官ノ封印ヲ破棄スル罪	自第百七十四條	卅二丁才
第九節	公務ヲ行フヲ拒ム罪	自第百七十七條	卅二丁ウ
第四章	信用ヲ害スル罪	計九節	卅三丁ウ
第一節	貨幣ヲ偽造スル罪	自第百八十二條	卅三丁ウ

第二節	官印ヲ偽造スル罪	自第百九十四條	卅五丁ウ
第三節	官ノ文書ヲ偽造スル罪	自第百九十七條	卅六丁ウ
第四節	私印私書ヲ偽造スル罪	自第二百八十二條	卅七丁才
第五節	免狀鑑札及ヒ疾病証書ヲ偽造スル罪	自第二百八十三條	卅八丁才
第六節	偽証ノ罪	自第二百八十六條	卅九丁才
第七節	度量衡ヲ偽造スル罪	自第二百三十七條	四十一丁才
第八節	身分ヲ詐稱スル罪	自第二百三十一條	四十一丁
第九節	公選ノ投票ヲ偽造スル罪	自第二百三十三條	四十二丁才
第五章	健康ヲ害スル罪	計六節	四十二丁ウ
第一節	阿片烟ニ関スル罪	自第二百三十七條	四十二丁ウ
第二節	飲料ノ淨水ヲ汚穢スル罪	自第二百四十三條	四十三丁才
第三節	傳染病豫防規則ニ関スル罪	自第二百四十九條	四十三丁ウ
第四節	危害品及ヒ健康ヲ害ス可キ物品製造ノ規則ニ関スル罪	自第二百五十二條	四十四丁才



第五節 健康ヲ害ス可キ飲食物及藥劑ヲ販賣スル罪	自第二百五十三條 至第二百五十五條	四十四丁ウ
第六節 私ニ醫業ヲ爲ス罪	自第二百五十六條 至第二百五十七條	四十五丁才
第六章 風俗ヲ害スル罪	自第二百五十八條 至第二百六十三條	四十五丁才
第七章 死屍ヲ毀棄シ及ヒ墳墓ヲ發掘スル罪	自第二百六十四條 至第二百六十七條	四十六丁ウ
第八章 商業及ヒ農工ノ業ヲ妨害スル罪	自第二百六十七條 至第二百七十二條	四十七丁才
第九章 官吏瀆職ノ罪	計三節	四十七丁才
第一節 官吏公益ヲ害スル罪	自第二百七十三條 至第二百七十八條	四十七丁才
第二節 官吏人民ニ對スル罪	自第二百七十八條 至第二百八十九條	四十七丁ウ
第三節 官吏財産ニ對スル罪	自第二百八十九條 至第二百九十一條	五十丁才
第三篇 身體財産ニ對スル重罪輕罪	計二章	五十二丁才
第一章 身體ニ對スル罪	計十三節	五十二丁才
第一節 謀殺故殺ノ罪	自第二百九十二條 至第二百九十八條	五十二丁才
第二節 殴打創傷ノ罪	自第二百九十九條 至第三百零八條	五十二丁ウ

第三節 殺傷ニ関スル宥恕及ヒ不論罪	自第二百九十九條 至第三百零六條	五十三丁才
第四節 過失殺傷ノ罪	自第三百零七條 至第三百一十九條	五十四丁ウ
第五節 自殺ニ関スル罪	自第三百二十條	五十五丁才
第六節 擅ニ人ヲ逮捕監禁スル罪	自第三百二十二條 至第三百二十五條	五十五丁才
第七節 脅迫ノ罪	自第三百二十六條 至第三百二十九條	五十六丁才
第八節 墮胎ノ罪	自第三百三十條 至第三百三十五條	五十六丁ウ
第九節 幼者又ハ老疾者ヲ遺棄スル罪	自第三百三十六條 至第三百四十一條	五十七丁才
第十節 幼者ヲ畧取誘拐スル罪	自第三百四十二條 至第三百四十五條	五十八丁才
第十一節 猥褻姦淫重婚ノ罪	自第三百四十六條 至第三百五十四條	五十八丁ウ
第十二節 誣告及ヒ誹毀ノ罪	自第三百五十五條 至第三百六十一條	六十丁才
第十三節 祖父母父母ニ對スル罪	自第三百六十二條 至第三百六十五條	六十一丁才
第二章 財産ニ對スル罪	計十節	六十一丁ウ
第一節 竊盜ノ罪	自第三百六十六條 至第三百七十六條	六十二丁才
第二節 強盜ノ罪	自第三百七十八條 至第三百八十四條	六十三丁才



第三節 遺失物理藏物ニ関スル罪	自第三百八十五條	六十四丁才
第四節 家資分散ニ関スル罪	自第三百八十八條	六十四丁ウ
第五節 詐欺取財ノ罪及ヒ受寄財物ニ関スル罪	自第三百九十九條	六十六丁才
第六節 贓物ニ関スル罪	自第四百一十條	六十六丁ウ
第七節 放火失火ノ罪	自第四百一十條	六十七丁ウ
第八節 決水ノ罪	自第四百一十條	六十七丁ウ
第九節 船舶ヲ覆没スル罪	自第四百十五條	六十八丁才
第十節 家屋物品ヲ毀壞シ及ヒ動植物ヲ害スル罪	自第四百二十五條	六十八丁才
第四篇 違警罪	自第四百三十條	至七十六丁

日本刑法講解目錄終

卷頭参照

日本刑法講解大全卷之上

播磨 水越成章 閱  
美濃 越石 齋 著

第一編

總則 此ノ總則ハ刑法中ノ總則ヲ指シテ二度三度ト同ノ刑即チ位置ニ適用スルモノナリ  
悉クハ各章ニ註釋ヲ示スベシ

第一章

法例 法トハ斯クスベカラストカ斯クスベシトカ云フ定メ方ニテナリト知ルベシ  
例トハ總釋トモイフベキモノナリ故ニ法例トハ國ノ概ノ體格

第二條

凡法律ニ於テ罰ヌ可キ罪別テ三種ト爲ヌ

重罪

輕罪

違警罪

法律トハ罪ノ概ヲ總稱シタルモノナリ其ノ概ノ位置ニヨリ罰スルトノ輕重即チ罪ノ別ニ別テ重ク罰スルト輕ク罰スルト至極輕ク罰ト刑トノ別 古キ法律ニテハ罪ト刑ト同ジモノ、ヤウニナシ總則トカ

第一編 總則。第一章 法例。

卷之二 法例反



罪トカ言フタリ是レハ甚ダ當ラザルニ似タリ罪ト云フモノノ爲スベキ  
惡事ニテ人ガ盜チスレバ即チ盜ノ罪ヲ犯シタリト社云フベケレ刑トハ即チ  
大カ盜ノ罪ヲ犯シタルカラハ捨テ置クコトハナラズ其人ノ盜人ヲ懲ラスタメ  
仕置スルコトヲ云フ故ニ總刑輕罪ハ總刑輕刑ト云フカガ正當ナルベシ故ニ  
新ノ法律ニテハゴノ罪別ヲ立テラレ重罪トカ死刑トカ罪ト刑トノ別ヲ立派  
ニ限ラレシ

**第二條 法律ニ正條ナキ者ハ何等ノ所爲ト雖モ之ヲ罰スルコトヲ得** 法律ニ新  
ク罰スルト云フ如キ正シキ箇條ノナキモノハ人カトノ様ナ事ヲ爲シテモ罰  
スルコトハナラズナリ

**第三條 法律ハ頒布以前ニ係ル犯罪ニ及ボスコトヲ得**  
**若シ所犯頒布以前ニ在テ未タ判決ヲ經サル者ハ新旧ノ法ヲ比照シ輕キニ從テ  
處斷ス** 法律ハ其布告セラレタルヨリ以前ニ犯シタル罪ニマデ及ボシテ罰ス  
ルコトハナラズナリ若シ其ノ前ニ犯シタル罪人ヲ罰セズシテ其ノ法律  
ノ布告後ニ罰スルモノハ旧ノ法ノ刑ト新ノ法ノ刑ト比ベテ輕レニテモ輕キ  
方ニテ罰スルコトヲセラレヌリ

**第四條 此刑法ハ陸海軍ニ關スル法律ヲ以テ論ス可キ者ニ適用スルコトヲ得**  
軍ニハ陸軍ノ刑法アリ海軍ニハ海軍ノ刑法アリ故ニコレ等ノ法律ニテ罰ス  
ベキモノヘ此ノ刑法ヲ用ヒルコトハ成ラズナリ

**第五條 此刑法ニ正條ナクシテ他ノ法律規則ニ刑名アル者ハ各其法律規則ニ從**  
簡條ニ能ク合フモノナクシテ單行ノ規則ニ刑ノ名アルモノハ其ノ規則ニ因  
リテ罰スルナリ但シ其規則ニ總稱シタル總則ノナキモノハ皆テ此ノ刑法ノ  
總則ニ從フコトヲセラル

○太政官十四  
年第七十二号  
布告  
明治十五年一  
月一日ヨリ刑

**第二章 刑名** 刑トハ罪ヲ罰スル仕置キノコトニテ例トハ懲格ト云フ可キ  
モノナリ故ニ刑例トハ罪ノ仕置ノ懲格ナリト知ルベシ

**第一節 刑名** 刑トハ罪ヲ罰スル仕置キノコトニテ例トハ懲格ト云フ可キ  
モノナリ故ニ刑例トハ罪ノ仕置ノ懲格ナリト知ルベシ

**第六條 刑ハ主刑及ヒ附加刑ト爲ス**  
**主刑ハ之ヲ宣告ス**  
**附加刑ハ法律ニ於テ其宣告スル者ト宣告セサル者トヲ定ム** 仕置刑ニハ重ナル  
刑ニ附ケ加フ可キ刑附加刑トアリテ重ナル刑ハ一々言渡チ爲シ附ケ加フベ  
キ刑ハ別ニ言渡スルモノト重ナル刑ノ言渡ニテ自然附ケ加フ可キモノトナリ  
夫レ法律ニテ其ノ  
別ヲ立テアルナリ

**第七條 左ニ記載シタル者ヲ以テ重罪ノ主刑ト爲ス**  
**一死刑**

**第一條 凡懲  
役ハ十一月以  
上ヲ重禁錮ニ  
處シ十月以下  
ヲ拘留ニ處ス**

**第二條 凡禁  
獄及ヒ禁錮ハ  
十一日以上ヲ  
輕禁錮ニ處シ  
十日以下ヲ拘  
留ニ處ス**

**第三條 凡罰  
金及ビ科料ハ  
二圓以上ヲ罰**

法施行便ニ付  
法律規則中罰  
例ニ係ルモノ  
ハ左ノ例ニ照  
シテ處斷スベ  
シ

法施行便ニ付  
法律規則中罰  
例ニ係ルモノ  
ハ左ノ例ニ照  
シテ處斷スベ  
シ



金ニ處シ二四  
未滿五錢以上  
一口九十五錢  
以下ノ科料ニ  
處ス  
第四條 法ニ  
照シ律ニ照シ  
若クハ遺令違  
式ニ照シ處斷  
ストアリ及ビ  
咎可申付トア  
ルハ總テ二円  
以上百円以下  
ノ罰金ニ處ス  
第五條 法律  
規則ヲ犯シタ  
ル者ニハ刑法  
ノ再犯加重及  
ビ教罪俱死ノ  
例ヲ用ヒス

二無期徒刑	三有期徒刑	四無期徒刑	五有期徒刑	六重懲役	七輕懲役	八重禁錮	九輕禁錮	第十條 左ニ記載シタル者ヲ以テ輕罪ノ主刑ト爲ス	一重禁錮	二輕禁錮	三罰金
-------	-------	-------	-------	------	------	------	------	-------------------------	------	------	-----

刑法 第一編

第六條 法律  
規則中罰例ア  
リト虽モ刑法  
ニ正條アルモ  
ノハ刑法ニ依  
テ處斷ス  
第七條 前數  
條ノ罪ヲ犯シ  
拘留科料ニ處  
スル者ト虽モ  
輕罪裁判所ニ  
於テ之ヲ裁判  
ス  
但始審裁判所  
々在ノ地ノ除  
クノ外ハ治安  
裁判所ニ於テ  
之ヲ裁判スル  
ヲ得

第九條 左ニ記載シタル者ヲ以テ違警罪ノ主刑ト爲ス	一拘留	二科料	第十條 左ニ記載シタル者ヲ以テ附加刑ト爲ス	一剝奪公權	二停止公權	三禁治産	四監視	五罰金	六沒收	第十一條 刑ヲ執行シ及ビ犯人ヲ檢束スル方法細目ハ別ニ規則ヲ以テ之ヲ定ム
--------------------------	-----	-----	-----------------------	-------	-------	------	-----	-----	-----	-------------------------------------

法律 第五編



刑罰法 第一章 死刑執行

第一節 死刑執行

○第二節 主刑處分 重ナル刑ノ性質ト其ノ刑

第十二條 死刑ハ絞首ニ但規則ニ定ムル所ノ官吏臨檢シ獄内ニ於テ之ヲ行フ

第十三條 死刑ハ司法卿ノ命令アルニ非サレハ之ヲ行フヲ得ズ

第十四條 大祀令節國祭ノ日ハ死刑ヲ行フヲ禁ズ

第十五條 死刑ノ宣告ヲ受ケタル婦女懐胎ナル時ハ其執行ヲ停メ分後一百日ヲ經ルニ非サレハ刑ヲ行ハス

第十六條 死刑ニ處セラレタルモノハ死骸ハ其ノ罪人ノ親族又ハ朋友ナドヨリ

第十七條 死刑ハ無期有期ヲ分タス島地ニ發遣シ定役ニ服ス

第十八條 死刑ノ婦女ハ島地ニ發遣セズ内地ノ徵役場ニ於テ定役ニ服ス

第十九條 死刑ノ囚六十歳ニ滿ル者ハ通常ノ定役ヲ免シ其體力相當ノ定役ニ服ス

第一章 死刑執行 第一條 死刑ハ其執行ヲ爲ス裁判所ノ檢察官書記及ヒ典獄刑場ニ立會典獄ヨリ囚人ニ死刑ヲ執行ス可キヲ告示シタル後押下ヲシテ之ヲ執行セシム

第二十條 死刑ノ執行ハ午前十時前トス 第二條 死刑ヲ行フ時ハ刑場ノ警戒ヲ嚴ニシ執行ニ關スル者ノ外刑場ニ入ルヲ許サズ但立會官吏ノ許可ヲ得タル者ハ此限ニ在ラズ

スル者ノ外刑場ニ入ルヲ許サズ但立會官吏ノ許可ヲ得タル者ハ此限ニ在ラズ

第三條 死刑ノ執行單リタル時ハ書記其始末書ヲ作り立會ヲ爲シタル官吏ト共ニ署名捺印シテ之ヲ裁判所ノ檢察官ニ納ム可シ

スル者ノ外刑場ニ入ルヲ許サズ但立會官吏ノ許可ヲ得タル者ハ此限ニ在ラズ

第四條 左ニ記載シタル日ハ死刑ヲ行フ

スル者ノ外刑場ニ入ルヲ許サズ但立會官吏ノ許可ヲ得タル者ハ此限ニ在ラズ

第五條 左ニ記載シタル日ハ死刑ヲ行フ

スル者ノ外刑場ニ入ルヲ許サズ但立會官吏ノ許可ヲ得タル者ハ此限ニ在ラズ

第六條 死刑ニ處セラレタルモノハ死骸ハ其ノ罪人ノ親族又ハ朋友ナドヨリ



丁ヲ禁ス  
元始祭。光明天  
皇。紀元節。春  
季皇。豐祭。仁孝  
天皇。祭。神武天  
皇。祭。六月大祓。  
秋季皇。豐祭。神  
宮。神嘗祭。天長  
節。後桃園天皇  
祭。新嘗祭。光格  
天皇。祭。十二月  
大祓。

刑罰  
第五條 死刑  
ノ宣告ヲ受ケ  
タル婦女懷胎  
ト申スル者ハ  
醫師及ビ看護  
ヲシテ之ヲ檢  
査セシメ果シ

刑罰  
第二十條 流刑ハ無期有期ヲ分タス島地ノ獄ニ幽閉シ定役ニ服セス  
有期流刑ハ十二年以上十五年以下ト爲ス  
無期流刑ハ其ノ年限ノ間牢屋ニ閉テシメ置クナリ  
第二十一條 無期流刑ノ囚五年ヲ經過スレハ行政ノ處分ヲ以テ幽閉ヲ免シ島地  
ニ於テ地ヲ限リ居住セシムルヲ得  
有期流刑ノ囚三年ヲ經過スル者亦同シ  
囚人ノ行ヒ正シク能ク懺悔シタルモノハ牢屋ヲ出シテ島地ノ内ニテ居住ス  
ベキ土地ヲ限リ居住スルコトヲ許スコトアリ年限アル流刑ノ囚人ハ三年ヲ  
過キ去ル時ハ右ト同ジ  
ク免サルハコトアリ

第二十二條 懲役ハ内地ノ懲役場ニ入レ定役ニ服ス但六十歳ニ滿ル者ハ第十九  
條ノ例ニ從フ  
重懲役ハ九年以上十一年以下輕懲役ハ六年以上八年以下ト爲ス

刑法第一編

テ懐胎ナル中  
ハ檢察官ヨリ  
司法卿ニ上申  
シテ其執行ヲ  
停メ産後一百  
日ヲ經テ更ニ  
司法卿ノ命令  
ヲ受ケ決行ス  
ベシ

刑罰  
第六條 死刑  
ノ遺骸ハ一定  
ノ場所ニ埋ム  
若シ親屬故意  
請フ者アル時  
ハ典獄之ヲ許  
可シ下付スル  
ヲ得  
第七條 死刑  
ノ宣告ヲ受ケ

刑罰  
第二十三條 禁獄ハ内地ノ獄ニ入レ定役ニ服セス  
重禁獄ハ九年以上十一年以下輕禁獄ハ六年以上八年以下ト爲ス  
獄ハ流刑ノ如ク島地ヘ送ルコトナク内地ノ牢屋ニ入レテ働キ役ヲサセヌコ  
トハ禁獄モ亦々年限ニヨリテ二獄ニ別其ノ重キト輕キトノ年限ノ分ケ方  
ハ懲役ノ分ケ方  
ト同シコトナリ

刑罰  
第二十四條 禁錮ハ禁錮場ニ留置シ重禁錮ハ定役ニ服シ輕禁錮ハ定役ニ服セス  
禁錮ハ重輕ヲ分タス十一日以上五年以下ト爲シ仍ホ各本條ニ於テ其長短ヲ區  
別ス  
國第八條ノ第一第二ナル禁錮ハ禁錮場トテ其ノ囚人ヲ入レルベキ場所ニ  
閉テシメ置キ重キ禁錮ハ一定リタル働キ役ヲサシメ輕キ禁錮ハ働キ役ヲ  
ナサシメサルナリサレドモ其ノ重キト輕キトハ働キヲ爲ストナサヌトノ選  
ヒノミニシテ懲役禁獄ノ如ク重キト輕キトエヨリテ年限ノ異ナルモノデナ  
ク同ジク十一月ヨリ五年マデト定メラレタリ尚ホコノ年限ノ中ニテ其ノ罪  
ニヨリ何月ヨリ何年マデトカ夫々簡條々々ニ別ニ定メアルナリ



タル者執行ニ至ルマテ何時ニテモ典獄ノ許可ヲ得テ其親屬故舊ニ接見スルコトヲ得

第八條 死刑ヲ執行シタル時ハ犯人ノ屬籍氏名年齢職業住所及ヒ其罪状刑名ヲ記載シテ左ノ各所ニ榜示公告ス可シ

○刑ヲ宣告シタル裁判所ノ門前○犯罪ノ地○犯人住居ノ地

**第二十五條 定役ニ服スル囚人ノ工錢ハ監獄ノ規則ニ從ヒ其幾分ヲ獄舎ノ費用ニ供シ其幾分ヲ囚人ニ給與ス但現役百日以内ハ給與ノ限ニ在ラス**

**第二十六條 罰金ハ二圓以上十圓以下ニ爲シ仍ホ各本條ニ於テ其多寡ヲ區別ス**

**第二十七條 罰金ハ裁判確定ノ日ヨリ一月内ニ納完セシム若シ限内納完セザル者ハ一圓ヲ一日ニ折算シ之ヲ輕禁錮ニ換フ其一圓ニ滿サル者ト雖凡仍ホ一日ニ計算ス**

**第二十八條 拘留ハ拘留所ニ留置シ定役ニ服セズ其刑期ハ一日以上十日以下ト爲シ仍ホ各本條ニ於テ其長短ヲ區別ス**

**第二十九條 科料ハ五錢以上一圓九十五錢以下ト爲シ仍ホ各本條ニ於テ其多寡ヲ區別ス**

第九條 徒流ノ囚ヲ突遣スルハ裁判ヲ爲シタル地ノ監獄管理長官ヨリ内務卿ニ上申シ其命令ヲ待テ發船ノ地ニ護送ス可シ

第十條 徒刑ノ囚ハ島地ニ於テ便宜ニ從ヒ獄外ノ役ニ服セシムルコトヲ得

第十一條 流刑ノ囚函閉中獄内ニ於テ自ラ工業ヲ爲サ

**罰金ヲ禁錮ニ換フル者ハ更ニ裁判ヲ用ヒテ檢察官ノ求ニ因リ裁判官之ヲ命ス但禁錮ノ期限ハ二年ニ過グルコトヲ得ズ**

**若シ禁錮限内罰金ヲ納メタル時ハ其經過シタル日數ヲ扣除シテ禁錮ヲ免ヌ親屬其他ノ者代テ罰金ヲ納メタル時亦同シ**

**第二十八條 拘留ハ拘留所ニ留置シ定役ニ服セズ其刑期ハ一日以上十日以下ト爲シ仍ホ各本條ニ於テ其長短ヲ區別ス**

**第二十九條 科料ハ五錢以上一圓九十五錢以下ト爲シ仍ホ各本條ニ於テ其多寡ヲ區別ス**



ノト請フ者ハ  
典獄之ヲ許ス  
可シ  
第十二條 流  
刑ノ因幽閉ヲ  
免ス可キ者ア  
凡時ハ典獄ヨ  
リ内務司法兩  
卿ニ上申シ其  
許可ヲ受テ可  
シ  
第十三條 徒  
刑ノ因假出獄  
ヲ許サレタル  
者又ハ流刑ノ  
囚幽閉ヲ免セ  
ラレタル者家  
屬ヲ招キ同居  
スルヲ請フ時  
ハ之ヲ許ス

第二十條 科料ハ裁判確定ノ日ヨリ十日内ニ納完セシム若シ限内納完セサル者ハ第二十七條ノ例ニ照シ之ヲ拘留ニ換フ

第二十七條ノ例ニ照シ之ヲ拘留ニ換フ  
額ノ寡キ故ナルベシ若シ十日内ニ納ムル事ノ出来ザル時ハ科料ノ拘留ニ換フ  
フ七十日其ノ手續ハ第二十七條ヲ見テシルベシ

○第三節 附加刑處分  
第二十一條 剝奪公權ハ左ノ權ヲ剝奪ス  
一 國民ノ特權 日本國ノ人民ガ有シテアル權利ヲ指シテ國民ノ特權トハ云フ  
二 官吏ト爲ルノ權 國官吏ト爲ルノ權トハ役人ニ爲ルコト能ハザルヲ云フナリ  
三 勳章半金位記號恩給ヲ有スルノ權 此ノ權ハ國ニ功勞アリシユヘ與ヘラ  
賜ハリシ勳章ノ半金位記號恩給ノ各号ヤ状  
持來ナドヲ取リ上ゲラレハナリ  
四 外國ノ勳章ヲ佩用スルノ權 外國ニテ賜ハリシ勳章ハ取リ上ゲラレハナレ  
ラヌユヘコレヲ佩用スル  
コトヲ禁セラルハナリ  
五 兵籍ニ入ルノ權 兵籍ニ入ルノ權トハ兵隊  
ニ編入スルノ權ヲ云フナリ

刑法第一編

ノ得但其所費  
ハ自ラ之ヲ辨  
ス可シ  
第十四條 流  
刑ノ因幽閉ヲ  
免シ地ヲ限リ  
居住セシムル  
者ハ監獄進傍  
ノ地ヲ限リ典  
獄ノ監督ヲ受  
ケシハ若シ已  
ムト得ザル  
事故アルモハ  
典獄ニ請フテ  
限外ニ出ル  
ヲ得  
第十五條 流  
刑ノ因幽閉ヲ  
免セラレタル  
者再ビ罪ヲ犯

六 裁判所ニ於テ證人ト爲ルノ權 但單ニ事實ヲ陳述スルハ此限ニ在ラス  
判所ノ自白ニテ證人ト爲ルノ權ハ此限ニ在ラス  
コトヲ違フタルケノコトハ差支ヘサルナリ  
七 後見人ト爲ルノ權 但親屬ノ許可ヲ得テ孫ノ爲メニスルハ此限ニ在ラス  
ノ權ハ人ノ後見ノスルノ權ヲ云フモノナルガ親類中ノ許可ヲ得テ自分ノ  
子又ハ孫ノ後見ノトムコトハ差支ヘザルナリ  
八 分置者ノ管財人ト爲リ又ハ會社及ヒ共有財産ヲ管理スルノ權 此ノ限ハ身  
タルモノノ財產ヲ取扱ヒヲナシタリ又ハ會社ノ金ヲ取扱ヒテ出シ納  
メ致シ又ハ數々ノ人ノ仲間ノ金ヲ預ル如キヲ云フナリ  
九 學校長及ヒ教師學監ト爲ルノ權 此ノ權ハ學校ノ長トナリ學校ノ教師トナ  
リ又ハ學校ノ監督ヲスルノ權ヲ云フナリ  
第三十二條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告用ヒス終身公權ヲ剝奪ス  
國重罪ヲ犯シテ其ノ仕置ヲ受ケタルモ 特別ニ宣告ナクモ其ノ身ノ生  
涯ハ公權前條ノ九ヶ項ヲ取リ上ゲラレハナリ  
第三十三條 禁錮ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告用ヒス現任ノ官職ヲ失ヒ其刑  
期間公權ヲ行フヲ停止ス 禁錮ノ仕置ヲ受ケタルモノハ別ニ宣告ナクモ  
モ官職ヲ失ヒ又ハ禁錮ノ年限  
ノ間ハ第三十一條ニアル公權  
ヲ行フコトヲ停メラルハナリ



シタル時ハ本  
刑期限内ト雖  
モ島地ニ於テ  
直ニ其刑ノ  
執行スベシ

第十六條 懲  
役重禁錮ノ因  
ハ便宜ニ從ヒ  
獄外ノ役ニ服  
セシムルコトヲ

第十七條 禁  
錮輕禁錮ノ因  
獄内ニ於テ自  
ラ工業ヲ爲サ  
ント請フ者ハ

第十八條 服  
役限内更ニ罪  
可シ

第十九條 囚  
人ニ給与スル  
工錢ノ額ヲ定  
メ之ヲ交付シ  
及ビ領置メル  
方法ハ監獄ノ  
規則ニ從フ

第二十條 罰  
金材料ノ宣告  
ヲ受ケ未ダ納  
完セザル前ニ  
於テ犯人身死  
スル時ハ之ヲ  
徵收セズ附加  
ノ罰金ニ於ル

第二十一條 罰  
金材料ノ宣告  
ヲ受ケ未ダ納  
完セザル前ニ  
於テ犯人身死  
スル時ハ之ヲ  
徵收セズ附加  
ノ罰金ニ於ル

第二十二條 罰  
金材料ノ宣告  
ヲ受ケ未ダ納  
完セザル前ニ  
於テ犯人身死  
スル時ハ之ヲ  
徵收セズ附加  
ノ罰金ニ於ル

第二十三條 罰  
金材料ノ宣告  
ヲ受ケ未ダ納  
完セザル前ニ  
於テ犯人身死  
スル時ハ之ヲ  
徵收セズ附加  
ノ罰金ニ於ル

第二十四條 罰  
金材料ノ宣告  
ヲ受ケ未ダ納  
完セザル前ニ  
於テ犯人身死  
スル時ハ之ヲ  
徵收セズ附加  
ノ罰金ニ於ル

第二十五條 罰  
金材料ノ宣告  
ヲ受ケ未ダ納  
完セザル前ニ  
於テ犯人身死  
スル時ハ之ヲ  
徵收セズ附加  
ノ罰金ニ於ル

第二十六條 罰  
金材料ノ宣告  
ヲ受ケ未ダ納  
完セザル前ニ  
於テ犯人身死  
スル時ハ之ヲ  
徵收セズ附加  
ノ罰金ニ於ル

第二十七條 罰  
金材料ノ宣告  
ヲ受ケ未ダ納  
完セザル前ニ  
於テ犯人身死  
スル時ハ之ヲ  
徵收セズ附加  
ノ罰金ニ於ル

第二十八條 罰  
金材料ノ宣告  
ヲ受ケ未ダ納  
完セザル前ニ  
於テ犯人身死  
スル時ハ之ヲ  
徵收セズ附加  
ノ罰金ニ於ル

第二十九條 罰  
金材料ノ宣告  
ヲ受ケ未ダ納  
完セザル前ニ  
於テ犯人身死  
スル時ハ之ヲ  
徵收セズ附加  
ノ罰金ニ於ル

第三十條 罰  
金材料ノ宣告  
ヲ受ケ未ダ納  
完セザル前ニ  
於テ犯人身死  
スル時ハ之ヲ  
徵收セズ附加  
ノ罰金ニ於ル

第三十一條 罰  
金材料ノ宣告  
ヲ受ケ未ダ納  
完セザル前ニ  
於テ犯人身死  
スル時ハ之ヲ  
徵收セズ附加  
ノ罰金ニ於ル

第三十二條 罰  
金材料ノ宣告  
ヲ受ケ未ダ納  
完セザル前ニ  
於テ犯人身死  
スル時ハ之ヲ  
徵收セズ附加  
ノ罰金ニ於ル

第三十三條 罰  
金材料ノ宣告  
ヲ受ケ未ダ納  
完セザル前ニ  
於テ犯人身死  
スル時ハ之ヲ  
徵收セズ附加  
ノ罰金ニ於ル

第三十四條 罰  
金材料ノ宣告  
ヲ受ケ未ダ納  
完セザル前ニ  
於テ犯人身死  
スル時ハ之ヲ  
徵收セズ附加  
ノ罰金ニ於ル

第三十五條 罰  
金材料ノ宣告  
ヲ受ケ未ダ納  
完セザル前ニ  
於テ犯人身死  
スル時ハ之ヲ  
徵收セズ附加  
ノ罰金ニ於ル

第三十六條 罰  
金材料ノ宣告  
ヲ受ケ未ダ納  
完セザル前ニ  
於テ犯人身死  
スル時ハ之ヲ  
徵收セズ附加  
ノ罰金ニ於ル

第三十七條 罰  
金材料ノ宣告  
ヲ受ケ未ダ納  
完セザル前ニ  
於テ犯人身死  
スル時ハ之ヲ  
徵收セズ附加  
ノ罰金ニ於ル

第三十八條 罰  
金材料ノ宣告  
ヲ受ケ未ダ納  
完セザル前ニ  
於テ犯人身死  
スル時ハ之ヲ  
徵收セズ附加  
ノ罰金ニ於ル

第三十九條 罰  
金材料ノ宣告  
ヲ受ケ未ダ納  
完セザル前ニ  
於テ犯人身死  
スル時ハ之ヲ  
徵收セズ附加  
ノ罰金ニ於ル

第四十條 罰  
金材料ノ宣告  
ヲ受ケ未ダ納  
完セザル前ニ  
於テ犯人身死  
スル時ハ之ヲ  
徵收セズ附加  
ノ罰金ニ於ル

第四十一條 罰  
金材料ノ宣告  
ヲ受ケ未ダ納  
完セザル前ニ  
於テ犯人身死  
スル時ハ之ヲ  
徵收セズ附加  
ノ罰金ニ於ル

第三十四條 輕罪ノ刑ニ於テ監視ニ付シタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス監視ノ期限  
間公権ヲ行フコトヲ停止ス

主刑ヲ免シテ止テ監視ニ付シタル者亦同シ  
モノハ格別ニ言渡ハナクトモ監視間ハ公権ヲ行フコトヲ停メラレハナリ又  
女重立チタル刑ヲ免サレテ只ダ監視コノ三付セラレタル時トモ其ノ監視  
間ハ公権ヲ行フコト

第三十五條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス其主刑ノ終ルマテ  
自ラ財産ヲ治ムルコトヲ禁ス  
トモ其ノ年限中ハ自分ノ身代タリトモ自分デコレ  
ヲ取扱フコトハナラ  
又モノトセラレタリ

第三十六條 流刑ノ囚幽閉ヲ免セラレタル時ハ行政ノ處分ヲ以テ治産ノ禁ノ終  
分ヲ免スルコトヲ得  
第二十一條ニ載スル如ク流刑ノ囚ハ幽閉ヲ免サレハコ  
トアリ此ノ時ハ年限中デハアレドモ自分ノ財産ノ何程カヲ  
自分デ取扱フコト  
ヲ免サルハナリ

第三十七條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス各水刑ノ短期三分  
ノ一二等シキ時間監視ニ付ス  
ケズトモ其ノ仕置中ノ短キ年限ノ三分一ト同シ  
キ間ハ監視ニ付セラレハコトナリトス即チ有期徒刑ナラバ四年重禁錮ナシ  
バ三年ナルガ如シ

第三十八條 輕罪ノ刑ニ附加スル監視ハ之ヲ宣告ス但各本條ニ記載スルノ外監  
視ニ付スルコトヲ得ヌ  
輕罪ノ仕置ニ附ケ加ヘル監視ハ時々別ニ言渡フナク  
以テ故ニ其ノ言渡レナキハ監視ニ付セラレメナリ

第三十九條 死刑及ヒ無期刑ノ期滿免除ヲ得タル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス五年間  
監視ニ付ス  
無期刑ノ免除ノ事ハ第七節ニ明細ナレバ茲ニ罰ス死刑又ハ無期徒刑  
ナクトモ五年ノ間ハ監  
視ニ付セラレハナリ

第四十條 監視ノ期限ハ主刑ノ終リタル日ヨリ起算ス主刑ノ期滿免除ヲ得タル  
時ハ其捕ニ就キタル日ヨリ起算ス

若シ主刑ヲ免シテ止テ監視ニ付シタル時ハ其裁判確定ノ日ヨリ起算ス  
ハ重立タル刑ノ期限ノ終リタル日ヨリ起算スベキモノナラズ若シ重立タル  
刑ノ期滿免除トナリタル時ニハ其ノ罪人ノ捕ヘラレタル日ヨリ起算スナ  
リ若シ重立タル刑ハ免ルシテ只ダ監視ノ三ニ付シタル場合ニテハ其ノ裁判  
ノ確定日ヨリ起算スベシ

ハ重立タル刑ノ期限ノ終リタル日ヨリ起算ス  
刑ノ期滿免除トナリタル時ニハ其ノ罪人ノ捕ヘラレタル日ヨリ起算スナ  
リ若シ重立タル刑ハ免ルシテ只ダ監視ノ三ニ付シタル場合ニテハ其ノ裁判  
ノ確定日ヨリ起算スベシ

ハ重立タル刑ノ期限ノ終リタル日ヨリ起算ス  
刑ノ期滿免除トナリタル時ニハ其ノ罪人ノ捕ヘラレタル日ヨリ起算スナ  
リ若シ重立タル刑ハ免ルシテ只ダ監視ノ三ニ付シタル場合ニテハ其ノ裁判  
ノ確定日ヨリ起算スベシ

ハ重立タル刑ノ期限ノ終リタル日ヨリ起算ス  
刑ノ期滿免除トナリタル時ニハ其ノ罪人ノ捕ヘラレタル日ヨリ起算スナ  
リ若シ重立タル刑ハ免ルシテ只ダ監視ノ三ニ付シタル場合ニテハ其ノ裁判  
ノ確定日ヨリ起算スベシ

ハ重立タル刑ノ期限ノ終リタル日ヨリ起算ス  
刑ノ期滿免除トナリタル時ニハ其ノ罪人ノ捕ヘラレタル日ヨリ起算スナ  
リ若シ重立タル刑ハ免ルシテ只ダ監視ノ三ニ付シタル場合ニテハ其ノ裁判  
ノ確定日ヨリ起算スベシ

ハ重立タル刑ノ期限ノ終リタル日ヨリ起算ス  
刑ノ期滿免除トナリタル時ニハ其ノ罪人ノ捕ヘラレタル日ヨリ起算スナ  
リ若シ重立タル刑ハ免ルシテ只ダ監視ノ三ニ付シタル場合ニテハ其ノ裁判  
ノ確定日ヨリ起算スベシ

ハ重立タル刑ノ期限ノ終リタル日ヨリ起算ス  
刑ノ期滿免除トナリタル時ニハ其ノ罪人ノ捕ヘラレタル日ヨリ起算スナ  
リ若シ重立タル刑ハ免ルシテ只ダ監視ノ三ニ付シタル場合ニテハ其ノ裁判  
ノ確定日ヨリ起算スベシ

ハ重立タル刑ノ期限ノ終リタル日ヨリ起算ス  
刑ノ期滿免除トナリタル時ニハ其ノ罪人ノ捕ヘラレタル日ヨリ起算スナ  
リ若シ重立タル刑ハ免ルシテ只ダ監視ノ三ニ付シタル場合ニテハ其ノ裁判  
ノ確定日ヨリ起算スベシ

ハ重立タル刑ノ期限ノ終リタル日ヨリ起算ス  
刑ノ期滿免除トナリタル時ニハ其ノ罪人ノ捕ヘラレタル日ヨリ起算スナ  
リ若シ重立タル刑ハ免ルシテ只ダ監視ノ三ニ付シタル場合ニテハ其ノ裁判  
ノ確定日ヨリ起算スベシ

ハ重立タル刑ノ期限ノ終リタル日ヨリ起算ス  
刑ノ期滿免除トナリタル時ニハ其ノ罪人ノ捕ヘラレタル日ヨリ起算スナ  
リ若シ重立タル刑ハ免ルシテ只ダ監視ノ三ニ付シタル場合ニテハ其ノ裁判  
ノ確定日ヨリ起算スベシ

ハ重立タル刑ノ期限ノ終リタル日ヨリ起算ス  
刑ノ期滿免除トナリタル時ニハ其ノ罪人ノ捕ヘラレタル日ヨリ起算スナ  
リ若シ重立タル刑ハ免ルシテ只ダ監視ノ三ニ付シタル場合ニテハ其ノ裁判  
ノ確定日ヨリ起算スベシ

ハ重立タル刑ノ期限ノ終リタル日ヨリ起算ス  
刑ノ期滿免除トナリタル時ニハ其ノ罪人ノ捕ヘラレタル日ヨリ起算スナ  
リ若シ重立タル刑ハ免ルシテ只ダ監視ノ三ニ付シタル場合ニテハ其ノ裁判  
ノ確定日ヨリ起算スベシ

ハ重立タル刑ノ期限ノ終リタル日ヨリ起算ス  
刑ノ期滿免除トナリタル時ニハ其ノ罪人ノ捕ヘラレタル日ヨリ起算スナ  
リ若シ重立タル刑ハ免ルシテ只ダ監視ノ三ニ付シタル場合ニテハ其ノ裁判  
ノ確定日ヨリ起算スベシ

ハ重立タル刑ノ期限ノ終リタル日ヨリ起算ス  
刑ノ期滿免除トナリタル時ニハ其ノ罪人ノ捕ヘラレタル日ヨリ起算スナ  
リ若シ重立タル刑ハ免ルシテ只ダ監視ノ三ニ付シタル場合ニテハ其ノ裁判  
ノ確定日ヨリ起算スベシ

ハ重立タル刑ノ期限ノ終リタル日ヨリ起算ス  
刑ノ期滿免除トナリタル時ニハ其ノ罪人ノ捕ヘラレタル日ヨリ起算スナ  
リ若シ重立タル刑ハ免ルシテ只ダ監視ノ三ニ付シタル場合ニテハ其ノ裁判  
ノ確定日ヨリ起算スベシ

ハ重立タル刑ノ期限ノ終リタル日ヨリ起算ス  
刑ノ期滿免除トナリタル時ニハ其ノ罪人ノ捕ヘラレタル日ヨリ起算スナ  
リ若シ重立タル刑ハ免ルシテ只ダ監視ノ三ニ付シタル場合ニテハ其ノ裁判  
ノ確定日ヨリ起算スベシ

ハ重立タル刑ノ期限ノ終リタル日ヨリ起算ス  
刑ノ期滿免除トナリタル時ニハ其ノ罪人ノ捕ヘラレタル日ヨリ起算スナ  
リ若シ重立タル刑ハ免ルシテ只ダ監視ノ三ニ付シタル場合ニテハ其ノ裁判  
ノ確定日ヨリ起算スベシ

ハ重立タル刑ノ期限ノ終リタル日ヨリ起算ス  
刑ノ期滿免除トナリタル時ニハ其ノ罪人ノ捕ヘラレタル日ヨリ起算スナ  
リ若シ重立タル刑ハ免ルシテ只ダ監視ノ三ニ付シタル場合ニテハ其ノ裁判  
ノ確定日ヨリ起算スベシ

ハ重立タル刑ノ期限ノ終リタル日ヨリ起算ス  
刑ノ期滿免除トナリタル時ニハ其ノ罪人ノ捕ヘラレタル日ヨリ起算スナ  
リ若シ重立タル刑ハ免ルシテ只ダ監視ノ三ニ付シタル場合ニテハ其ノ裁判  
ノ確定日ヨリ起算スベシ



亦同シ

第二章

監視

第二十一條

監視ハ至刑ノ終リタル後仍ホ將來ヲ豫メスル爲メ警察官吏ヲシテ犯人ノ行狀ヲ監視セシムル者トス

第二十二條

監視ニ付ヌ可キ者豫メ其住所ヲ定メシメ至刑ノ終リタル時典獄ヨリ放逐ノ警察所

第四十一條

監視ニ付セラレタル者其情狀ニ因リ行政ノ處分ヲ以テ假シ監視ヲ免スルコトヲ得

第四十二條

附加ノ罰金ハ之ヲ宣告ス若シ一月内ニ納完セサル時ハ第二十七條ノ例ニ照シ輕禁錮ニ換ヘ至刑滿限ノ後之ヲ執行ス

第四十三條

左ニ記載シタル物件ハ宣告シテ官ニ沒收ス但法律規則ニ於テ別ニ沒收ノ例ヲ定メタル者ハ各其法律規則ニ從フ

一法律ニ於テ禁制シタル物件

二犯罪ノ用ニ供シタル物件

三犯罪ニ因テ得タル物件

第四十四條

法律ニ於テ禁制シタル物件ハ何人ノ所有ヲ問ハス之ヲ沒收ス犯罪ノ用ニ供シ及ヒ犯罪ニ因テ得タル物件ハ犯人ノ所有ニ係リ又ハ所有主ナキ時ノ外之ヲ沒收スルコトヲ得

第四節 徵價處分

第四十五條

刑事ノ裁判費用ハ其全部又ハ幾分ヲ犯人ニ科ス但其費用ノ額ハ別ニ規則ヲ以テ之ヲ定ム

第四十六條

犯人刑ニ處セラレ又ハ放免セラレト雖尼被害者ノ請求ニ對シ賠償ノ還給損害ノ賠償ヲ免カルコトヲ得

第二十三條

犯人ヲ警察所ニ護送スル時ハ其監視ノ起算滿期ヲ記載シタル文書及ビ刑名宣告書ノ附本ヲ附ス可シ



十五 年太 政官 第四 十二 号布 告三 刑罰 七

第二十四條 犯人ノ住居違 地ニ在テ一日 程ヲ過クル者 八典獄指クバ 檢察官ヨリ先 ヲ最近ノ警察 所ニ護送シ其 警察所ヨリ住 居ノ地ノ警察 所ニ送致ス可 シ

第四十七條 數人共犯ニ係ル裁判費用贖物ノ還給損害ノ賠償ハ共犯人ヲシテ之ヲ連帶セシム

第四十八條 裁判費用贖物ノ還給損害ノ賠償ハ被害者ノ請求ニ因リ刑事裁判所ニ於テ之ヲ審判スルコトヲ得若シ贓物犯人ノ手ニアル時ハ請求ナシト雖モ直チニ之ヲ被害者ニ還付ス

第五節 刑罰計算 刑罰ノ年限ハ何年ニ當ルトイフ

第四十九條 刑罰ヲ計算スルニ一日ト稱スルハ二十四時ヲ以テシ一月ト稱スルハ三十日ヲ以テシ一年ト稱スルハ曆ニ從フ

第五十條 刑ハ裁判確定シタル後ニ非サレハ之ヲ執行スルコトヲ得

犯人到着ノ日 直チニ之ヲ其 地ノ警察所ニ 送中車故アリ 途滞シタル 時ハ第三十一 條初ニ從フ可 人送致ス時第 十三條ニ記載 シタル書類ヲ 其地ノ警察所 二送送スベシ 第二十六條 犯人住居ノ地 ノ警察所ニ於 テハ監視ノ期 限間遵守ス可 カ七監視ノ票

第五十一條 刑期ハ刑名宣告ノ日ヨリ起算ス若シ上訴ヲ爲シタル者ハ左ノ例ニ從フ

一 犯人自ラ上訴シテ其上訴正當ナル時ハ前判宣告ノ日ヨリ起算ス若シ其上訴不當ナル時ハ後判宣告ノ日ヨリ起算ス

二 檢察官ノ上訴ニ係ル者ハ其上訴正當ナルト否トヲ分タス前判宣告ノ日ヨリ起算ス

三 上訴中保釋ヲ得又ハ責付セラレタル者ハ其日數ヲ刑期ニ算入スルコトヲ得

其ノ保釈責任中ノ日數ハ期限ノ内ヘ加ヘザルナリ



ノ下付ス可シ  
第二十七條 監視ニ付セラレタル者ハ其期限ノ左ノ條件ヲ遵守ス可シ  
一 毎月二度所轄ノ警察所ニ到リ其謹慎ナルヲ表シ監視ノ票ヲ出シ官吏ノ認印ヲ受クベシ但疾病又ハ已ムト得サル事故アリテ警察所ニ到ルノ能ハサル時ハ其事由ヲ届出ツ

第五十二條 刑期限内逃走シ再ビ捕ニ就キタル者ハ其逃走ノ日數ヲ除キ前後受刑ノ日ヲ計算ス  
後ノ日數トヲ算入スルナリ  
○第六節 假出獄  
假出獄ノ符ヒ正シク能ク心ヲ履メテ良キニ入りタル者ニ之レヲ

第五十三條 重罪輕罪ノ刑ニ處セラレタル者獄則ヲ遵守シ峻改ノ狀アル時ハ其刑期四分ノ三ヲ經過スルノ後行政ノ處分ヲ以テ假ニ出獄ヲ許ス可ト得  
無期徒刑ノ囚ハ十五年ヲ經過スルノ後亦同シ  
流刑ノ囚ハ第二十一條ニ照シ幽閉ヲ免スルノ外假出獄ノ例ヲ用ヒス

第五十四條 徒刑ノ囚ハ假出獄ヲ許サルト雖モ仍ホ島地ニ居住セシム  
送ラレハモノナリ故ニ假リニ出獄ヲ許サルハトモ内地ヘ歸ルコトナラズ夫張リ島地ニ居住セシムルコトハセラル

第五十五條 假出獄ヲ許サレタル者ハ行政ノ處分ヲ以テ治産ノ禁ノ幾分ヲ免スルヲ得但本刑期限内特別ニ定メタル監視ニ付ス  
ハ其ノ身ノ酒許ノタメ政府ノ取計ヒニヨリテ已レ自分ノ財產ノ内ノ何種カヲ免ズルコトヲ得ルナリ去レドモ元トノ仕置ノ期限ノ間ハ別ニ定メタル監視ニハ附スルナリ刑法附則第三章

第五十六條 假出獄中更ニ重罪輕罪ヲ犯シタル者ハ直チニ出獄ヲ停止シ出獄中ノ日數ハ刑期ニ算入スルヲ得ヌ  
假リニ牢屋ヲ出デタル時ニ更ニ重罪又ハ牢屋ニ入レ出獄中ノ日數ヲ算入スルナリ  
期限内ニ加ヘズシテ切リ捨テルナリ

第五十七條 刑期限内更ニ重罪輕罪ヲ犯シタル者ハ假出獄ヲ許サス  
犯スモノハ心ヲ改ムルコトナキハ勿論ニテ決シテ善キ行ヒトナル見送三十キエハ決シテ假リニ出スコトハ許サザルナリ  
第七節 期滿免除  
モノ夫々ノ期限ヲ過クレバ罪ヲ免サルハコトヲ云フナ

刑法第二編

可シ  
二 酒宴遊興ノ席ニ會シ又ハ群集ノ場所ニ參會スルヲ許サズ  
三 事故アリテ其住居ヲ轉移セントスル時ハ警察所ニ申請シ許可ヲ受ク可シ  
四 檀ニ他ノ地方ニ旅行スルヲ許サズ  
若シ已ムト得サル事故アル時ハ其事由ヲ警察所ニ具申シ許可ヲ受

可シ  
二 酒宴遊興ノ席ニ會シ又ハ群集ノ場所ニ參會スルヲ許サズ  
三 事故アリテ其住居ヲ轉移セントスル時ハ警察所ニ申請シ許可ヲ受ク可シ  
四 檀ニ他ノ地方ニ旅行スルヲ許サズ  
若シ已ムト得サル事故アル時ハ其事由ヲ警察所ニ具申シ許可ヲ受

可シ  
二 酒宴遊興ノ席ニ會シ又ハ群集ノ場所ニ參會スルヲ許サズ  
三 事故アリテ其住居ヲ轉移セントスル時ハ警察所ニ申請シ許可ヲ受ク可シ  
四 檀ニ他ノ地方ニ旅行スルヲ許サズ  
若シ已ムト得サル事故アル時ハ其事由ヲ警察所ニ具申シ許可ヲ受

可シ  
二 酒宴遊興ノ席ニ會シ又ハ群集ノ場所ニ參會スルヲ許サズ  
三 事故アリテ其住居ヲ轉移セントスル時ハ警察所ニ申請シ許可ヲ受ク可シ  
四 檀ニ他ノ地方ニ旅行スルヲ許サズ  
若シ已ムト得サル事故アル時ハ其事由ヲ警察所ニ具申シ許可ヲ受

可シ  
二 酒宴遊興ノ席ニ會シ又ハ群集ノ場所ニ參會スルヲ許サズ  
三 事故アリテ其住居ヲ轉移セントスル時ハ警察所ニ申請シ許可ヲ受ク可シ  
四 檀ニ他ノ地方ニ旅行スルヲ許サズ  
若シ已ムト得サル事故アル時ハ其事由ヲ警察所ニ具申シ許可ヲ受

可シ  
二 酒宴遊興ノ席ニ會シ又ハ群集ノ場所ニ參會スルヲ許サズ  
三 事故アリテ其住居ヲ轉移セントスル時ハ警察所ニ申請シ許可ヲ受ク可シ  
四 檀ニ他ノ地方ニ旅行スルヲ許サズ  
若シ已ムト得サル事故アル時ハ其事由ヲ警察所ニ具申シ許可ヲ受

可シ  
二 酒宴遊興ノ席ニ會シ又ハ群集ノ場所ニ參會スルヲ許サズ  
三 事故アリテ其住居ヲ轉移セントスル時ハ警察所ニ申請シ許可ヲ受ク可シ  
四 檀ニ他ノ地方ニ旅行スルヲ許サズ  
若シ已ムト得サル事故アル時ハ其事由ヲ警察所ニ具申シ許可ヲ受



第二十八條 監視ノ期限間ハ警察官吏時宜ニ因リ其家宅ニ臨檢スルヲ有ル可シ

第二十九條 警察所ニ於テ住居ノ轉ズルヲ許可シタルキハ其事由ヲ轉任ノ地ノ警察所ニ通知シ第二十三條ニ記載シタル書類ヲ遞送ス可シ

第三十條 他ノ地方ニ旅行

第五十八條 刑ノ執行ヲ適レタル者法律ニ定メタル期限ノ經過スルニ因テ期滿免除ヲ得

第五十九條 正刑ハ左ノ年限ニ從テ期滿免除ノ得

- 一 死刑ハ三十年
- 二 無期徒流刑ハ二十五年
- 三 有期徒流刑ハ二十年
- 四 重懲役重禁獄ハ十五年
- 五 輕懲役輕禁獄ハ十年
- 六 禁錮罰金ハ七年
- 七 拘留料料ハ一年

スルノ許可シタルキハ其里程ヲ計リ先方ノ地ニ滞留スル時日ヲ算シ在復日數ヲ限定シテ旅券ヲ附與ス可シ

他人先方ノ地ニ到レバ其地ノ警察所ニ出テ旅券ヲ示シ官吏ノ認印ヲ受ケ限定ノ日數内ニ歸來リ直チニ旅券ヲ警察所ニ還納ス可シ

第三十一條 旅行中天災又

第六十條 剝奪公權停止公權及ヒ監視ハ期滿免除ヲ得ス

附加ノ罰金ハ主刑ト共ニ期滿免除ヲ得

沒收ハ五年ヲ經テ期滿免除ヲ得但禁制物ハ期滿免除ノ限ニ在ラス

第六十一條 期滿免除ハ刑ノ執行ヲ適レタル日ヨリ起算ス若シ捕ニ就キ再ヒ逃走シタル時ハ其逃走ノ日ヨリ起算シ闕席裁判ニ係ル時ハ其宣告ノ日ヨリ起算ス

第六十二條 刑ノ執行ヲ適レタル者ニ對シ逮捕ヲ命シタル時ハ最終ノ令狀ヲ出シタル日ヨリ期滿免除ヲ起算ス



ハ疾病等ニ因リ臨時滯留シタル時ハ事由ノ其地ノ警察所ニ具申シ官更ノ證書ヲ受ケ歸省ノ日旅券ニ添へ警察所ニ差出ス可シ

第三十二條 監視ニ付スル者任居ナク及ヒ引取人ナキ時ハ其期限間監獄中ノ別房ニ留置シ工業ヲ爲サシメ又ハ使役ニ供ス任居遠地ニ在

第八節 復権

復権トハ取り上ゲラレタル公権ヲ元トノ通りニ復へサレルヲイフナリ

第六十三條 公権ヲ剥奪セラレタル者ハ主刑ノ終リタル日ヨリ五年ヲ經過スルノ後其情狀ニ因リ將來ノ公権ヲ復スルコトヲ得

主刑ノ期滿免除ヲ得タル者ハ監視ニ附シタル日ヨリ五年ヲ經過スルノ後亦同

シテ公権ヲ取り上ゲラレタルモノハ重ナル刑ノ期限ノ終リタル日ヨリ五年ヲ經タラバ犯人ノ心入レ次第ニテ將來ノ公権ヲ元ノ如ク復スルコトヲ得ルナリ

○重直タル期滿免除ヲ得タルモノハ監視ニ付セラレタル日ヨリ五年ヲ過キ去リタナラバ前同様ニ權ヲ復へサルハコトヲ得ルナリ

第六十四條 大赦ニ因テ免罪ヲ得タル者ハ直チニ復権ヲ得特赦ニ因テ免罪ヲ得タル者ハ赦狀中記載スルニ非サレハ復権ヲ得ス

赦ニ因テ復権ヲ得タル者ハ自ら監視ヲ免シタル者トス

ナドノアリタル時罪人ノ罪ヲ免サレタル時ニハ言渡ハナクテモ公権ハ元トノ通りニ復ルモノナリサレドモ特赦トテ天子ノ御思召ニテ罪人ヲ免サレタル時ニハ其ノ赦スベキ書付ノ中ニ公権ヲ元トノ通り復スルコトヲ認メテナクバ復権スルノ限リニハアラザルナリ

大赦特赦ニテ公権ヲ復シタル日ハ監視モ言ハズシテ免セラルハモノナリ

第六十五條 復権ハ勅裁ニ非サレハ之ヲ得可カラズ

勅シテ得ルコト能ハヌモノナリ

第三章 加減例

加減例トハ罪ニヨリテ其ノ罪ヲ加ヘタリ又ハ其ノ罪ヲ減シタルリスルヲ云フナリ

第六十六條 法律ニ於テ刑ヲ加重減輕ス可キ時ハ後ノ數條ニ記載シタル例ニ照シテ加減ス但加ヘテ死刑ニ入ルコトヲ得ス

法律ニテ仕置ヲ加ヘテ重クシ減ジテ輕クスルニハ後々ノ條ニ記シア

第六十七條 重罪ノ刑ハ左ノ等級ニ照シテ加減ス

一 死刑

二 無期徒刑

三 有期徒刑

四 重懲役

五 輕懲役

第三十三條 監獄中ノ別房ニ留置シタル者限内引取人ヲ得又ハ任居ノ地ニ歸省スル資力ヲ得タル時ハ其地ニ送致シテ殘期ノ監視ヲ執行ヒシム可シ

第三十四條 刑期限内再ヒ罪ヲ犯シ初犯再犯共ニ監視ニ付ス可キ時又ハ監視ノ期



限間再ビ罪ヲ犯シ更ニ監視ニ付ヌ可キ時ハ並ニ至刑満限ノ後前後ノ期限ヲ通算シテ監視ヲ執行ス可シ

第三十五條 罰金ヲ禁錮ニ換ヘタル者監視ニ付ヌ可キ其禁錮ノ日數ヲ監視ノ期限ニ算入ヌ可シ

第三十六條 監視ニ付ヒラレタル者其規則ヲ遵守シ候改ノ状アル時

第六十八條 国事ニ関スル重罪ノ刑ハ左ノ等級ニ照シテ加減ス  
凡如ク國ノ事ニ關係シテ犯シタル重キ罪ノ仕置ニハ左ノ順ヲ追フテ加ヘ又ハ減ズルナリ

一 死刑

二 無期流刑

三 有期流刑

四 重禁錮

五 輕禁錮

第六十九條 輕懲役ニ該ル者減輕ス可キ時ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處スルヲ以テ一等ト爲ス  
輕懲役ノ仕置ト爲スベキモノハ一等減輕シテ輕クスル時ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ナル仕置トナス

第七十條 禁錮罰金ニ該ル者減輕ス可キ時ハ各本條ニ記載シタル刑期金額ノ四分一ヲ減スルヲ以テ一等ト爲シ其加重ス可キ時ハ亦四分一ヲ加フルヲ以テ一等ト爲ス

輕罪ノ刑ハ加ヘテ重罪ニ入ルヲ得ヌ但禁錮ハ加ヘテ七年ニ至ルヲ得  
仕置ナル禁錮罰金ヲ減輕シテ輕クスルニハ夫々ノ簡條々々ニ載セタル仕置ノ期限ヲ罰金ノ額ノ四ツ割ノ一分ヲ減ズルヲ一等ト爲ストスルナリ加ヘテ重クスルモ同ジコトナリトス 輕罪ノ仕置ハ加ヘテ重クスルトモ重罪ニテテ上ラスコトハナラズ去レドモ五年限リノ禁錮ヲ七年ニテ延べルコトハ出スル

ハ警察官ヨリ其事實ヲ上申シ内務司法兩卿ノ命ヲ受ケテ假ニ監視ヲ得免スルヲ得

第三十七條 假ニ監視ヲ免セラレタル者住居ヲ轉移スル時ハ第二十七條第三及第七條第二十九條ノ例ニ從フ可シ

第四章 刑事裁判費用

第四十八條 豫審公判ニ付申出シタル

第七十一條 禁錮ヲ減盡シタル時ハ拘留ニ處シ罰金ヲ減盡シタル時ハ科料ニ處ス  
禁錮ヲ減シテ十一日以下トナレバ拘留ノ仕置トナシ罰金ヲ減シテ二日以下トナレバ科料ニ處分スルコト

第七十二條 拘留科料ニ該ル者加減ス可キ時ハ禁錮罰金ノ例ニ照シ其四分一ヲ加減スルヲ以テ一等ト爲ス



證人醫師鑑定  
人通譯人翻譯  
八ニ給与スベ  
キ日當旅費止  
宿料及ビ第五  
十一條第五十  
二條ニ記載シ  
タル者ヲ以テ  
刑事ノ裁判費  
用ト爲ス

第四十九條  
日當旅費及ビ  
止宿料ノ金額  
左ノ如シ  
○日當五十錢  
○旅費一里十  
錢○止宿料一  
宿二十五錢  
住居三里以外  
ノ地ニ在ル者

違警罪ノ刑ハ加ヘテ輕罪ニ入ルヲ得ヌ但拘留ハ加ヘテ十二日ニ至ルヲ得  
減シテ一日以下ニ降スヲ得ヌ科料ハ加ヘテ二圓四十錢ニ至ルヲ得減シテ  
五錢以下ニ降スヲ得ヌ

第七十三條 禁錮拘留ヲ加減スルニ因テ其期限ニ零數ヲ生シ一日ニ滿サル時ハ  
之ヲ除棄ス

第七十四條 附加ノ罰金ハ主刑ニ從テ加減シ其金額ノ四分ノ一ヲ加減スルヲ以  
テ一等ト爲ス若シ減盡シタル時ハ止々主刑ヲ科ス

第四章 不論罪及ビ減輕

刑法第一編

ハ往復旅費ヲ  
給シ及ビ呼出  
ノ地ニ滞留中  
ハ日當並ニ止  
宿料ヲ給ス其  
三里未満ノ地  
ニ在ル者ハ旅  
費止宿料ヲ給  
セズ

第五十條 證  
人ノ日當旅費  
及ビ止宿料ハ  
本人ノ請求ヲ  
ルニ非サレハ  
之ヲ給与セズ

第五十一條  
證人日當ヲ以  
テ生業トスル  
者治罪法第百  
九十條ニ從ヒ

○第一節 不論罪及ビ有恕減輕

第七十五條 抗拒ヌ可カラサル強制ニ遇ヒ其意ニ非サルノ所爲ハ其罪ヲ論セス  
天災又ハ意外ノ變ニ因リ避ク可カラサル危難ニ遇ヒ自己若クハ親屬ノ身體ヲ  
防衛スルニ出タル所爲亦同シ

第七十六條 本屬長官ノ命令ニ從ヒ其職務ヲ以テ爲シタル者ハ其罪ヲ論セス  
第七十七條 罪ヲ犯ス意ナキノ所爲ハ其罪ヲ論セス但法律規則ニ於テ別ニ罪  
ヲ定メタル者ハ此限ニ在ラス

罪ト爲ル可キ事實ヲ知ラスシテ犯シタル者ハ其罪ヲ論セス



償金ヲ要求スル時ハ旅費日當ノ外若干ノ償金ヲ給スルコトアル可シ

第五十二條 解刑令密等ノ費用及び數多ノ時間ヲ要スル翻譯料ノ類ハ自當ノ外別ニ之ヲ給与ス可シ

第五十三條 裁判費用ノ宜告ヲ受ケ未ダ之ヲ納メサル前ニ於テ犯人身死スル時ハ其相續人ヨリ

ガワカラズシテ犯シタル罪ハ開ハヌコトトナス

罪重ナル可クシテ犯ス時知ラサル者ハ其重キニ從テ論スルコトヲ得ス

出シテ罪ヲ犯ストモ其ノ犯ス時ニ輕キヲ犯ス目論見ナリテニ輕ハズ重キ罪ヲ犯シタル時ニハ其ノ犯ス心算ナリシ輕キ罪ニ開フベキモノナリトナス

法律規則ヲ知ラサルヲ以テ犯スノ意ナシト爲ストヲ得ス

第七十八條 罪ヲ犯ス時知覺精神ノ喪失ニ因テ是非ヲ弁別セサル者ハ其罪ヲ論セス

第七十九條 罪ヲ犯ス時十二歳ニ滿サル者ハ其罪ヲ論セス但滿八歳以上ノ者ハ

精狀ニ因リ滿十六歳ニ過キサル時間之ヲ懲治場ニ留置スルコトヲ得

第十條 罪ヲ犯ス時滿十二歳以上十六歳ニ滿サル者ハ其所爲是非ヲ弁別シタルナリ

之ヲ徵收ス

第五十四條 贓物犯人ノ手ニ在ル時ハ直ニ被害者ニ選附スト雖モ若シ贖シテ他人ノ手ニ在ル時ハ被害者ノ請求ニ因リ還給セシムル者トス

第五十五條 贓物轉賣シテ他人ノ手ニ在ル時公商ニ由リ買取シタル物品ハ其公商

ルト否トヲ審察シ弁別ナクシテ犯シタル時ハ其罪ヲ論セス但精狀ニ因リ滿十歳ニ過キサル時間之ヲ懲治場ニ留置スルコトヲ得

若シ弁別アリテ犯シタル時ハ其罪ヲ有恕シテ本刑ニ二等ヲ減ス

第十條 罪ヲ犯ス時滿十六歳以上二十歳ニ滿サル者ハ其罪ヲ有恕シテ本刑ニ一等ヲ減ス

第十一條 罪ヲ犯ス時滿十六歳以上二十歳以下ニテアリタル時ハ先ヅ其惡事ノ輕重ヲ辨別シタルカ否ヤカテ吟味シ辨別セズシテ爲シタルトキニハ罪ヲ問ハズシテ其ノ心算ニヨリ懲治場ニ入レルモノトナス又々惡事ヲ辨別シテ犯シタルモノナル時ハ當リ筋ノ罪カラニ等ヲ減スルナリ

第十二條 瘖啞者罪ヲ犯シタル時ハ其罪ヲ論セス但精狀ニ因リ五年ニ過キサ

ル時間之ヲ懲治場ニ留置スルコトヲ得

第十三條 違警罪ハ滿十六歳以上二十歳ニ滿サル者ト雖モ其罪ヲ有恕スルコトヲ得



若クハ被害者ヨリ買取者ニ原價ヲ償ハサレバ直子ニ還給セシムルヲ得ズ  
 若シ公商ニヨラスシテ買取シタル物品ハ其還給ヲ拒ム  
 一ヲ得ズ但其買取者ハ賣者ニ對シ轉價ヲ求ムルヲ得  
 第五十六條 贓物ヲ受ケ又ハ典物トシテ受取タル者其贓物現在スル時ハ還給ヲ拒

滿十二歳以上十六歳ニ滿サル者ハ其罪ヲ宥恕シテ本刑ニ一等ヲ減ス十二歳ニ滿サル者及ヒ瘖啞者ハ其罪ヲ論セス  
 等ヲ減ズルコトハナス○十二歳ニ滿タサル者ハ其罪ヲ論スル時ハ其ノ罪ヲ問ハヌナリ  
 第八十四條 此節ニ記載スルノ外特別ノ不諭罪宥恕減輕ハ各本條ニ於テ之ヲ記載ス  
 此ノ節ノ中ニ載セアル外ニ特別ナル不諭罪ト宥恕減輕トハ夫々ノ箇條ニ依リテ之ヲ裁ス  
 ○第二節 自首減輕  
 己レガナシタル惡罪ヲ已レニテ應ルキコトナリト認ムルハ罪ヲ輕クスルコト云フ  
 第八十五條 罪ヲ犯シ事未タ發覺セサル前ニ於テ官ニ自首シタル者ハ本刑ニ一等ヲ減ス但謀殺殺二係ル者ハ自首減輕ノ限ニ在ラス  
 其ノ者ガ官ニ自ラ其惡事ヲ申出タル時ニハ當リ前ノ仕置ヨリ一等ヲ輕クスルコトナリモ人ヲ謀ツテ殺シタル人ヲ故ラニ殺シタル者ハ輕クスルコトナキ  
 第八十六條 財產ニ對スル罪ヲ犯シタル者自首シテ其贓物ヲ還給シ損害ヲ賠償シタル時ハ自首減輕ノ外仍ホ本刑ニ二等ヲ減ス其全部ヲ還價セスト雖モ半數以上ヲ還價シタル時ハ一等ヲ減ス  
 其ノ者ハ其贓物ヲ出シタル時ハ前條ノ如ク一等ヲ輕クスル上ニ又ハ二等ヲ輕クスルナリ物品又ハ金錢ナドヲ皆ナマテ還價セズ損失ヲ皆ナマテ還價ハズトモ半數カラ上ヲ還價シ又ハ贓物ヲ前條ノ如ク一等ヲ輕クスル上ニ又タ一等ヲ輕クスルナリ  
 第八十七條 財產ニ對スル罪ヲ犯シ被害者ニ首服シタル者ハ官ニ自首スルト同ク前二條ノ例ニ照シテ處断ス  
 物品ヤ金錢ナドニ對シテ罪ヲ犯シタル者書テ首スルト同ジモノナリトシテ前二條ノ如ク處分セラルハナリ  
 第八十八條 此節ニ記載スルノ外本條別ニ自首ノ例ヲ掲ケタル者ハ各其本條ニ從フ  
 此ノ節ノ中ニ載セアル外ニ追々夫々ノ箇條中ニ自首ノコトヲ載セアルハ官ニ自首スルノ例ニ依リテ之ヲ裁ス  
 第三節 酌量減輕  
 罪人ノ惡罪ノ爲シカタク其心底トテ酌量減輕シテ罪ヲ輕クスルコト云フ  
 第八十九條 重罪輕罪違背罪ヲ分タス所犯情狀原諒ス可キ者ハ酌量シテ本刑ヲ減輕スルヲ得

ムヲ得ズ但典物トシテ受取タル者ハ典主ニ對シ轉價ヲ求ムルヲ得  
 第五十七條 贓物交換シテ現在スル時ハ公商ニ由ルト否トヲ區別シ第五十五條ノ例ニ從テ處分ス可シ  
 第五十八條 贓物已ニ費用シタル時又ハ識別ス可カラサル時又ハ其所在ノ知レザ

シタル時ハ自首減輕ノ外仍ホ本刑ニ二等ヲ減ス其全部ヲ還價セスト雖モ半數以上ヲ還價シタル時ハ一等ヲ減ス  
 其ノ者ハ其贓物ヲ出シタル時ハ前條ノ如ク一等ヲ輕クスル上ニ又ハ二等ヲ輕クスルナリ物品又ハ金錢ナドヲ皆ナマテ還價セズ損失ヲ皆ナマテ還價ハズトモ半數カラ上ヲ還價シ又ハ贓物ヲ前條ノ如ク一等ヲ輕クスル上ニ又タ一等ヲ輕クスルナリ  
 第八十七條 財產ニ對スル罪ヲ犯シ被害者ニ首服シタル者ハ官ニ自首スルト同ク前二條ノ例ニ照シテ處断ス  
 物品ヤ金錢ナドニ對シテ罪ヲ犯シタル者書テ首スルト同ジモノナリトシテ前二條ノ如ク處分セラルハナリ  
 第八十八條 此節ニ記載スルノ外本條別ニ自首ノ例ヲ掲ケタル者ハ各其本條ニ從フ  
 此ノ節ノ中ニ載セアル外ニ追々夫々ノ箇條中ニ自首ノコトヲ載セアルハ官ニ自首スルノ例ニ依リテ之ヲ裁ス  
 第三節 酌量減輕  
 罪人ノ惡罪ノ爲シカタク其心底トテ酌量減輕シテ罪ヲ輕クスルコト云フ  
 第八十九條 重罪輕罪違背罪ヲ分タス所犯情狀原諒ス可キ者ハ酌量シテ本刑ヲ減輕スルヲ得



凡時ハ損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得  
 第五十九條 人ノ名譽若クハ殺傷ニ関シタル損害其他犯罪ノタメ現生シタル損害ハ其賠償ヲ請求スルコトヲ得但失火ハ此限ニ在ラズ  
 第六十條 贓物ノ還給損害ノ賠償ハ其犯罪ヲ審判スル刑事裁判所ニ請求スルコトヲ得若シ其審

法律ニ於テ本刑ヲ加重シ又ハ減輕ス可キ者ト雖モ其酌量ス可キ時ハ仍ホ之ヲ減輕スルコトヲ得  
 第九十條 酌量減輕ス可キ者ハ本刑ニ一等又ハ二等ヲ減ス  
 前ノ仕置ヨリ一等カ二等カヲ減ズルコトヲナス  
 第五章 再犯加重  
 第九十一條 先ニ重罪ノ刑ニ處セラレタル者再犯重罪ニ該ル時ハ本刑ニ一等ヲ加フ  
 第九十二條 先ニ重罪輕罪ノ刑ニ處セラレタル者再犯輕罪ニ該ル時ハ本刑ニ一等ヲ加フ  
 第九十三條 先ニ違警罪ノ刑ニ處セラレタル者再犯違警罪ニ該ル時ハ本刑ニ一等ヲ加フ但一年内再ヒ其違警罪裁判所ノ管轄地内ニ於テ犯シタル時ニ非サレ

刑已ニ終リタル後ハ民事裁判所ニ非サレバ之ヲ請求スルコトヲ得ス  
 第六十一條 刑事裁判所ニ於テ贓物ノ還給損害ノ賠償ヲ請求スル者ハ通常ノ文書又ハ言語ヲ以テ之ヲ為スルコトヲ得其民事裁判所ニ請求スル者ハ民事訴訟ノ程式ニ從フ可シ  
 第六十二條 贓物ノ還給損害

ハ再犯ヲ以テ論スルコトヲ得ス  
 第九十四條 再犯加重ハ初犯ノ裁判確定ノ後ニ非サレハ之ヲ論スルコトヲ得ス  
 第九十五條 刑期限内再ヒ罪ヲ犯スニ因リ刑ヲ宣告シタル時ハ先ツ其定役ニ服ス可キ者ヲ執行シ定役ニ服セサル者ヲ後ニス若シ初犯再犯共ニ定役ニ服スル刑ニ該ル時又ハ共ニ定役ニ服セサル刑ニ該ル時ハ先ツ其重キ者ヲ執行ス  
 罰金料ニ該ル者ハ順序ニ拘ハラヌ各之ヲ徴收ス  
 第九十六條 陸海軍裁判所ニ於テ判決ヲ經タル者再ヒ重罪輕罪ヲ犯シタル時ハ初犯ノ罪法律ニ從ヒ處断シタル者ニ非サレハ再犯ヲ以テ論スルコトヲ得ス  
 初犯ノ罪法律ニ從ヒ處断シタル者ニ非サレハ再犯ヲ以テ論スルコトヲ得ス



害ノ賠償ハ本  
犯死スル時ハ  
其相続人ニ對  
シ之ヲ要求ス  
ルヲ得

第六十三條  
贓物ノ還給損  
害ノ賠償ノ宜  
告ヲ受ケタル  
モノ還給賠償  
セザル時ハ被  
害者ヨリ更ニ  
民事裁判所ニ  
身代限ノ処分  
ヲ請求スルヲ  
得

第三章  
假出獄及ヒ  
特別監視

ハ漸重ノ裁判所ニテ裁許ヲ受ケタル者ガ再ヒ重罪又ハ輕罪ヲ犯シタル時ニ  
當リテ初メニ犯シタル罪ガ通常ノ法律ニテ仕置シタルモノデナクテハ再犯  
ナリトテ罪ヲ重クナ  
スベカラザルナリ

第九十七條 大赦因テ免罪ヲ得タル者ハ再ヒ罪ヲ犯スト雖再犯ヲ以テ論スル  
ヲ得ス 大赦ハ罪モ仕置モ何モ赦モ得ヘテ仕置フモノナルユヘ大赦ニテ罪  
ノ免サレタル者ハ再ヒ犯ストモ重ク加ヘザルナリ

第九十八條 三犯以上ノ者ト雖凡其加重ノ法ハ再犯ノ例ニ同シ 三度ビヨリ上  
タリトモ其ノ罪ヲ加ヘテ重クス  
凡法ハ再犯ニ准フベキモノトス

第六章

加減順序

前ニモ説ク如ク加ヘタリ減シタリスルノ其ノ次第順序  
ヲ定ムルコトヲ示ス

第九十九條 犯罪ノ情狀ニ因リ總則ニ照シ同時ニ本刑ヲ加重減輕ス可キ時ハ左  
ノ順序ニ從テ其刑名ヲ定ム但從犯及ヒ未遂犯罪ノ減等其他各本條ニ記載スル  
特別ノ加重減輕ハ其加減シタル者ヲ以テ本刑ト爲ス

一 再犯加重

二 宥恕減輕

三 自首減輕

四 酌量減輕

罪ヲ犯シタル時ニヨリテ加ヘテ重クスルモ減シテ輕クスルモ  
一時ニ重ク来リタル時ニハ此ノ四ツノ順序ヲ以テ加ヘタリ又ハ減ジ  
タリスルコトハナス 惡事ヲ爲ス手傳ヒシタル者ヤ惡事ノ爲サントシテ仕  
遂ゲザル者ノ罪ヲ減ジ其ノ外格別ニ加ヘタリ減ジタリスルコトノアル箇條  
アルモノハ夫々加ヘタリ減ジタリシタル者ヲ本トシテ此ノ條ノ順序ニ依  
ルコトハス

第七章

數罪併發

數々ノ惡事ガ一度ニ發覺シタル場合ノ處分ヲ示スナ  
ルコトハス

第一百條 重罪輕罪ヲ犯シ未タ判決ヲ經スニ罪以上俱ニ發シタル時ハ一ノ重キニ  
從テ處斷ス

重罪ノ刑ハ刑期ノ長キ者ヲ以テ重ト爲シ刑期ノ等シキ者ハ定役アル者ヲ以テ  
重ト爲ス

輕罪ノ刑ハ其所犯情狀最重キ者ニ從テ處斷ス 重罪又ハ輕罪ヲ犯シ其ノ  
刑ノ輕キ者ハ其所犯情狀最重キ者ニ從テ處斷ス

第三十八條 假出獄ヲ許ス  
可キ者アル時  
ハ典獄ヨリ其  
犯人ノ行狀及  
ビ刑名入獄ノ  
年月ヲ記載シ  
假ニ出獄ヲ許  
サレンコトヲ内  
務司法衙門ニ  
上申シテ許可  
ヲ受クベシ  
第三十九條 假出獄ヲ許シ  
タル時ハ典獄  
ヨリ其証票ヲ  
犯人ニ下付ス  
可シ  
第四十條 假出獄證票ニハ



左ノ條件ヲ記載ス可シ  
一 本人ノ屬籍氏名年齡住所罪名刑名及ヒ處刑ノ年月日  
二 殘期何年  
第二十七條  
罰金ハ裁判確定ノ日ヨリ一月内ニ納完セザルシムル若シ限内納完セザル者ハ一四ノ一日ニ折算シ之ヲ輕禁錮ニ換テ其一四ニ滿サル者ト雖モ

**第一條 違背罪ニ罪以上俱ニ發シタル時ハ各其刑ヲ科ス若シ重罪又ハ輕罪ト**

俱ニ發シタル時ハ一ノ重キニ從フ  
トモ違背罪ガ重罪又ハ輕罪ト俱ニ發シタル場合ニハ其ノ重キ一ノ罪ヲ仕置スルモノトス

**第二條 一罪前ニ發シ已ニ判決ヲ經テ餘罪後ニ發シ其輕ク若クハ等シキ者ハ**

之ヲ論セス其重キ者ハ更ニ之ヲ論シ前發ノ刑ヲ以テ後發ノ刑ニ通算ス但前發ノ刑罰金科料ニ該リ已ニ納完シタル者ハ第二十七條ノ例ニ照シ折算シテ後發ノ刑期ニ通算ス

**若シ前發ノ罪ヲ判決スル時未タ發セサル罪再犯ノ罪ト俱ニ發シタル者ハ其再**

犯ト比較シ一ノ重キニ從ヒ前發ノ刑ヲ通算セス  
ノ外ノ惡事ガ發覺シタルニ其ノ罪ハ已ニ仕置ヲ受ケテアル罪ト同シ位ノモノナル者又ハ輕キカナル時ハ別ニ仕置ヲサズシテ罪ヲ問ハザルナリ但シ其ノ罪ハ已ニ仕置ヲ受ケテアル罪ヨリ重キ時ハ初メノ罪ト算當シテ重キダケノ仕置ヲ加ヘルナリ 初メノ罪ガ罰金ガ納付カニテ已ニ納メ済ミトナリタル時ナラバ其ノ一四ノ一日ノ算當ニシテ前ノ如ク重キダケヲ加ヘルナリ 若シ初ノ罪ノ發覺ノ終リタル時ニ外ノ罪ハ發覺セズシテ再犯ノ罪ト同時

仍ホ一日ニ計算ス  
何月何日間假出獄ヲ許ス  
三 假出獄中ハ特別監視ニ付ス可キ事  
四 假出獄中更ニ重罪ヲ犯シタル時ニハ直チニ出獄ヲ停止シ出獄中ノ日數ヲ刑期ニ算入セザル事  
第四十一條  
重罪ノ刑ニ處テラレタル者假出獄中自ラ財産ヲ治メ若

**第三條 數罪俱ニ發シ一ノ重キニ從フ時ト雖モ其沒收及ヒ徵償ノ處分ハ各本法ニ從フ**

數々ノ罪ガ一時ニ發覺シテ重キ一ノ罪ニ仕置スル場合トテモ取上ダベキ品物ヲ備ヒ出ルベキ物ナドハ夫々ノ箇條ニヨリテ別々ニ處分スルコト

**第八章 數人共犯**

一人以上數人ノ人ガ共ニ罪ヲ犯シタル時ノ處分ヲ示スモノナリ

**第一節 正犯**

自ラ手ヲ下シテ惡事ヲ爲シ又ハ人ヲ教へ唆カシテ惡事ヲ爲シタル者ヲ正犯ト云フ

**第四條 一人以上現ニ罪ヲ犯シタル者ハ皆正犯ト爲シ各自ニ其ノ刑ヲ科ス**

人以上ニテ共ニ惡事ニ手ヲ下シ罪ヲ犯シタル者ハ三ナコレヲ正犯ナリトシテ斷カニ其ノ仕置ヲ爲ス

**第五條 人ヲ教唆シテ重罪輕罪ヲ犯サシメタル者ハ亦正犯ト爲ス**

唆カシテ重罪又ハ輕罪ナドノ惡事ヲ犯サシメタル者ハ正犯ト爲スナリ

**第六條 正犯ノ身分ニ因リ別ニ刑ヲ加重ス可キ時ハ他ノ正犯從犯及ヒ教唆者**

ニ及ボスヲ得ス  
刑ヘバ子タルモノニ對シテ身體ニツキ惡事ヲ爲シ其ノ正犯トシル時ニ當リテ通常ノ人ヨリモ仕置ヲ重クスルモノトモ外々ノ罪



クバ職業ヲ営  
マントスル時  
ハ警察所ニ申  
請シ許可ヲ受  
ク可シ  
第四十二條  
假出獄ヲ許ス  
可キ者ハ豫メ  
其住所ヲ定メ  
シメ出獄ノ日  
典獄ヨリ其證  
票ノ謄本ヲ添  
ヘ第二十二條  
ノ例ニ依リ犯  
人ヲ護送シ特  
別監視ヲ執行  
セシム可シ  
第四十三條  
特別監視ニ付  
スル者ハ第二

ヲ同ジク犯シタル者ニマデ及ボ  
シテ重クスルコトハナラヌナリ

**第七條** 犯人ノ多數ニ因リ刑ヲ加重ス可キ時ハ教唆者ヲ算入シテ多數ト爲ス  
トテ得ス  
此ノ時ニハ教ヘ唆カシタルモノハ大抵ノ中ヘハ加ヘザルコトハナス

**第八條** 事ヲ指定シテ犯罪ヲ教唆スルニ當リ犯人教唆ニ兼シ其指定シタル以  
外ノ罪ヲ犯シ又ハ其現ニ行フ所ノ方法教唆者ノ指示シタル所ト殊ナル時ハ左  
ノ例ニ照シテ教唆者ヲ處断ス

一 所犯教唆シタル罪ヨリ重キ時ハ止々其指定シタル罪ニ從テ刑ヲ科ス  
二 所犯教唆シタル罪ヨリ輕キ時ハ現ニ行フ所ノ罪ニ從テ刑ヲ科ス

事ヲ教ヘ唆カシタルニ其ノ唆カサレタル人ハ其ノ教ヘテレタルヨリ外ノ  
罪ヲ犯シ又ハ實際ニ行フタル惡事ヲ教ヘテレタル惡事ト異ナリタル時ニ  
ハ其ノ教ヘ唆カシタル者ヲ次ノ如ク仕置スルナリ 犯シタル惡事ヲ教ヘ  
ラレタルヨリ重キ時ハ教唆者ハ教ヘタルダケノ仕置ニ止ル 犯シタル惡  
事ヲ教ヘラレタルヨリ輕キ時ハ教唆  
者ハ夫レダケノ仕置ニ止ルモノナリ

○第二節 從犯  
從犯ト云フ

刑法第一編

十三條第二十  
四條第二十五  
條第二十六條  
第二十九條第  
三十一條ノ例  
ヲ適用ス  
第四十四條  
特別監視ニ付  
セラレタル者  
ハ其期限間左  
之條件ヲ遵守  
ス可シ  
一 毎週間一  
度所轄ノ警察  
所ニ到リ其體  
慎ナルヲ表  
シ監視ノ票ヲ  
出シ官吏ノ認  
印ヲ受ク可シ  
但疾病又ハ已

**第九條** 重罪輕罪ヲ犯スヲ知テ器具ヲ給與シ又ハ誘導指示シ其他豫備ノ所  
爲ヲ以テ正犯ヲ幫助シ犯罪ヲ容易ナラシメタル者ハ從犯ト爲シ正犯ノ刑ニ一  
等ヲ減ス但正犯現ニ行フ所ノ罪從犯ノ知ル所ヨリ重キ時ハ止々其知ル所ノ罪  
ニ照シ一等ヲ減ス  
或ハ其ノ仕置ヲ示シタル其ノ外惡事ヲ爲ス用意ヲ爲シテ罪人ヲ欺ケ罪ヲ犯  
シ惡事ヲ爲スニ易カラシメタル者ハ從犯トシテ正犯ノ罪ヨリ一等ヲ輕クス  
但シ正犯ガ實際行フタル惡事ヲ從犯ノ知ル惡事ヨリ重キ時ニハ其ノ知リタ  
ルダケノ惡事ノ仕置ヲ爲スコトハス

**第十條** 身分ニ因リ刑ヲ加重ス可キ者從犯ト爲ル時ハ其重キニ從テ一等ヲ減  
ス

**正犯ノ身分ニ因リ刑ヲ減免ス可キ時ト雖モ從犯ノ刑ハ其輕キニ從テ減免スル  
トテ得ス**  
從犯ノ者ガ已レノ罪ノ輕重ニ照シテノ惡事ニテ其ノ罪ヲ加フベキ  
トナス 正犯ガ子ニ對シタル罪ノ如キモノニテ罪ヲ減シ又ハ免スベキ場合  
ニテモ從犯ハコレニ準ジテ減ズルコトハナラヌナリ

**第九章 未遂犯罪**



ムコヲ得ヤル  
車故アリテ警  
察所ニ到ルハ  
能ハザル時ハ  
其事由ヲ届出  
ツ可シ  
二 酒宴遊興  
ノ席ニ會シ又  
ハ群集ノ場所  
ニ參會スルコ  
ト許サズ  
三 車故アリ  
テ住居ノ轉移  
セントスル時  
ハ警察所ニ申  
請シ許可ヲ受  
ク可シ但他ノ  
府縣ニ轉移ス  
ルコト許サズ  
四 往復一日

第百十一條 罪ヲ犯サントシテ謀リ又ハ其豫備ヲ爲スト雖モ未タ其事ヲ行ハサル者ハ本條別ニ刑名ヲ記載スルニ非サレハ其刑ヲ科セズ

第百十二條 罪ヲ犯サントシテ已ニ其事ヲ行フト雖モ犯人意外ノ障礙若クハ外

第百十三條 重罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ前條ノ例ニ照シテ處斷ス

輕罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ本條別ニ記載スルニ非サレハ前條ノ例ニ照シテ處斷スルコトヲ得ス

第十章 親屬例  
第百十四條 此刑法ニ於テ親屬ト稱スルハ左ニ記載シタル者ヲ云フ  
一 祖父母及夫妻  
二 子孫及其配偶者  
三 兄弟姊妹及其配偶者  
四 兄弟姊妹ノ子及其配偶者  
五 父母ノ兄弟姊妹ノ子  
六 配偶者ノ祖父母  
七 配偶者ノ兄弟姊妹及其配偶者  
八 配偶者ノ兄弟姊妹ノ子  
九 配偶者ノ兄弟姊妹ノ子

程ヲ過クル地  
ニ旅行スルコ  
ト許サズ  
第四十五條  
特別監視ノ期  
限間ハ警察官  
吏時宜ニ因リ  
其家宅ニ臨檢  
スルコトアル可  
シ  
第四十六條  
假出獄ヲ許サ  
レタル者刑期  
満限ノ日ニ至  
レハ假出獄證  
票ヲ警察所ニ  
還納シ警察所  
ヨリ證票ヲ出  
シタル典獄ニ  
還送ス可シ

遂ゲザル者ハ其ノ  
罪ヲ問ハサルナリ  
第百十四條 此刑法ニ於テ親屬ト稱スルハ左ニ記載シタル者ヲ云フ  
一 祖父母及夫妻  
二 子孫及其配偶者  
三 兄弟姊妹及其配偶者  
四 兄弟姊妹ノ子及其配偶者  
五 父母ノ兄弟姊妹ノ子  
六 配偶者ノ祖父母  
七 配偶者ノ兄弟姊妹及其配偶者  
八 配偶者ノ兄弟姊妹ノ子  
九 配偶者ノ兄弟姊妹ノ子



至刑期限ノ後  
監視ニ付ヌ可  
キ悪人ナルキ  
ハ警察所ニ於  
テ第二章ノ例  
ニ從テ処分ス  
可シ  
第四十七條  
假出獄ヲ許ス  
可キ者任所ナ  
ク及び引取人  
ナキ時ハ第三  
十二條ノ例ニ  
從ヒ監獄中ノ  
別房ニ留置ス  
可シ

十配偶者ノ父母ノ兄弟姉妹

第百十五條 祖父母ト稱スルハ高曾祖父母外祖父母同シ父母ト稱スルハ繼父母

嫡母同シ子孫ト稱スルハ庶子曾玄孫外孫同シ兄弟姉妹ト稱スルハ異父母ノ

兄弟姉妹同シ

養子其養家ニ於ル親屬ノ例ハ實子ニ同シ

ハマ、父マ、母父ノ木妻ト呼ビヨリヲ含ミ子孫ト云フハ妾服ノ子ヒマゴヤ  
シハゴマ合ミ兄弟姉妹ト云フハ腹ガハリ繼ガハリノ兄弟姉妹モ含ムト知ル  
可シ

刑法第二編

第二編 公益ニ関スル重罪輕罪

第一章 皇室ニ對スル罪

第百十六條 天皇皇后皇太子ニ對シ危害ヲ加ヘ又ハ加ヘントシタル者ハ死刑ニ

處ス

第百十七條 天皇皇后皇太子ニ對シ不敬ノ所為アル者ハ三月以上五年以下ノ重

禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

皇陵ニ對シ不敬ノ所為アル者亦同シ

第百十八條 皇族ニ對シ危害ヲ加ヘタル者ハ死刑ニ處ス其危害ヲ加ヘントシタ

ル者ハ無期徒刑ニ處ス

ノハ無期徒刑ニ處



第百十九條 皇族ニ對シ不敬ノ所為アル者ハ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ  
十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第百二十條 此章ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以  
下ノ監視ニ付ス

第二章 國事ニ関スル罪

第一節 内乱ニ関スル罪

第百二十一條 政府ヲ顛覆シ又ハ邦土ヲ僭竊シ其他朝憲ヲ紊亂スルノ目的ト  
爲シ内乱ヲ起シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 首魁及ヒ教唆者ハ死刑ニ處ス

二 群衆ノ指揮ヲ爲シ其他擧要ノ職務ヲ爲シタル者ハ無期流刑ニ處シ其情輕キ  
者ハ有期流刑ニ處ス

三 兵營金穀ヲ資給シ又ハ諸般ノ職務ヲ爲シタル者ハ重禁錮ニ處シ其情輕キ者  
ハ輕禁錮ニ處ス

四 教唆ニ乘シテ附和隨行シ又ハ指揮ヲ受ケテ雜役ニ供シタル者ハ二年以上五  
年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第百二十二條 内乱ヲ起スノ目的ヲ以テ兵營彈藥船金穀其他軍備ノ物品ヲ劫  
掠シタル者ハ已ニ内乱ヲ起シタル者ノ刑ニ同シ

第百二十三條 政府ヲ變亂スルノ目的ヲ以テ人ヲ謀殺シタル者ハ兵ヲ擧ルニ至  
ラスト雖凡内乱ト同ク論シ其教唆者及ヒ下手者ヲ死刑ニ處ス

第百二十四條 前三條ノ罪ハ未遂犯罪ノ時ニ於テ乃チ本刑ヲ科ス

リテ人ヲ殺シタル者ハ輕禁錮ヲ始メズトモ始メタルト同シモハトナシ候ヘ  
カシタリテ下ニシタルモノハ死刑トナス

國政府ヲ變亂スルノ目的ヲ以テ人ヲ謀殺シタル者ハ兵ヲ擧ルニ至  
ラスト雖凡内乱ト同ク論シ其教唆者及ヒ下手者ヲ死刑ニ處ス

前三條ノ罪ハ未遂犯罪ノ時ニ於テ乃チ本刑ヲ科ス



引條

第百二十一條 政府ヲ誦覆シ又ハ邦土ヲ僭窃シ其他朝憲ヲ紊乱スルヲ目的ト爲シ内乱ヲ起シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス  
一 首魁及ヒ教唆者ハ死刑ニ處ス  
二 群衆ノ指揮ヲ爲シ其他樞要ノ職務ヲ爲シタル者ハ無期流刑ニ處ス

ゲザル場合ニテモ當リ前ノ位置ニモラル

第百二十五條 兵隊ヲ招募シ又ハ兵器金穀ヲ準備シ其他内乱ノ豫備ヲ爲シタル者ハ第百二十一條ノ例ニ照シ各一等ヲ減ス

内乱ノ陰謀ヲ爲シ未タ豫備ニ至ラサル者ハ各二等ヲ減ス  
其ノ外内乱ヲ起ス備ヘテ爲シタルモノハ第百二十一條ノ位置ヨリ一等ヲ減ジ凡ダ目論見ノミニテ用意ヲセザルモノハ二等ヲ減ズルナリ

第百二十六條 内乱ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲スト雖モ未タ其事ヲ行ハサル前ニ於テ

官ニ自首シタル者ハ本刑ヲ免シ六月以上三年以下ノ監視ニ付ス  
為レトモ其ノ更ニ行ハザル前ニ首魁シタル時ニハ當リ前ノ位置ヲ免シテ監視ノミヲ付スルナリ

第百二十七條 内乱ノ情ヲ知テ犯人ニ集會所ヲ給與シタル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス  
内乱ノ金ヲナリト知リナガラ集會所ヲ給與シタル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第百二十八條 内乱ニ乘シテ人ノ身體財産ニ對シ内乱ノ目的ニ関セサル重罪輕罪ヲ犯シタル者ハ通常ノ刑ニ照シ重キニ從テ處斷ス  
内乱ノ關係ニ乘リテ人ノ身體財産ニ對シ内乱ノ目的ニ関セサル重罪輕罪ヲ犯シタル者ハ通常ノ刑ニ照シ重キニ從テ處斷ス

刑ニ處シ其情輕キ者ハ有期流刑ニ處ス  
三 兵器金穀ヲ資給シ又ハ諸般ノ職務ヲ爲シタル者ハ重禁錮ニ處シ其情輕キ者ハ輕禁錮ニ處ス  
四 教唆ニ乘シテ附和隨行シ又ハ指揮ヲ受ケテ雜役ニ供シタル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第二節 外患ニ關スル罪  
我日本國ト稱シテ外國ト戰爭スル時ニ關係スルノ罪アリ

第百二十九條 外國ニ與シテ本國ニ抗敵シ又外國ト交戰中同盟國ニ抗敵シ其他

本國ニ背叛シ敵兵ニ附屬シ者ハ死刑ニ處ス  
外國ノ加勢ヲナシテ日本ニ對シテ又ハ外國ト戰爭中ニ味方トナルニ從ヒタルモノヲ位置スルモノナリ

第百三十條 交戰中敵兵ヲ誘導シテ本國管內ニ入ラシメ若シハ本國及ヒ同盟國

ノ都城要塞又ハ兵器彈藥船艦其他軍事ニ關スル土地家屋物件ヲ敵國ニ交付シタル者ハ死刑ニ處ス  
戰時ニ敵國ノ要地ニ侵入シタル者ハ死刑ニ處ス

第百三十一條 本國及ヒ同盟國ノ軍情機密ヲ敵國ニ漏泄シ若シハ兵隊召集ノ要

地又ハ道路ノ險要ヲ敵國ニ通知シタル者ハ無期流刑ニ處ス







テ勢ヲ助ケタル者ハ輕懲役ニ處シ其情輕キ者ハ一等ヲ減ス附和隨行シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス○惡ル者ガ多大數ヲ聚メテ傷匪ニ至リテヲ驅ガシ其ノ外北鄰ヲナシタル時ニハ其ノ首魁ヲ殺斃者ト其ノ餘カシニ應シテ人ヲ斃キ立テ斃ヲ助ケタル者ト附キ添ヒテ殺リタル者ト三様ニ仕置スルナ

第百二十八條 暴動際人ヲ殺死シ若クハ家屋船倉庫等ヲ燒燬シタル時ハ現ニ手ヲ下シ及ヒ火ヲ放ツ者ヲ死刑ニ處ス

首魁及ヒ教唆者情ヲ知テ制セサル者亦同シ○犯暴ノ時二人ヲ殺シ又ハ家ノ財ヲ倉庫ナドヲ燒キタル時ニ手ヲ下シタル者ト火ヲ放ツタル者ト其ノ首魁ヲ知リナガラ制セザル者ト殺斃及ヒ教唆者ト同シク仕置スルナリ

第二節 官吏ノ職務ヲ行フヲ妨害スル罪○官吏ノ職務ヲ行フニ當リテ其職務ヲ妨害スル罪ノ職務ヲ妨害スル罪

第百二十九條 官吏其職務ヲ以テ法律規則ヲ執行シ又ハ行政司法官署ノ命令ヲ執行スルニ當リ暴行脅迫ヲ以テ其官吏ニ抗拒シタル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

刑法第二編

暴行脅迫ヲ以テ其官吏ノ爲ス可カラサル事件ヲ行ハシメタル者亦同シ○官吏ノ職務ニテ出陣規則ヲ執リ行ヒ又ハ政府ナリ司法ナリノ役所カラ擯阻セラレタル事ヲ執リ行フニ當リ暴行脅迫ヲナシ強權ヲ音ヒ服リテ官吏ニ抗拒シタル者ト一ト亂暴ヲナシ強權ヲ音ヒ服リテ官吏ノ爲スマジキ吏ノ爲サシメタルトテ仕置スルナリ

第百四十條 前條ノ罪ヲ犯シ因テ官吏ヲ毆傷シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加ヘ重キニ從テ處斷ス○前條ノ罪ヲ犯スニヨリテ官吏ヲ打チ叩キタヘ一等ヲ重クシテ仕置スルナリ

第百四十一條 官吏ノ職務ニ對シ其目前ニ於テ形容若クハ言語ヲ以テ侮辱シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

其目前ニ非スト雖凡刊行ノ文書圖書又ハ公然ノ演說ヲ以テ侮辱シタル者亦同シ○官吏ノ職務ニ對シテ其ノ目前ニ於テ侮辱シタル者トハ公然ノ演說ヲ以テ侮辱シタル者トモ書物ヲ贈リ紙ヤ圖書ナドヲ贈送シ又ハ人ヲ集メテ表テ向キノ侮辱ナド爲シテ侮辱シメタル者トモ仕置スルナリ

第三節 囚徒逃走ノ罪及ヒ罪人ヲ藏匿スル罪○囚徒ノ逃走ケ起リタル者ト罪アル人ヲ藏シ置クコト



ナリ

第百四十二條 已決ノ囚徒逃走シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス

若シ獄舎獄具ヲ毀壞シ又ハ暴行脅迫ヲ爲シテ逃走シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

下ノ重禁錮ニ處ス 仕置ヲ言渡サレタル囚人逃ケ走リタル者ト其ノ逃ケ走ルニ付キ輕罪ヲ賦テ牢屋ノ道具ヲ毀テ又ハ私鬻チナシタル者ト二様ニ分チテ仕置スルナリ

ト二様ニ分チテ仕置スルナリ

第百四十三條 已決ノ囚徒逃走ノ罪ヲ犯スト雖再犯ヲ以テ論セズ其刑期限内再ヒ逃走シタル者ハ再犯ヲ以テ論ス

再ヒ逃走シタル者ハ再犯ヲ以テ論ス 仕置ヲ言渡サレタル囚人逃ケ走ルトラサレバ再犯ナリトスベカラヌ

ラサレバ再犯ナリトスベカラヌ

第百四十四條 未決ノ囚徒入監中逃走シタル者ハ第百四十二條ノ例ニ同シ但原犯ノ罪ヲ判決スル時ニ於テ數罪俱發ノ例ニ照シテ處斷ス

犯ノ罪ヲ判決スル時ニ於テ數罪俱發ノ例ニ照シテ處斷ス 未決ノ囚徒入監中逃走シタル者ハ第百四十二條ノ例ニ同シ但原犯ノ罪ヲ判決スル時ニ於テ數罪俱發ノ例ニ照シテ處斷ス

ケ走リタル時ハ第百四十二條ノ例ニヨルモノトス但シ原ト犯シタル罪ノ裁量官裁量チナストキニ該罪併發ニテ輕キスルナリ

第百四十五條 囚徒二人以上通謀シテ逃走シタル時ハ第百四十二條ノ例ニ照シ

第百四十二條 已決ノ囚徒逃走シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス

各一等ヲ加フ 囚徒三人以上ニテ謀リ合ヒ逃走リタル時ニハ第百四十二條ノ例ニ照シテ仕置スル一等加フルナリ

第百四十六條 囚徒ヲ逃走セシムル爲メ兇器其他ノ器具ヲ給與シ又ハ逃走ノ方法ヲ指示シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

罰金ヲ附加ス因テ囚徒ノ逃走ヲ致シタル時ハ一等ヲ加フ 囚人ヲ逃ケ走ラス

ヲ援ケルタメノ道具ヲ与ヘ又ハ逃ケ走ル仕方ヲ示シタル者ノ仕置ナリ若シ夫レガタメ囚人ヲ逃ケ走ラシタルモノハ仕置ヲ一等重クナス

第百四十七條 囚徒ヲ劫奪シ又ハ暴行脅迫ヲ以テ囚徒ノ逃走ヲ助ケタル者ハ一年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

若シ重罪ノ刑ニ處セラレタル囚徒ニ係ル時ハ輕懲役ニ處ス 囚人ヲ奪ヒ取リ

ノ逃ケ走ルヲ助ケタル者ヲ仕置スルナリ若シ其ノ囚人重罪ノ者ナル時ハ其ノ仕置モ重キ筈ナリ

第百四十八條 囚徒ヲ看守シ又ハ護送スル者囚徒ヲ逃走セシメタル時ハ亦前條ノ例ニ同シ

囚人ノ看守スル役人又囚人ヲ護リ送ル役人が囚人ヲ逃ケ走ラシタル時ニモ前條ノ如ク仕置スルナリ

第百四十九條 前條ニ記載シタル輕罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ未遂

ノ例ニ同シ 囚人ノ看守スル役人又囚人ヲ護リ送ル役人が囚人ヲ逃ケ走ラシタル時ニモ前條ノ如ク仕置スルナリ

第百四十九條 前條ニ記載シタル輕罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ未遂

ノ例ニ同シ 囚人ノ看守スル役人又囚人ヲ護リ送ル役人が囚人ヲ逃ケ走ラシタル時ニモ前條ノ如ク仕置スルナリ

若シ獄舎獄具ヲ毀壞シ又ハ暴行脅迫ヲ爲シテ逃走シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス



犯罪ノ例ニ照シテ處断ス 第四百二十二条以下ノ輕罪ヲ犯サントシテ未ダ遂ケザルモノハ未遂犯罪ノ例ニヨリテ處分スルナリ

第五十條 看守又逃走者其懈怠ニ因リ囚徒ノ逃走ヲ覺ラサル時ハ二圓以上二

十圓以下ノ罰金ニ處ス

若シ重罪ノ刑ニ處セラレタル囚徒ニ係ル時ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處

ス 囚人ノ番ヲスル役人メ送ル役人ナドガ其ノ身ノ遊弊ヨリシテ囚人ノ逃ケ

逃ルヲ覺ラザル者ヲ仕置スルナリ若シ其ノ囚人重罪ノ者デアリタル時ニハ從テ其ノ仕置モ重キ當ナリ

第五十一條 犯罪人又ハ逃走ノ囚徒及ヒ監視ニ付セラレタル者ナルヲ知テ

之ヲ藏匿シ若クハ隠蔽セシメタル者ハ十一日以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ二

圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

若シ重罪ノ刑ニ處セラレタル囚徒ニ係ル時ハ一等ヲ加フ 罪ヲ犯シタル人ナ

ノ人ナリト士ヲ事ヲ知リナガラ文レテ藏シ置キ又ハ逃ケ隠サシメタル者ノ仕置ナリ若シ其ノ囚人が重罪ノ者ニテアリシ時ニハ仕置ヲ一等加ヘテ重ク

スルナリ

刑法第二篇

第五十二條 他人ノ罪ヲ免カレシメンコトヲ圖リ其罪証ト爲ル可キ物件ヲ隠蔽

シタル者ハ十一日以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ

附加ス 他人ノ罪ヲ免カレシメンコトヲ圖ルノ物件ヲ隠シタル者ハ

第五十三條 前三條ノ罪ヲ犯シタル者犯人ノ親屬ニ係ル時ハ其罪ヲ論セス 前

ノ二ヶ條ノ罪ヲ犯ストモ其ノ人ガ若シ犯人ノ親屬ニテアリタル時ニハ罪ヲ問ハザルナリ

第四節 附加刑ノ執行ヲ適ル、罪 重立チタル刑ニ附ケ加フル刑ヲ執行フヲ適レントシタル者ノ罪ナ

リ

第五十四條 公權ヲ剝奪セラレ又ハ公權ヲ停止セラレタル者私ニ其權ヲ行ヒ

タル時ハ一年以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

公權ヲ取上ゲテラレタリ公權ヲ一時停止セラレタリシタル者ガ私ニ其ノ公權ヲ行ヒタル時ノ仕置ナリ

第五十五條 監視ニ付セラレタル者其規則ニ違背シタル時ハ十五日以上六月

以下ノ重禁錮ニ處ス 監視ニ付セラレタル者ガ監視ノ規則ニ背キタル時ノ仕置ナリ



第百五十六條 前二條ノ罪ハ其刑期限内再ヒ犯シタル時ニ非サレハ再犯ヲ以テ論スルコトヲ得ス

○第五節 私ニ軍用ノ銃砲彈藥ヲ製造シ及ヒ所有スル罪

第百五十七條 官命ヲ受ケス又ハ官許ヲ得スシテ陸海軍ノ用ニ供スル銃砲彈藥

其他破裂質ノ物品ヲ製造シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二十四

以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス其之ヲ輸入シタル者亦同シ

前項ノ物品ヲ私ニ販賣シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上

第百五十八條 前條ノ罪ヲ犯スト員匠職工又ハ雇人ニシテ止タ正犯ノ使令ニ供

シタル者ハ各本刑照シ等減ス

当リ前ノ仕置ヨリ二等ヲ減ス

第百五十九條 前二條ノ罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照

シテ處断ス

第百六十條 第百五十七條ニ記載シタル物品ヲ私ニ所有シタル者ハ二圓以上二

十圓以下ノ罰金ニ處ス

第百六十一條 第百五十七條ニ記載シタル物品ノ製造ニ供シタル器械ニシテ單

ニ其用ニ供ス可キ者ハ何人ノ所有ヲ問ハス之ヲ没收ス

○第六節 往來通信ヲ妨害スル罪

第百六十二條 道路橋梁河溝港埠ヲ損壞シテ往來ヲ妨害シタル者ハ二月以上二

年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

テ妨害ノ妨ゲヲナシタル者ノ仕置ナリ

第百五十七條 官命ヲ受ケス又ハ官許ヲ得スシテ陸海軍ノ用ニ供スル銃砲彈藥其他破裂質ノ物品ヲ製造シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス其之ヲ輸入シタル者亦同シ



ル者亦同シ  
前項ノ物品ヲ  
私ニ販賣シタ  
ル者ハ一月以  
上一年以下ノ  
重禁錮ニ處シ  
十円以上百円  
以下ノ罰金ヲ  
附加ス

第百六十三條 偽計又ハ威力ヲ以テ郵便ヲ妨害シ若クハ之ヲ阻止シタル者ハ亦前條ニ同シ  
圖偽リ欺キ又ハ威ヲ以テ威シ立テ郵便ヲ妨害ケタル者ノ仕置ナリ

第百六十四條 電信ノ器械柱木ヲ損壞シ又ハ條線ヲ切斷シテ電氣ヲ不通ニ致シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

若シ器械柱木條線ヲ損壞シテ電信ノ妨害ヲ爲スト雖モ不通ニ至ラサル時ハ一等ヲ減ス  
圖電信ニ用ユル器械ノ條線ヲ損ケタル柱ヲ毀テ又ハ條線ヲ切リテシテ電信ヲ通ハヌヨブニシタル者ノ仕置ナリ○斯ク爲スト最モモトク妨ゲテ爲シタルノミニシテ電信ノ通ハヌマテニハ致ササルモノハ當リ前ノ仕置ヨリ一等ヲ輕クスルナリ

第百六十五條 火車ノ往來ヲ妨害スル爲メ鐵道及ヒ其標識ヲ損壞シ其他危險ナル障礙ヲ爲シタル者ハ重懲役ニ處ス  
圖火車ノ往來ヲ妨グルタメ鐵道ノ障礙ヲ爲シタル者ノ仕置ナリ○其ノ外能クキ障リヲ致シタル者ノ仕置ナリ

第百六十六條 船舶ノ往來ヲ妨害スル爲メ燈臺浮標其他航海ノ安寧ヲ保護スル

刑法第二篇

標識ヲ損壞シ又ハ詐偽ノ標識ヲ顯示シタル者ハ亦前條ニ同シ  
圖大船小船ナトトシテ燈臺浮標等ノ標識ヲ其ノ外能クヨブ障リヲ爲ルタメノ目標ヲ毀テ又ハ詐リノ目標ナトテ示シタル者ハ前條ト同様ノ仕置トナスナリ

第百六十七條 前數條ニ記載シタル罪其事務ニ關スル官吏及ヒ雇人職工自ラ犯シタル時ハ各本刑ニ照シ一等ヲ加フ  
圖第百六十二條以下ニ載セタル罪ヲ其ノ犯シタル時ニハ當リ前ノ仕置ニ一等ヲ加フ

第百六十八條 第百六十二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ殺傷シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス  
圖第百六十二條ナル罪ヲ犯スコトニヨリテ人ヲ殺シタル者ノ仕置トナス

第百六十九條 第百六十五條第百六十六條ノ罪ヲ犯シ因テ火車ヲ顛覆シ又ハ船舶ヲ覆没シタル時ハ無期徒刑ニ處シ人ヲ死ニ致シタル時ハ死刑ニ處ス  
圖第百六十九條ナル罪ヲ犯スコトニヨリテ火車ヲ顛覆シタル時ハ死刑ニ處ス

第百七十條 此節ニ記載シタル輕罪ヲ犯サントシテ未ダ遂ケサル者ハ未遂犯罪



汽車ノ往來ヲ妨害スル爲メ鐵道及ヒ其標識ヲ損壞シ其他危險ナル障礙ヲ爲シタル者ハ重懲役ニ處ス  
第六十六條  
船舶ノ往來ヲ妨害スル爲メ燈臺浮標其他航海ノ安寧ヲ保護スル標識ヲ損壞シ又ハ詐偽ノ標識ヲ顯示シタル者ハ亦前條ニ同シ

例ニ照シテ處断ス  
第六十二條ヨリ第六十四條迄ノ三條ニ記シタル惡更テ爲ナントシテ住居ケヌトキ未遂犯罪ノ例ニクテラヘテ  
罰キヲナ  
スナリ

第七節 八ノ住所ヲ侵ス罪  
第八節 八ノ住所ヲ侵ス罪  
第九節 八ノ住所ヲ侵ス罪  
第十節 八ノ住所ヲ侵ス罪

第七十一條 晝間故ナク人ノ住居シタル邸宅又ハ八ノ看守シタル建造物ニ入リタル者ハ十一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス  
第十一條 晝間故ナク人ノ住居シタル邸宅又ハ八ノ看守シタル建造物ニ入リタル者ハ十一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス

若シ左ニ記載シタル所爲アル時ハ一等ヲ加フ  
一門戸牆壁ヲ踰越損壞シ又ハ鎖鑰ヲ開キテ入りタル時  
二兇器其他犯罪ノ用ニ供ス可キ物品ヲ携帯シテ入りタル時  
三暴行ヲ爲シテ入りタル時  
四二人以上ニテ入りタル時

若シ左ニ記載シタル所爲アル時ハ一等ヲ加フ

一門戸牆壁ヲ踰越損壞シ又ハ鎖鑰ヲ開キテ入りタル時

二兇器其他犯罪ノ用ニ供ス可キ物品ヲ携帯シテ入りタル時

三暴行ヲ爲シテ入りタル時

四二人以上ニテ入りタル時

當リ前ノ仕置ヨリ一等ヲ加ヘルナリ

第七十二條 夜間故ナク人ノ住居シタル邸宅又ハ八ノ看守シタル建造物ニ入リタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

若シ前條ニ記載シタル加重スヘキ所爲アル時ハ一等ヲ加フ

第七十三條 故ナク皇居禁苑宮行在所及ヒ皇陵内ニ入りタル者ハ前二條ノ例ニ照シ各二等ヲ加フ

第八節 官ノ封印ヲ破棄スル罪  
第七十四條 官署ノ處分ニ因リ特別ニ家屋倉庫其他ノ物件ニ施シタル封印ヲ破棄シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

若シ看守者自ラ犯シタル時ハ一等ヲ加フ

若シ看守者自ラ犯シタル時ハ一等ヲ加フ

若シ看守者自ラ犯シタル時ハ一等ヲ加フ



第百七十五條 官ノ封印ヲ破棄シテ其物件ヲ盜取シ又ハ毀壞シタル者ハ盜罪及  
ヒ毀壞ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處断ス 國政府ノ封印ヲ破リ棄テ其ノ岳物ヲ  
ヲ毀テ罪ノ夫々ノ各條ニヨ  
リ重キ方ニ仕置スルナリ

第百七十六條 看守者其懈怠ニ因リ封印ヲ破棄シ又ハ其物件ヲ盜取毀壞スル  
人アルコトヲ覺ラサル時ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス 圖前條ノ罪ヲ犯ス  
者アルニ其ノ罪ヲ  
仕テ罰金カ輕リヨリシテ  
知ラサリニ時ノ仕置ナリ

○第九節 公務ヲ行フヲ拒ム罪 國公ケノ用向ヲ為ヌ  
ヲ拒ム者ノ仕置ナリ

第百七十七條 陸海軍將校タル者出兵ヲ要求スル權アル官署ヨリ其要求ヲ受ケ故ナクシ  
テ之ヲ肯セサル時ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰  
金ヲ附加ス 圖陸軍海軍ノ將校タル者ガ出陣ヲ要ムル權ノアル役職ヨリ其ノ兵ノ  
編リ出シメ來メラレテ何處モナク立ニ禁錮セザル者ノ仕置ナリ

第百七十八條 陸海軍ノ徵兵ニ編入セラル可キ者身體ヲ毀傷シテ疾病ヲ作為シ  
其他詐偽ノ所為ヲ以テ免役ヲ圖タル時ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ

刑法 第二編

三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

若シ他人ニ囑託シ其姓名ヲ詐稱シ代テ徵募ニ應ゼシメタル者亦同シ其囑託ヲ  
受ケテ徵募ニ應シタル者ハ第百三十一條ノ例ニ照シテ處断ス 圖陸軍海軍ノ  
トシテ已レノ職ニ關シテ徵募ヲ起シ其ノ外詐リタル者ノ仕置ナリ○若  
シ他人ニ言ヒ付ケテ詐稱シ起シ其ノ外詐リタル者モ同シ仕置ニテ  
其ノ言ヒ付ケテ受ケテ募リニ應ジタル者  
ハ第百三十一條ノ如ク仕置スルナリ

第百七十九條 醫師化學家其他職業ニ因リ官署ヨリ解剖分析又ハ鑑定ヲ命ゼラ  
レタル者故ナクシテ之ヲ肯セサル時ハ四十圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス 圖醫  
術審判其ノ外ノ者ガ其ノ職業ニヨリテ役職ヨリ命ゼラレタル者ノ仕置ナリ  
ヲ命ゼタル者ハ物ノ鑑定ヲ命ゼラレテ詳細モナキニ義務セサル者ノ仕置ナリ

第百八十條 裁判所ヨリ證人トシテ證據ヲ陳述スルコトヲ命ゼラレタル者故ナク  
シテ之ヲ肯セサル時ハ亦前條ニ同シ 圖裁判所カラ証人トナリテ證據ヲ陳述スル  
ナル者ノ  
仕置ナリ

第百八十一條 傳染流行ノ際又ハ傳染病ノ疑アル船舶入港スルニ當リ醫師其

第百三十一條  
條官署ニ對シ  
文書又ハ言語  
ヲ以テ其屬籍  
身分氏名年齢  
職業ヲ詐稱シ  
タル者ハ二圓  
以上二十圓以  
下ノ罰金ニ處



病患ヲ検査シ又ハ消滅ノ方法ヲ陳述スルコトヲ命セラレタル者故ナクシテ之ヲ  
肯セサル時ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

獸類傳染流行ノ際獸醫此條ノ罪ヲ犯シタル時ハ一等ヲ減ス  
時又ハ移リ病ノ疑ヒアル船中ガ港ニ入ル時醫者ガ病人ヲ診メ又ハ移リ病ヲ  
治シ減ス仕方ヲ申シ進ブベク言付ケラレテモ仔細モナキニ兼テモナル時ノ  
仕置ナリ○獸類ノ移リ病流行ノ時ニ獸醫者ガ此ノ條ヲ犯シタル時ハ二ハ仕  
置メ一等輕クス

第四章 信用ヲ害スル罪  
人ガ補強ナシト感フ謾稱ヲ斷ブテ人ノ信用ヲ害  
スル者ノ仕置ナリ

○第一節 貨幣ヲ偽造スル罪  
通用ノ金銀ヲ贋セテ  
造ルモノ、仕置メテ

第百八十二條 内國通用ノ金銀貨及ヒ紙幣ヲ偽造シテ行使シタル者ハ無期徒刑  
ニ處ス

若シ變造シテ行使シタル者ハ輕微役ニ處ス  
日本國內ニテ通用スル金銀貨  
紙幣ノ贋ヲ造リテ之レヲ造ヒ換  
タル者ノ仕置ナリ○金銀貨ノ紙幣ノ移リ變シ文字ヲ書キ蓋シテ造フタルモ  
ノハ前ヨリ輕キ仕置トセラル

第百八十三條 内國ニ於テ通用スル外國ノ金銀貨ヲ偽造シテ行使シタル者ハ有

期徒刑ニ處ス

若シ變造シテ行使シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス  
日本國內ニ  
テ通用スル外  
國ノ金銀貨ノ贋ヲ造リテ立レテ造ヒタル者ノ仕置ナリ○外國ノ金銀貨ノ形  
ヲ變シ文字ヲ書キ蓋シテ造フタル者ハ前ヨリハ輕キ仕置トセラル

第百八十四條 官許ヲ得テ發行スル銀行ノ紙幣ヲ偽造シ若シハ變造シテ行使シ  
タル者ハ内外國ノ區別ニ從ヒ前二條ノ例ニ照シテ處斷ス  
政府ノ許ヲ得テ發  
行スル銀行ノ紙幣ヲ  
贋セたり又ハ書キ直シナドシテ造フタル時ハ日本國內ト外國トヲ別テ前二  
條ノ通り仕置セラル、ナリ

第百八十五條 内國通用ノ銅貨ヲ偽造シテ行使シタル者ハ輕微役ニ處ス

若シ變造シテ行使シタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス  
日本國內ニ  
テ通用スル銅貨  
ヲ贋セテ造フタル者ノ仕置スルナリ○若シ文字ナドヲ書キ蓋シテ造フタル  
者ハ前ヨリハ輕ク仕置スルナリ

第百八十六條 前數條ニ記載シタル貨幣ノ偽造變造已ニ成テ未タ行使セサル者  
ハ各本刑ニ照シ一等ヲ減シ其未タ成ラサル者ハ二等ヲ減ス

若シ偽造ノ器具ヲ豫備シテ未タ着手セサル者ハ各三等ヲ減ス  
貨幣ヲ贋セ造  
リテ造リタル



モ之レヲ遊ハザルモノハ一等ヲ輕クシ未タ遊ラサルモノハ二等ヲ輕クシ遊  
賊ノ三賜意シテ手ヲ着ケサルモノハ三等ヲ輕クスルナリ

第百八十七條 貨幣ヲ偽造變造スルノ情ヲ知テ雇ヲ受ケタル職工ハ前數條ニ記  
載シタル犯人ノ受ク可キ刑ニ照シ各一等ヲ減ス

若シ職工ノ補助ヲ爲シテ雜役ニ供シタル者ハ職工ノ刑ニ照シ一等又ハ二等ヲ  
減ス 圖貨幣ヲ買ヒ遊リ遊ルノ情ヲ知リナカラ雇ヲ受ケタル職工ハ前ノ各  
條々ニ載セタル夫々ノ罪人ノ仕置カラ各々一等ゾ、ヲ輕クシ職工ノ職ケ  
ヲナシテ雇ガノ職キヲ爲シタル者ハ職工ノ仕置ヨリ一等カ二等カヲ輕クス  
ルナリ

第百八十八條 貨幣ヲ偽造變造スルノ情ヲ知テ房屋ヲ給與シタル者ハ偽造變造  
ノ各本刑ニ照シ二等ヲ減ス 圖買ヒ貨幣ヲ遊リ又ハ賣シ遊ルコトヲ知リナカラ  
家ヲ貸シ與ヘタル者ハ偽造變造ノ仕置ヨリ二等ヲ  
輕クス  
ルナリ

第百八十九條 偽造變造ノ貨幣ヲ内國ニ輸入シタル者ハ偽造變造ノ刑ニ同シ  
モ又ハ遊シノ貨幣ヲ外國カラ輸入レタ  
ルモノハ偽造變造ノ仕置ト同シ更ナリ

第百九十條 偽造變造ノ情ヲ知テ其貨幣ヲ收受シ之ヲ行使シタル者ハ偽造變造

刑法第二編

シテ行使シタル者ノ刑ニ照シ各二等ヲ減ス

其未タ行使セサル者ハ各三等ヲ減ス 圖買ヒ又ハ遊シト知リナカラ其ノ貨幣ヲ  
收受シ遊ラクルモノハ買ヒ遊リ遊シ遊リ  
テ遊フトル者ノ仕置ヨリ二等輕クシ收受シタルノ三ニテ遊ハザルモノ  
ハ三等ヲ輕クス

第百九十一條 前數條ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二  
年以下ノ監視ニ付ス

第百九十二條 貨幣ヲ偽造變造シ及ヒ輸入收受シタル者未タ行使セサル前ニ於  
テ官ニ自首シタル時ハ本刑ヲ免シ六月以上三年以下ノ監視ニ付ス

若シ職工雜役及ヒ房屋ヲ給與シタル者未タ行使セサル前ニ於テ自首シタル時  
ハ本刑ヲ免ス

第百九十三條 貨幣ヲ收受スルノ後ニ於テ偽造又ハ變造ナルコトヲ知リ之ヲ行使  
シタル者ハ其價額一倍ノ罰金ニ處ス但其罰金ハ二圓以下ニ降ストム得ス 圖知  
テズ

シテ買ヒ又ハ遊シノ貨幣ヲ受取リ其ノ後ニ知リテコレヲ遊フトル時ハ其ノ  
遊フトル金額ノ二倍ノ罰金ヲ出サシムサレドモ此ノ罰金ハ二圓以下ニ減



大ルコトナ  
ラヌナリ

**第二節 官印ヲ偽造スル罪** 政府ノ印形ノ贋モノヲ推  
ヘタル者ヲ仕置スルヲトス

**第九十四條 御璽國璽ヲ偽造シ又ハ其偽璽ヲ使用シタル者ハ無期徒刑ニ處ス**

天子ノ御璽日本國ノ印ヲ贋ニ造リ又ハ其ノ贋ニ用ヒタル者ノ仕置  
ナリ

**第九十五條 各省署ノ印ヲ偽造シ又其偽印使用シタル者ハ重懲役ニ處ス** 各省署ノ  
印ヲ贋ニ造リ又ハ其ノ贋ニ用ヒタル者ノ仕置ナリ

**第九十六條 產物商品等ニ押用スル官ノ記号印章ヲ偽造シ又ハ其偽印ノ使用  
シタル者ハ輕懲役ニ處ス**

**第九十七條 御璽國璽官印記号印章ヲ盜用シタル者ハ前條條ニ記載シ**

**第十年以下ノ重懲罰ニ處ス** 官ノ記号印章ヲ偽造シ又ハ其偽印ヲ使用シタル者ハ一年以  
下ノ重懲罰ニ處ス

ナリ又指物ノ造具ナドニ押用ユル政府ノ番號イ印  
ノ印ノ用ヒタル者ハ前條ノ輕キ仕置トナス

**第九十八條 官ヨリ發行スル各種ノ印紙界紙及ヒ郵便切手ヲ偽造變造シ又ハ**

**其情ヲ知テ之ヲ使用シタル者ハ一年以上五年以下ノ重懲罰ニ處シ五圓以上五**

**十圓以下ノ罰金ヲ附加ス** 政府ヨリ發行スル種々ノ印紙界紙イ郵便切手ナド  
ヲ贋ニ造リ變シ造リ又ハ其ノ正シカラザルゴトヲ知  
リテ用ヒタル者ヲ  
仕置スルモノナリ

**第九十九條 已ニ貼用シタル各種ノ印紙及ヒ郵便切手ヲ再ヒ貼用シタル者ハ**

**一圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス** 一度ヒ貼リテ用ヒタル種々ノ印紙イ  
郵便切手ナドヲ再ヒ貼リ用ヒタル者ノ  
仕置  
ナリ

**第一百條 此節ニ記載シタル輕罪ヲ犯シテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ**

**例ニ照シテ處斷ス**

官ノ記号印章ヲ偽造シ又ハ其偽印ヲ使用シタル者ハ一年以  
下ノ重懲罰ニ處ス

天子ノ御璽日本國ノ印ヲ贋ニ造リ又ハ其ノ贋ニ用ヒタル者ノ仕置  
ナリ

各省署ノ印ヲ贋ニ造リ又ハ其ノ贋ニ用ヒタル者ノ仕置ナリ

官ノ記号印章ヲ偽造シ又ハ其偽印ヲ使用シタル者ハ一年以  
下ノ重懲罰ニ處ス

一度ヒ貼リテ用ヒタル種々ノ印紙イ  
郵便切手ナドヲ再ヒ貼リ用ヒタル者ノ  
仕置  
ナリ

一度ヒ貼リテ用ヒタル種々ノ印紙イ  
郵便切手ナドヲ再ヒ貼リ用ヒタル者ノ  
仕置  
ナリ

一度ヒ貼リテ用ヒタル種々ノ印紙イ  
郵便切手ナドヲ再ヒ貼リ用ヒタル者ノ  
仕置  
ナリ

一度ヒ貼リテ用ヒタル種々ノ印紙イ  
郵便切手ナドヲ再ヒ貼リ用ヒタル者ノ  
仕置  
ナリ

一度ヒ貼リテ用ヒタル種々ノ印紙イ  
郵便切手ナドヲ再ヒ貼リ用ヒタル者ノ  
仕置  
ナリ

一度ヒ貼リテ用ヒタル種々ノ印紙イ  
郵便切手ナドヲ再ヒ貼リ用ヒタル者ノ  
仕置  
ナリ

一度ヒ貼リテ用ヒタル種々ノ印紙イ  
郵便切手ナドヲ再ヒ貼リ用ヒタル者ノ  
仕置  
ナリ

一度ヒ貼リテ用ヒタル種々ノ印紙イ  
郵便切手ナドヲ再ヒ貼リ用ヒタル者ノ  
仕置  
ナリ

一度ヒ貼リテ用ヒタル種々ノ印紙イ  
郵便切手ナドヲ再ヒ貼リ用ヒタル者ノ  
仕置  
ナリ

一度ヒ貼リテ用ヒタル種々ノ印紙イ  
郵便切手ナドヲ再ヒ貼リ用ヒタル者ノ  
仕置  
ナリ

一度ヒ貼リテ用ヒタル種々ノ印紙イ  
郵便切手ナドヲ再ヒ貼リ用ヒタル者ノ  
仕置  
ナリ

一度ヒ貼リテ用ヒタル種々ノ印紙イ  
郵便切手ナドヲ再ヒ貼リ用ヒタル者ノ  
仕置  
ナリ



第二百一條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第三節 官ノ文書ヲ偽造スル罪 政府ノ書キ物イ帳面ナドヲ偽リ造ルノ仕置ナリ

第二百二條 詔書ヲ偽造シ又ハ増減變換シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

其詔書ヲ毀棄シタル者亦同シ 天子ノ詔書ヲ偽リ造リ又ハソノ文面ヲ增シタル時ノ仕置ナリ

置ナリ

第二百三條 官ノ文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス

其官ノ文書ヲ毀棄シタル者亦同シ 官ノ文書ヲ偽造シタル者ハ輕懲役ニ處ス

毀棄シタル者ノ仕置ナリ

第二百四條 公債証書地契其他官廳ノ公証シタル文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス

若シ無記名ノ公債証書ニ係ル時ハ一等ヲ加フ

公債証書ナリ地契ナリ官廳ノ公証シタル文書ナリ

刑法第二編

造リ又ハ文面ヲ增シ減シ書換ヘナドシテ用ヒタル者ノ仕置ナリ○無記名ノ公債証書デアリシ時ハ當リ前ヨリ一等ヲ重クス

第二百五條 官吏其官掌ニ係ル文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ

前二條ノ例ニ照シ各一等ヲ加フ

其文書ヲ毀棄シタル者亦同シ 官人ガ已レノ職權フベキ書キ物ヲ偽リ造リ又ハ前二箇條ノ仕置ヨリ

ハ前二箇條ノ仕置ヨリ一等ヲ重クスルナリ

第二百六條 官ノ文書ヲ偽造スルニ因テ官印ヲ偽造シ又ハ盜用シタル者ハ偽造

官印ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス 政府ノ書キ物ヲ偽造ルメ政府ノ印

偽造スル夫々ノ箇條ノ重キ仕置トナスナリ

第二百七條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ減輕ニ因テ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月

以上二年以下ノ監視ニ付ス

○第四節 私印私書ヲ偽造スル罪 人民私シノ印ヤ私シノ書キ物ナドヲ偽

第二百八條 他人ノ私印ヲ偽造シテ使用シタル者ハ六月以上五年以下ノ重懲罰



二處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

若シ他人ノ印影ヲ盗用シタル者ハ一等ヲ減ス 他人ノ印判ヲ偽リ造リテ之ヲ用ヒタル者ト他人ノ印判ヲ盗三

テ用ヒタル者ト仕置  
ナニ様ニ分チタリ

第二百九條 爲替手形其他裏書ヲ以テ賣買ス可キ証書若シハ金額ト交換ス可キ

約定手形ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス

其手形証書ニ詐偽ノ裏書ヲ爲シテ行使シタル者亦同シ 爲替ノ手形其ノ外裏書ニヨリテ賣買スルベ

キ証書又ハ金額ト引換スベキ約定手形ヲ偽リ造リ文面ヲ増シ減シ書キ換ヘ  
ナドシタル者ト裏書ヲ附リタル者トノ仕置ナリ

第二百十條 賣買貸借贈遺交換其他權利義務ニ關スル証書ヲ偽造シ又ハ増減變

換シテ行使シタル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下

ノ罰金ヲ附加ス

其餘ノ私書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ一月以上二年以下ノ重

禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス 賣買貸借贈遺交換其他權利義務ニ關スル証書ノ外ノ私書ノ書キ物ヲ右ノ如クシテ仕置ナリ

書ヲ偽リ造リ又ハ文面ヲ増シ減シ書キ換ヘナドシテ用ヒタル者ト右ノ外ノ私書ノ書キ物ヲ右ノ如クシテ仕置ナリ

第二百十一條 此節ニ記載シタル輕罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯

罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第二百十二條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年

以下ノ監視ニ付ス

○第五節 免狀鑑札及ヒ疾病証書ヲ偽造スル罪 政府ノ免許狀ヤ鑑札ヤ醫師ノ診察書ナドヲ偽リ造ル

者ノ仕置ナリ

第二百十三條 官ノ免狀又ハ鑑札ヲ偽造シテ行使シタル者ハ一年以上二年以下

ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但官印ヲ偽造シ又ハ盗用

シタル時ハ偽造官印ノ各本條ニ照シテ處斷ス 政府ヨリノ免許狀又ハ鑑札ヲ偽造シテ用ヒタル者ノ仕置ナリ

○政府ノ印ヲ偽造シ又ハ盗ミテ右ノ偽造ヲ爲シタル者ハ政府ノ印ヲ偽造シタル者トノ罰金ニヨリテ仕置スルナリ

第二百十四條 屬籍身分氏名ヲ詐稱シ其他詐偽ノ所爲ヲ以テ免狀鑑札ヲ受ケタ



ル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

官吏情ヲ知テ其免狀鑑札ヲ下付シタル者ハ一等ヲ加フ  
人民ガ被疑者トシテハ其ノ所屬ニテ免許狀ヲ鑑札ナド受ケタル者ノ仕置ナリ○官人ガ詐リノ所屬ナリト知リナガラ免許狀鑑札ナド渡シタル者ハ一等重キナリ

第百十五條 公務ヲ免ル可キ為メ醫師ノ氏名ヲ用ヒ疾病ノ証書ヲ偽造シテ行使シタル者ハ自己ノ為メニシ他人ノ為メニスルヲ分タヌ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

醫師囑託ヲ受ケテ其詐偽ノ証書ヲ造リタル者ハ一等ヲ加フ  
公ケノ務メテ免前ノ職トシテ診察書ヲ偽リ造ル者ハ自己ノ為メニシテモ他人ノ為メニシテモ同シク仕置セラル医者ガ職ヲ受ケテ詐リノ証書ヲ認メタル者ハ一等ヲ重ク仕置スルナリ

第百十六條 陸海軍ノ徴兵ヲ免カレ可キ為メ疾病ノ証書ヲ偽造シテ行使シタル者及ヒ囑託ヲ受ケテ其詐偽ノ証書ヲ造リタル醫師ハ前條ノ例ニ照シ各一等ヲ加フ  
陸軍海軍ノ徴兵ヲ免レシメタルメ診察書ヲ偽リ造リテ用ヒタル者又ハ假重クスルナリ

刑法第三編

第百十七條 免狀鑑札及ヒ疾病ノ証書ヲ増減變換シテ行使シタル者ハ亦偽造ノ刑ニ同シ  
免狀鑑札及ヒ疾病ノ証書ナドノ文面ヲ増シ減シ書キ換ヘナドシテ用ヒタル者ハ偽リ造リタル者ノ仕置ト同シ事ナリ

第六節 偽證ノ罪  
第百十八條 刑事ニ関スル證人トシテ裁判所ニ呼出サレタル者被告人ヲ曲庇スル為メ事實ヲ掩蔽シテ偽証ヲ為シタル時ハ左ノ例ニ照シテ處斷ス  
證人トシテ裁判所ニ呼出サレタル者ハ被告人ヲ曲ゲ庇フタメ偽証ヲ為シテ偽リノ証立ヲ為シタル者ハ左ノ例ニヨリテ罰金ヲ加フ

一 重罪ヲ曲庇スル為メ偽証シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

二 輕罪ヲ曲庇スル為メ偽証シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス



三違警罪ヲ曲庇スル為メ偽証シタル者ハ違警罪ノ本條ニ依テ處斷ス  
○本條謂フ如キ罪ヲ犯シタル者ハ被告ノ罪ノ重キト輕キトニ因リテ三段ニ分ツナリ

第二百十九條 偽証ノ為メ被告人正當ノ刑ヲ免カレタル時ハ偽証者ノ刑前條ノ例ニ照シ各一等ヲ加フ  
○偽リヲ証立シタルタメニ被告人ガ當リ前ノ仕置ヲ受ケタル時ニハ偽リ証人ノ仕置ハ前條ヨリ一等ツ、チ重ク

第二百二十條 被告人ヲ陷害スル為メ偽証ヲ為シタル者ハ左ノ例ニ照シテ處斷ス  
○被告人ヲ罪ニ陷ルル、タメ偽リノ証立ヲ為シタル者ハ左ノ例ニヨリテ罰ツナリ

一重罪ニ陷ラシムル為メ偽証シタル者ハ二年以上五年以下重禁錮ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

二輕罪ニ陷ラシムル為メ偽証シタル者ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

三違警罪ニ陷ラシムル為メ偽証シタル者ハ一月以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ

二圓以上十圓以下ノ罰金ヲ附加ス  
○本條謂フ如キ罪ヲ犯スモノハ被告人ヲ罪ニ陷ルル、ノ重キト輕キトニ因リテ三ツナリ

第二百二十一條 偽証ノ為メ被告人刑ニ處セラレタル後ニ於テ偽証ノ罪發覺シタル時ハ偽証者ヲ其刑ニ及坐ス若シ及坐ノ刑前條ニ記載シタル偽証ノ刑ヨリ輕キ時ハ前條ノ例ニ照シテ處斷ス

其刑期限内ニ於テ偽証ノ罪發覺シタル時ハ現ニ終過シタル日數ニ照シテ及坐ノ刑期ヲ減スルコトヲ得但減シテ前條偽証ノ刑ヨリ降ヌコトヲ得ス  
○偽リノ証立ノ時ニ於テ被告人ガ前ニ罪ヨリ輕カリシ時ナラバ偽証人ハ前ニ罪ノ如ク仕置セラレ重カリシ時ナラバ偽証人ヲ被告人ノ仕置ニ代ラシム 被告人ノ仕置ノ期限中ニ偽ナルコトガ覺レタル時ニハ既ニ被告人ガ入牢シタルダケノ時限ヲ減スルキ其ノ殘リダケヲ仕置スルコトヲ得ルナリ左レドモ減シテ前ニ罪ノ仕置ヨリ輕クスルコトハナラヌナリ

第二百二十二條 偽証ノ為メ被告人死刑ニ處セラレタル時ハ及坐ノ刑一等ヲ減ス其末々刑ヲ執行セラル前ニ於テ發覺シタル時ハ二等ヲ減ス

第四百一十一條 律書房藏版



若シ被告入ヲ死ニ陥ルノ目的ヲ以テ偽証ヲ為シタル時ハ死刑ニ及坐ス其未  
タ刑ヲ執行セサル前ニ於テ發覺シタル時ハ一等ヲ減ス 偽証ノタメ被告入ニ  
死刑ニ致シタルモノ死

ニ致スノ目当ニテ偽リタルモノハ死刑ニ仕置シ死ニ致スノ目当ニテアテサ  
リシ者ハ一等輕ク仕置シ被告入未タ仕置ノ鞫リ行ヒナキ前ニテ死ニ致スノ  
目当ニテ偽リタルモノハ死刑ヨリ一等ヲ輕クシ死ニ致スノ目当ニテアテサ  
リシ者ハ二等ヲ輕クスルナリ

第二百二十三條 民事商事又ハ行政裁判ニ關シテ偽証ヲ為シタル者ハ一月以上

一年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス 偽証ノ結果  
行政ノ裁判ニ

偽証シテ偽リノ証拠立テ  
ヲ為シタル者ノ仕置ナリ

第二百二十四條 鑑定又ハ通事ノ為メ裁判所ニ時出サレタル者詐偽ノ陳述ヲ為

シタル時ハ前數條ニ記載シタル偽証ノ例ニ照シテ處斷ス 偽物ノ鑑定ノ為メ又  
ハ言葉ノ通事ノ為メ

鞫辨廳へ時出サレタル者偽リノ申立ヲ為シタル者ハ第二十八條以下ニヨ  
リテ仕置サル、ナリ

第二百二十五條 賄賂其他ノ方法ヲ以テ人ニ囑託シテ偽証又ハ詐偽ノ鑑定通事

ヲ為サシメタル者ハ亦偽証ノ例ニ同シ 賄賂ヤ其ノ外ノ仕方ニテ人ニ言ヒ付  
ケテ第二十八條以下ノ罪ヲ犯サシメ

刑法第三編

タル者モ同ジノ仕  
置セラル、ナリ

第二百二十六條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者其事件ノ裁判宣告ニ至ラザ

ル前ニ於テ自首シタル時ハ本刑ヲ免ス

○第七節 度量衡ヲ偽造スル罪 度量衡ヲ偽リ造リ  
タル者ノ仕置ナリ

第二百二十七條 度量衡ヲ偽造シ又ハ變造シテ販賣シタル者其罪以上五年以下ノ

重禁錮ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但官ノ記号印章ヲ偽造シ又

ハ盗用シタル時ハ偽造官印ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス 度量衡ヲ偽リ  
造リ又ハ造リ換

ヘテ賣却キタル者ノ仕置ナリ 政府ノ審判官印ナド子偽リ造リ又ハ盗用シテ  
用ヒタル者ハ政府ノ印ヲ偽リ造リタル夫々ノ條ニヨリ重キ方ノ仕置ト

第二百二十八條 偽造變造ノ情ヲ知テ其度量衡ヲ販賣シタル者ハ前條ノ刑ニ一

等ヲ減ス 偽リ造リ又ハ造り換ヘノ度量衡ヲ知リナガラ賣却キタル者ハ前條ノ  
仕置ニ一等ヲ減シテ輕クスルナリ

第二百二十九條 商賈農工定規ヲ増減シタル度量衡ヲ所有シタル者ハ一月以上



三月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金を附加ス

若シ其度量衡ヲ使用シテ利ヲ得タル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス騙人ナドガ度量

衡ノ規リタル規則ヲ破リ推ヘ直シタルモノヲ辨シタル者ノ仕置ナリ此

ノ度量衡ヲ用ヒテ利益シタル者ハ輕リ欺キテ金を取リタル个條ニヨリテ仕

置ス

第二百三十條 人ノ囑託ヲ受ケテ度量衡ヲ偽造シ又ハ變造シタル者ハ其囑託ニ

タル犯人ノ刑ニ照シ各一等ヲ減ス人ニ輕マレテ度量衡ヲ偽リ又ハ造リ

一等ヲ減シ輕クスルナリ

○第八節 身分ヲ詐稱スル罪大坂府ノ人カ真島縣ノ人ナリト詐リ人匪ガ

第二百三十一條 官署ニ對シ文書又ハ言語ヲ以テ其屬籍身分氏名年齢職業ヲ詐

稱シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス偽稱ヘ出ス書キ物又ハ音聲

第二百三十二條 官職位階ヲ詐稱シ又ハ官ノ服飾徽章若クハ内外國ノ勲章ヲ借

用シタル者ハ十五日以上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金

ヲ附加ス官人ナリ位アリト詐リ稱ヘ又ハ假名ノ衣物ノ飾リ假筆又ハ日本

○第九節 公選ノ投票ヲ偽造スル罪人ニ出シケニ票ムタメ偽稱ヲ為ス人札

第二百三十三條 公選ノ投票ヲ偽造シ又ハ其數ヲ増減シタル者ハ一月以上一年

以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金を附加ス人ニ出シケニ票ムタ

又ハ入札ノ數ヲ増シ縮シスル者ノ仕置ナリ

第二百三十四條 賄賂ヲ以テ投票ヲ為サシメ又ハ賄賂ヲ受ケテ投票ヲ為シタル

者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金を附加ス賄

賂ヲ受ヘテ入札ヲ為サシメ賄賂ヲ受

第二百三十五條 投票ヲ檢査シ及ヒ其數ヲ計算スル者其投票ヲ偽造シ又ハ増減

シタル時ハ六月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金を附

加ス入札ヲ改メ其ノ數ヲ算用スル人ガ入札ヲ偽リ造リ又ハ數ヲ増シ數ヲ減

シタル者ノ仕置ナリ



第二百三十六條 調書ヲ造リ投票ノ結局ヲ報告スル者其數ヲ増減シ其他詐偽ノ

所為アル時ハ一年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ

附加ス 國 局形ノ取調書ヲ造リ入札ノ結果ヲ知ラスベキ人ニシテ其ノ數ヲ増シ

感シ其ノ外詐ノ所為アル者ノ仕置ナリ

△第五章 健康ヲ害スル罪 國 人ノ健康ヲ害スル者ノ仕置ナリ

○第一節 阿片烟ニ關スル罪 國 阿片烟ニ關スル罪ノ仕置ナリ

第二百三十七條 阿片烟ヲ輸入シ及ヒ製造シ又ハ之ヲ販賣シタル者ハ有期徒刑

ニ處ス 國 阿片烟ヲ輸入シ及ヒ製造シ又ハ之ヲ販賣シタル者ノ仕置ナリ

第二百三十八條 阿片烟ヲ吸食スルノ器具ヲ輸入シ及ヒ製造シ又ハ之ヲ販賣シ

タル者ハ輕懲役ニ處ス 國 阿片烟ヲ吸食スルノ器具ヲ輸入シ及ヒ製造シ又ハ之ヲ販賣シ

タル者ノ仕置ナリ

第二百三十九條 稅關官吏情ヲ知テ阿片烟及ヒ其器具ヲ輸入セシメタル者ハ前

二條ノ刑ニ照シ各一等ヲ加フ 國 稅關ノ官吏カ阿片烟又ハ其ノ吸食ノ器具ヲ知リ

ナガラ之レヲ輸入シタル者ハ前二條ノ仕置ヨリ

一等ヲ重

ク加フ

刑法第二編

第二百四十條 阿片烟ヲ吸食スル為メ房屋ヲ給与シテ利ヲ圖ル者ハ輕懲役ニ處

ス

人ヲ引誘シテ阿片烟ヲ吸食セシメタル者亦同シ 國 阿片烟ヲ吸食スル者ノ部屋ヲ

フテ阿片烟ヲ吸食シメタル

者ノ仕置ナリ

第二百四十一條 阿片烟ヲ吸食シタル者ハ二年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス 國

阿片烟ヲ吸食スル者ノ仕置ナリ

第二百四十二條 阿片烟及ヒ吸食ノ器具ヲ所有シ又ハ受寄シタル者ハ一月以上

一年以下ノ重禁錮ニ處ス 國 阿片烟及ヒ吸食ノ器具ヲ所有シ又ハ受寄シタル者ノ仕置ナリ

○第二節 飲料ノ淨水ヲ汚穢スル罪 國 人ノ飲ムヘキ淨水ヲ汚

シタル者ノ仕置ナリ

第二百四十三條 人ノ飲料ニ供スル淨水ヲ汚穢シ因テ之ヲ用フルル能ハサルニ

至ラシメタル者ハ十一日以上一月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上五圓以下ノ罰

金ヲ附加ス 國 人ノ飲料ニ供スル淨水ヲ汚穢シ

用ニ立タヌ又ハ如クスル者ノ仕置ナリ



第二百四十四條 人ノ健康ヲ害ス可キ物品ヲ用ヒテ水質ヲ變シ又ハ腐敗セシメタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

○第三節 傳染病豫防規則ニ關スル罪

第二百四十五條 前條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病又ハ死ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第二百四十六條 傳染病豫防ノ為メ設ケタル規則ニ違背シテ入港ノ船舶ヨリ上陸シ又ハ物品ヲ陸地ニ運搬シタル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百四十七條 船長自ラ前條ノ罪ヲ犯シ又ハ人ノ犯スヲ知テ制セサル者ハ前條ノ刑ニ一等ヲ加フ

第二百四十八條 傳染病流行ノ際豫防規則ニ違背シテ流行地方ヨリ他處ニ出タル者ハ十五日以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ八十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百四十九條 獸類ノ傳染病流行ノ際豫防規則ニ違背シテ獸類ヲ他處ニ出シタル者ハ十一日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ五十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

○第四節 危害品及ヒ健康ヲ害ス可キ物品製造ノ規則ニ關スル罪

第二百五十條 官許ヲ得ズシテ危害ヲ生ス可キ物品ノ製造所ヲ創設シタル者ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

若シ健康ヲ害ス可キ物品ノ製造所ヲ創設シタル者八十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

若シ健康ヲ害ス可キ物品ノ製造所ヲ創設シタル者八十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

若シ健康ヲ害ス可キ物品ノ製造所ヲ創設シタル者八十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

若シ健康ヲ害ス可キ物品ノ製造所ヲ創設シタル者八十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

若シ健康ヲ害ス可キ物品ノ製造所ヲ創設シタル者八十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

若シ健康ヲ害ス可キ物品ノ製造所ヲ創設シタル者八十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

若シ健康ヲ害ス可キ物品ノ製造所ヲ創設シタル者八十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

若シ健康ヲ害ス可キ物品ノ製造所ヲ創設シタル者八十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

若シ健康ヲ害ス可キ物品ノ製造所ヲ創設シタル者八十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

若シ健康ヲ害ス可キ物品ノ製造所ヲ創設シタル者八十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

若シ健康ヲ害ス可キ物品ノ製造所ヲ創設シタル者八十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

若シ健康ヲ害ス可キ物品ノ製造所ヲ創設シタル者八十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

若シ健康ヲ害ス可キ物品ノ製造所ヲ創設シタル者八十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

若シ健康ヲ害ス可キ物品ノ製造所ヲ創設シタル者八十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

若シ健康ヲ害ス可キ物品ノ製造所ヲ創設シタル者八十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

若シ健康ヲ害ス可キ物品ノ製造所ヲ創設シタル者八十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

若シ健康ヲ害ス可キ物品ノ製造所ヲ創設シタル者八十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

若シ健康ヲ害ス可キ物品ノ製造所ヲ創設シタル者八十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

若シ健康ヲ害ス可キ物品ノ製造所ヲ創設シタル者八十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

若シ健康ヲ害ス可キ物品ノ製造所ヲ創設シタル者八十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

若シ健康ヲ害ス可キ物品ノ製造所ヲ創設シタル者八十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

若シ健康ヲ害ス可キ物品ノ製造所ヲ創設シタル者八十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

若シ健康ヲ害ス可キ物品ノ製造所ヲ創設シタル者八十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

若シ健康ヲ害ス可キ物品ノ製造所ヲ創設シタル者八十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

若シ健康ヲ害ス可キ物品ノ製造所ヲ創設シタル者八十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス



第二百五十一條 官許ヲ得テ前條ニ記載シタル製造所ヲ創設スト品モ危害ヲ豫

防シ健康ヲ保護スル規則ニ違背シタル者ハ前條ノ例ニ照シ各一等ヲ減ス（國政

ヲ得テ前條ノ如キ製造所ヲ設クルトモ規則ニ背キテ浮雲キ更メ健康ヲ害

スル如キ更メタル者ハ前條ノ例ニ照シ各一等ヲ輕クスルナリ

第二百五十二條 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病死傷ニ致シタル時ハ過失致傷

ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

○第五節 健康ヲ害ス可キ飲食物及ヒ藥劑ヲ販賣スル罪（健康ヲ害フ飲三

藥ヲ賣ルモノ、  
仕置ヲ示スナリ

第二百五十三條 人ノ健康ヲ害ス可キ物品ヲ飲食物ニ混和シテ販賣シタル者ハ

三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス（人ノ健康ヲ害フ物ヲ飲三食ノ品ニ混シテ

第二百五十四條 規則ニ違背シテ毒藥劇藥ヲ販賣シタル者八十圓以上百圓以下

ノ罰金ニ處ス（規則ヲ守ラズシテ毒藥劇

第二百五十五條 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病又ハ死ニ致シタル者ハ過失殺

刑法第二編

傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

○第六節 私ニ醫業ヲ為ス罪（政府ノ許シモ受ケズニ醫者

第二百五十六條 官許ヲ得スシテ醫業ヲ為シタル者八十圓以上百圓以下ノ罰金

ニ處ス（政府ノ許モナク醫者ノ家

第二百五十七條 前條ノ犯人治療ノ方法ヲ誤リ因テ人ヲ死傷ニ致シタル時ハ過

失殺傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第六章 風俗ヲ害スル罪（世ノ人ノ風俗ヲ惡シ

第二百五十八條 公然猥褻ノ所行ヲ為シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ

處ス（猥褻ヲ向キ觀リナリ事ヲ

第二百五十九條 風俗ヲ害スル冊子圖書其他猥褻ノ物品ヲ公然陳列シ又ハ販賣

シタル者ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス（風俗ヲ惡クスル書籍ヤ野圖ヤ

並ベ立テ又ハ賣リ  
タル者ノ仕置ナリ



第二百六十條 賭場ヲ開張シテ利ヲ圖リ又ハ博徒ヲ招結シタル者ハ三月以上一

年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

賭場ヲ開キテ博徒ヲ招結シタル者ハ三月以上一

年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

賭場ヲ開キテ博徒ヲ招結シタル者ハ三月以上一

年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

賭場ヲ開キテ博徒ヲ招結シタル者ハ三月以上一

年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

賭場ヲ開キテ博徒ヲ招結シタル者ハ三月以上一

年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

賭場ヲ開キテ博徒ヲ招結シタル者ハ三月以上一

年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

賭場ヲ開キテ博徒ヲ招結シタル者ハ三月以上一

年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

賭場ヲ開キテ博徒ヲ招結シタル者ハ三月以上一

年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

賭場ヲ開キテ博徒ヲ招結シタル者ハ三月以上一

年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

賭場ヲ開キテ博徒ヲ招結シタル者ハ三月以上一

年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

賭場ヲ開キテ博徒ヲ招結シタル者ハ三月以上一

年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

賭場ヲ開キテ博徒ヲ招結シタル者ハ三月以上一

年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

賭場ヲ開キテ博徒ヲ招結シタル者ハ三月以上一

年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

賭場ヲ開キテ博徒ヲ招結シタル者ハ三月以上一

年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

賭場ヲ開キテ博徒ヲ招結シタル者ハ三月以上一

年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

賭場ヲ開キテ博徒ヲ招結シタル者ハ三月以上一

年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

賭場ヲ開キテ博徒ヲ招結シタル者ハ三月以上一

年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

○太政官十五  
年第二十五  
号布告  
明治元年十二  
月二十三日ノ  
布告ニ原ツキ

第二百六十二條 財物ヲ醜集シ富籤ヲ以テ利益ヲ僥倖スルノ業ヲ興行シタル者  
ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百六十三條 神祠佛堂墓所其他禮拜所ニ對シ公然不敬ノ所為アル者ハ二圓  
以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

若シ説教又ハ禮拜ヲ妨害シタル者ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百六十四條 埋葬ス可キ死屍ヲ毀棄シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮  
ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百六十五條 墳墓ヲ発掘シテ棺槨又ハ死屍ヲ見ハシタル者ハ二月以上二年  
以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百六十六條 此章ニ記載シタル罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯  
ニ處ス

富籤賣罪ノ牙  
保助ヲ為シ  
及富籤ヲ購買  
シタル者處分  
方左ノ通制定  
ス  
第一條 凡富  
籤賣買ノ牙保  
若シハ幫助ヲ  
為シタル者ハ  
一月以上六月  
以下ノ重禁錮  
ニ處シ五圓以  
上五十圓以下  
ノ罰金ヲ附加  
ス  
第二條 凡富  
籤ヲ購買シタ  
ル者ハ其價ヲ  
拂ヒタルト未











**第二百八十四條** 前二條ニ記載シタル官吏又ハ護送者囚人ニ對シ飲食衣服ヲ屏去シ其他苛刺ノ所為ヲ施シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

**因テ囚人ヲ死傷ニ致シタル時ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加ヘ重キニ從テ處斷ス**  
前二條ニアル官人ヤ護送スル者ナドガ囚人ノ飲食物ヤ衣モノナドヲ取リ除ケ其ノ外手形ヲ取據フタル者ノ仕置ナリ 夫レガタメ囚人ヲ死又ハ傷ケタル時ハ毆打創傷ノ仕置ニ一等ヲ加ヘテ重クスルナリ

**第二百八十一條** 水火震災ノ際官吏囚人ノ監禁ヲ解クコトヲ怠リ因テ死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加フ  
木出火事地震其ノ外ノ災ノ時ニ官人カ囚人ヲ牢ヨリ出スコトヲ怠リ夫レガ爲メ死又ハ傷ケタル時ハ毆打創傷ノ仕置ニ一等加フルナリ

**第二百八十二條** 裁判官檢事及ヒ警察官吏被告人ニ對シ罪狀ヲ陳述セシムル為メ暴行ヲ加ヘ又ハ陵虐ノ所為アル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

**因テ被告人ヲ死傷ニ致シタル時ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加ヘ重キニ從テ處斷ス**  
裁判官檢事警察官吏ナド被告人ニ罪ヲ白状サスルシメ手續シ手荒キ取扱ヒテ為シタル者ノ仕置ナリ 夫レガタメ被告人ヲ死又ハ傷ケタル者ハ毆打創傷ノ仕置ニ一等ヲ加ヘ重キ方ニ處分スルナリ

**第二百八十三條** 裁判官檢事官故ナクシテ刑事ノ訴ヲ受理セヌ又ハ遷延シテ審理セサル者ハ十五日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

**其民事ノ訴ニ係ル者亦同シ**  
裁判官檢事官ガ仔細モナク刑事民事ノ訴ヘテ受ケ附ケヌ又ハ延シテ裁判セサル者ノ仕置ナリ

**第二百八十四條** 官吏ハノ囑託ヲ受ケテ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

**因テ不正ノ處分ヲ為シタル時ハ一等ヲ加フ**  
官人ガ賄賂ヲ受ケテ人ノ頼ミヲメ正シカラヌ更テ為シタル時ハ當リ前ノ仕置ニ一等ヲ加フルナリ

**第二百八十五條** 裁判官民事ノ裁判ニ関シテ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シタル



者八二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

因テ不正ノ裁判ヲ為シタル時ハ一等ヲ加フ 國裁判官ガ民事ノ裁判ニ付キテ賄賂ヲ受ケ又ハ受ケルベク聞キ入レタル者ノ仕置ナリ○夫レガ為メ正シカラヌ裁判ヲ為シタル時ニハ一等ヲ加ヘテ仕置スルナリ

タル者ノ仕置ナリ○夫レガ為メ正シカラヌ裁判ヲ為シタル時ニハ一等ヲ加ヘテ仕置スルナリ

第二百八十六條 裁判官檢察官官吏刑事ノ裁判ニ関シテ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

因テ被告人ヲ曲庇シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

其被告人ヲ陪審シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス若シ枉斷シタル所ノ刑此刑ヨリ重キ時ハ第二百二十一條第二十二條ノ例ニ照シテ及坐ス

第二百二十一條 偽證ノ為メ被告人刑ニ處セラレタル後ニ於テ偽證

シタル時ノ仕置ナリ○夫レガ為メ被告人ヲ曲庇シタル時ノ仕置ナリ○夫レガ為メ被告人ヲ陪審シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス若シ枉斷シタル所ノ刑此刑ヨリ重キ時ハ第二百二十一條第二十二條ノ例ニ照シテ及坐ス 國裁判官檢察官官吏刑事ノ裁判ニ関シテ賄賂ヲ受ケ又ハ受ケルコトヲ許シタル時ノ仕置ナリ○夫レガ為メ被告人ヲ陪審シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス若シ枉斷シタル所ノ刑此刑ヨリ重キ時ハ第二百二十一條第二十二條ノ例ニ照シテ及坐ス

ノ罪發覺シタル時ハ偽證者

ヨリ重カリタル時ニハ第二百二十一條 第二百二十二條ノ例ニヨリテ仕置ス

第二百八十七條 裁判官檢察官官吏賄賂ヲ收受聽許セスト虽凡情ニ徇カヒ又ハ怨ヲ挾サミ被告人ヲ曲庇陪審シタル者ハ亦前條ノ例ニ同シ 國裁判官檢察官

賄賂ヲ受ケザルモ情ニ徇ヒ怨ヲ挾ミナドシテ被告人ヲ曲庇シ陪審シタル者ハ前條ト同シク仕置スルナリ 國裁判官檢察官

第二百八十八條 前條ニ記載シタル賄賂已ニ收受シタル者ハ之ヲ沒收シ費用シタル者ハ其價ヲ追徴ス

○第三節 官吏財産ニ對スル罪 官人ガ金錢其ノ外ノ品物ヲ私シスルノ仕置ナリ

第二百八十九條 官吏自ラ監守スル所ノ金穀物件ヲ竊取シタル者ハ輕懲役ニ處ス

因テ官ノ文書簿冊ヲ増減變換シ又ハ毀棄シタル時ハ第二百五條ノ例ニ照シテ處斷ス 官人ガ預ル所ノ金銀米穀其ノ外ノ品ナドヲ竊カニ取リタル者ノ仕置ナリ○夫レガ為メ政府ノ書キ物ヤ帳面ナドヲ増シ減シ書キ換ヘ又ハ毀

得ス

千乘テタル時ハ第二百五十五條ノ仕置ニヨル



第二百二十二條 偽證ノ為メ被告人死刑ニ處セラレタル時ハ反坐ノ刑一等ヲ減ス其未タ刑ヲ執行セザル前ニ於テ發覺シタル時ハ二等ヲ減ス若シ被告人ヲ死ニ陥ルノ目的ヲ以テ偽證ヲ為シタル時ハ死刑ニ反坐ス其未タ刑ヲ執行セザル前ニ於テ發覺シタル時ハ一等ヲ減ス

第二百九十條 組稅其他諸般ノ入額ヲ徵收スル官吏正數外ノ金殺ヲ徵收シタル者ハ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス  
金ヤ其ノ外種々ノ入金ヲ取納メスル官人ガ定リノ高ヨリ取立テタル時ノ仕置也  
第二百九十一條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

臨頭參照終

日本刑法講解卷上 終

刑法第三篇

臨頭參照

日本刑法講解大全卷之下

樞磨 水越成章 閱  
美濃 越石 齊 著

第三編 身體財產ニ對スル重罪輕罪 人身ノ體ヤ人所持物ニ關係シテノ重罪ト輕罪トノ仕置ヲ示スモノナリ

第一章 身體ニ對スル罪 人ノ體ニ向フテ為シタル罪ノ仕置ヲ示ス

第一節 謀殺故殺ノ罪 巧メ企テ人ヲ殺シタル者ノ仕置ヲ示ス

第二百九十二條 豫メ謀テ人ヲ殺シタル者ハ謀殺ノ罪ト爲シ死刑ニ處ス  
ヲ爲シ人ヲ殺シタル者ノ仕置ナリ

第二百九十三條 毒物ヲ施用シテ人ヲ殺シタル者ハ謀殺ヲ以テ論シ死刑ニ處ス  
圖其ノ場ノ出来心ニテ人ヲ殺シタル者ノ仕置ナリ

第二百九十四條 故意ヲ以テ人ヲ殺シタル者ハ故殺ノ罪ト爲シ無期徒刑ニ處ス



第二百九十五條 支解折割其他慘刺ノ所爲ヲ以テ人ヲ故殺シタル者ハ死刑ニ處ス

其ノ場ノ出来心トハ音フモノ、人ノ手足ヲホドキ人ノ體ナドヲ裂キ其ノ外無殘ナル仕方ニテ殺シタルモノハ死刑ノ仕置トナス

第二百九十六條 重罪輕罪ヲ犯スニ便利ナル爲メ又ハ已ニ犯シテ其罪ヲ免カル

其ノ場ノ出来心トハ雖ドモ重罪輕罪ヲ犯ス便利ノ爲ニシ又ハ已ニ犯シタル罪ヲ藏ハンタメニ人ヲ殺シタル者ハ死刑ト爲ス

第二百九十七條 人ヲ殺スノ意ニ出テ詐稱誘導シテ危害ニ陥レ死ニ致シタル者

人ヲ殺スノ心細ニテ詭リハ故殺ヲ以テ論シ其豫メ謀ル者ハ謀殺ヲ以テ論ス

第二百九十八條 謀殺故殺ヲ行ヒ誤テ他人ヲ殺シタル者ハ仍ホ謀殺故殺ヲ以テ論

謀殺又ハ故殺ヲ行フニ當リ誤テ他人ヲ殺シタル者ハ矢張り謀殺又ハ故殺ヲ以テ論スルナリ

第二百九十九條 人ヲ毆打創傷シ因テ死ニ致シタル者ハ重懲役ニ處ス

人ヲ打チ叩キテ縛ヲ負ハシタル者ノ仕置ナリ

第三節 毆打創傷ノ罪

第三百條 人ヲ毆打創傷シ其兩目ヲ瞎シ兩耳ヲ聾シ又ハ兩肢ヲ折リ及ヒ舌ヲ斷

チ陰陽ヲ毀敗シ若クハ知覺精神ヲ喪失セシメ篤疾ニ致シタル者ハ輕懲役ニ處ス

其一目ヲ瞎シ一耳ヲ聾シ又ハ一肢ヲ折リ其他身體ヲ殘廢シ癱疾ニ致シタル者

人ノ打チ叩キテ縛ヲ負ハシ其ノ首目トナシ或ハ兩手或ハ兩足ヲ折リ舌ヲ折リ或ハ片手或ハ片足ヲ折リ其

ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス

リ絶チ男女ノ陰陽ノ所ヲ毀チ又ハ氣絶セシメナドシテ甚ダシキ病トナシタル者ノ仕置ナリ去レドモ片目ヲツブシ片耳ヲツブシ片手或ハ片足ヲ折リ其

第三百一條 人ヲ毆打創傷シ二十日以上ノ時間疾病ニ罹リ又ハ職業ヲ營ムト能

ハサルニ至ラシメタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

其疾病休業ノ時間二十日ニ至ラサル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

疾病休業ニ至ラスト雖モ身體ニ創傷ヲ成シタル者ハ十一日以上一月以下ノ重

疾病休業ニ至ラスト雖モ身體ニ創傷ヲ成シタル者ハ十一日以上一月以下ノ重

疾病休業ニ至ラスト雖モ身體ニ創傷ヲ成シタル者ハ十一日以上一月以下ノ重

疾病休業ニ至ラスト雖モ身體ニ創傷ヲ成シタル者ハ十一日以上一月以下ノ重

疾病休業ニ至ラスト雖モ身體ニ創傷ヲ成シタル者ハ十一日以上一月以下ノ重

疾病休業ニ至ラスト雖モ身體ニ創傷ヲ成シタル者ハ十一日以上一月以下ノ重

疾病休業ニ至ラスト雖モ身體ニ創傷ヲ成シタル者ハ十一日以上一月以下ノ重

疾病休業ニ至ラスト雖モ身體ニ創傷ヲ成シタル者ハ十一日以上一月以下ノ重



禁錮ニ處ス

人ヲ打テ傷キテ罰ヲ負ハセ二十日以上又ハ二十日以下ノ期間ニ  
置シ尙ホ病ニ臥サズ家業モ営ムコト出来ザルニ至ラシメタル者ヲ二條ニ仕  
ニ仕置スルナリ

第三百二條 豫メ謀テ人ヲ殴打創傷シ休業癡疾又ハ死ニ致シタル者ハ前數條

ニ記載シタル刑ニ照シ各一等ヲ加フ  
加ヘル  
ナリ

第三百三條 重罪輕罪ヲ犯スニ便利ナル爲メ又ハ已ニ犯シテ其罪ヲ免カル、爲  
メ人ヲ殴打創傷シタル者ハ亦前條ノ例ニ同シ

第三百四條 殴打ニ因リ誤テ他人ヲ創傷シタル者ハ仍ホ殴打創傷ノ本刑ヲ科ス

第三百五條 二人以上共ニ人ヲ殴打創傷シタル者ハ現ニ手ヲ下シ傷ヲ成スノ輕  
重ニ從テ各自ニ其刑ヲ科ス若シ共歐シテ傷ヲ成スノ輕重ヲ知ルコト能ハサル時  
ハ其重傷ノ刑ニ照シ一等ヲ減ス但教唆者ハ減等ノ限ニ在ラス  
セタル者ハ現ニ手ヲ下シ創ヲ負ハシタル輕キト重キトニヨリテ別々ニ仕置  
スルナリ去レドモ其ニ打テテ蹴レカ重カリシガ分ラヌ時ニハ其ノ重キ創ノ

仕置ヨリ一等ヲ輕クス但シ檢ヘ喫  
カシタル者ハ輕クスル者ニ非ズ

第三百六條 二人以上共ニ人ヲ殴打スルニ當リ自ラ人ヲ傷セスト雖尼幫助シテ  
傷ヲ成サシメタル者ハ現ニ傷ヲ成シタル者ノ刑ニ一等ヲ減ス  
ニ自分ニハ人ヲ創ケザレドモ助ケテ創ツケサシタル者ハ現ニ創ヲ爲シタル  
者ノ仕置ヨリ一等ヲ輕クスルナリ

第三百七條 健康ヲ害ス可キ物品ヲ施用シテ人ヲ疾苦セシメタル者ハ豫メ謀テ

殴打創傷スルノ例ニ照シテ處斷ス  
ハシタル者ト  
同ジク仕置ス

第三百八條 人ヲ殺スノ意ニ非スト雖尼詐稱誘導シテ危害ニ陥レ因テ疾病死傷

ニ致シタル者ハ殴打創傷ヲ以テ論ス

第三節 殺傷ニ関スル有想及ヒ不諭罪  
人ヲ殺シ傷ケタル機嫌ニヨリテ  
ルコト  
ヲ示ス

第三百九條 自己ノ身體ニ暴行ヲ受クルニ因リ直チニ怒ヲ發シ暴行人ヲ殺傷シ



タル者ハ其罪ヲ宥恕ス但不正ノ所為ニ因リ自ラ暴行ヲ招キタル者ハ此限ニ在ラス  
圖 自分ノ体ヘ亂暴セラルヨリ為メニ怒リヲ發シ亂暴人ヲ殺シ傷ケタル者ハ其ノ罪ヲ宥恕セラル去レドモ元ト正シカラサル事ヲ為シタルヨリ他人ノ亂暴ヲ受ケタル場合ニアリ  
 テハ宥恕スベキニアラザルナリ

第三百十條 殴打シテ互ニ創傷シ其手ヲ下スノ先後ヲ知ルル能ハサル者ハ各其罪ヲ宥恕スルヲ得  
圖 互ニ打テ合フテ双方創傷ヲ負ヒ孰レカ先ニ手出シヲ為シタルコトノ分ラザル者ハ双方ノ罪ヲ宥恕スルコトヲ得ルナリ

第三百十一條 本夫其妻ノ姦通ヲ寛知シ姦所ニ於テ直テニ姦夫又ハ姦婦ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ宥恕ス但本夫先ニ姦通ヲ縱容シタル者ハ此限ニ在ラス  
圖 夫レノ妻ヲ姦通スルコトヲ知り其ノ場所ニテ直クニ姦夫又ハ姦婦ヲ殺シ傷ケタルモノハ其ノ罪ヲ宥恕スルナリ去レドモ夫ガ先以テ姦通ヲ容シタル時ハ若シテ宥恕スルコトナキナリ

第三百十二條 晝間故ナク人ノ住居シタル邸宅ニ入り若クハ門戶牆壁ヲ踰越損壞セントスル者ヲ防止スル為メ之ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ宥恕ス  
圖 晝間何ノ用事モナク

人ノ住居ニ入り又ハ門戶牆壁ヲ乘リ越ヘントスルモノヲ防クタメ之レヲ殺シ傷ケタルモノハ其罪ヲ宥恕スルナリ

第三百十三條 前數條ニ記載シタル宥恕ス可キ罪ハ各本刑ニ照シ二等又ハ三等ヲ減ス

第三百十四條 身體生命ヲ正當ニ防衛シ已ムヲ得サルニ出テ暴行人ヲ殺傷シタル者ハ自己ノ為メニシ他人ノ為メニスルヲ分タス其罪ヲ論セズ但不正ノ所為ニ因リ自暴行ヲ招キタル者ハ此限ニ在ラス  
圖 身體生命ヲ當リ前ニ防セ衛リ已ムコトナク亂暴人ヲ殺シ傷ケタルモノハ自分ノ為メナルト人ノ為メナルトニ拘ハラズ罪ヲ論ゼズ但シ正シカラズ亂暴ヨリシテ亂暴ヲ招キタル如キハ此ノ限リニアラズ

第三百十五條 左ノ諸件ニ於テ已ムヲ得サルニ出テ人ヲ殺傷シタル者ハ其ノ罪ヲ論セズ

- 一 財産ニ對シ放火其他暴行ヲ為ス者ヲ防止スルニ出タル者
- 二 盜犯ヲ防止シ又ハ盜賊ヲ取還スルニ出タル時
- 三 夜間故ナク人ノ住居シタル邸宅ニ入り若クハ門戶牆壁ヲ踰越損壞スルニ出



タル時 左ノ事柄ニ付キ已ムコトヲ得ズ人ヲ殺シ傷ケタル者ハ其ノ罪ヲ論ゼザル事トス 所持物ヘ火ヲ放チ其ノ外亂暴ヲ爲スヲ防クニ出タル時 盗人ヲ防キ又ハ盜ニレ品ヲ取リ還スニ出タル時 夜中何ノ用事モナク人ノ宅宅ニ入り又ハ門戸牆壁ヲ乘リ越ヘ或ハ毀ツ者ヲ防グニ出デタル時

第三百十六條 身體財産ヲ防衛スルニ出ルト雖モ已ムコトヲ得サルニ非スシテ害ヲ暴行人ニ加ヘ又ハ危害已ニ去リタル後ニ於テ勢ニ乘シ仍ホ害ヲ暴行人ニ加

ヘタル者ハ不論罪ノ限ニ在ラス但情状ニ因リ第三百十三條ノ例ニ照シ其罪ヲ宥想スルコトヲ得

身體ヲ所持品ヲ防グヨリスルトハ暴トモ已ムコトヲ得ザルコトモナク又ハ急フキト已ニ去リタル後ニ勢ヒニ乘リテ亂暴人ニ害ヲ加ヘタルモノハ罪ヲ論ゼヌ類ニ非ザルナリ尤モ其ノ規模ニヨリテハ第三百十三條ノ如ク其ノ罪ヲ宥想スルコトナリ

第四百節 過失殺傷ノ罪 誤リテ人ヲ殺シ又ハ傷ケタル者ノ仕置ヲ示ス

第三百十七條 疎威懈怠又ハ規則慣習ヲ遵守セズ過失ニ因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

罰金ヲ付ケズ又ハ事ニ懈リ又ハ規則ヲ遵守セザル者ハ過失ニ因テ人ヲ死ニ致シタル者ノ仕置ナリ

第三百十八條 過失ニ因テ人ヲ創傷シ癆篤疾ニ致シタル者八十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

過リテ人ヲ創傷ケカタル者ト爲シタル者ノ仕置ナリ

第三百十九條 過失ニ因テ人ヲ創傷シ疾病休業ニ至ラシメタル者八二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

過リニテ人ヲ創傷ケ病ニ陥サシ病ヲ依マシタル者ノ仕置ナリ

○第五節 自殺ニ關スル罪 自分ヲ死スル即チ自害ヲ人ニ勸メタル者ノ仕置ヲ示ス

第三百二十條 人ヲ教唆シテ自殺セシメ又ハ囑託ヲ受ケテ自殺人ノ爲メニ手ヲ下シタル者ハ六月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス其他自殺ノ補助ヲ爲シタル者ハ一等ヲ減ス

人ヲ唆カシテ自殺セシメ又ハ囑託ヲ自害スル人ノ爲メニ手ヲ下シタル者ノ仕置ナリ其ノ外ノ神助ヲナシタルモノハ右ノ仕置ヨリ一等ヲ輕クス

第三百二十一條 自己ノ利ヲ圖リ人ヲ教唆シテ自殺セシメタル者ハ重懲役ニ處ス

自己ノ利ヲ得ンタメ人ヲ勸メテ自害セシメタルモノハ仕置ニ

第六節 擅三人ヲ逮捕監禁スル罪 自修二人ヲ捕ヘ又ハ人ヲ牢ニ入レル者等ノ仕置ヲ示ス

自修二人ヲ捕ヘ又ハ人ヲ牢ニ入レル者等ノ仕置ヲ示ス

自修二人ヲ捕ヘ又ハ人ヲ牢ニ入レル者等ノ仕置ヲ示ス

自修二人ヲ捕ヘ又ハ人ヲ牢ニ入レル者等ノ仕置ヲ示ス

自修二人ヲ捕ヘ又ハ人ヲ牢ニ入レル者等ノ仕置ヲ示ス

自修二人ヲ捕ヘ又ハ人ヲ牢ニ入レル者等ノ仕置ヲ示ス

自修二人ヲ捕ヘ又ハ人ヲ牢ニ入レル者等ノ仕置ヲ示ス

自修二人ヲ捕ヘ又ハ人ヲ牢ニ入レル者等ノ仕置ヲ示ス

自修二人ヲ捕ヘ又ハ人ヲ牢ニ入レル者等ノ仕置ヲ示ス

自修二人ヲ捕ヘ又ハ人ヲ牢ニ入レル者等ノ仕置ヲ示ス



第二百二十二條 擅ニ人ヲ逮捕シ又ハ私家ニ監禁シタル者ハ十一日以上二月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

但監禁日數十日ヲ過ル毎ニ一等ヲ加フ  
自供ニ人ヲ捕ヘ又ハ自介ノ家ニ閉チ送メタルモノハ仕置ナリ但シ閉チ送メノ日數十日ニツキ仕置一等ツリヲ加フルナリ

第二百二十三條 擅ニ人ヲ監禁制縛シテ毆打拷責シ又ハ飲食衣服ヲ屏去シ其他

苛刺ノ所爲ヲ施シタル者ハ二月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓

以下ノ罰金ヲ附加ス  
自供ニ人ヲ閉チ送メ已レノ勢ニテ擱メ取リ打チ叩キ拷問ナドナシ又ハ飲食ヲ衣毛ノ杯ヲ取リ棄テ其ノ外無殘ノ事ヲ爲シタル者ノ仕置ナリ

者ノ仕置ナリ

第二百二十四條 前條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ

各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第二百二十五條 擅ニ人ヲ監禁シ水火震災ノ際其監禁ヲ解クコトヲ怠リ因テ死傷

ニ致シタル者ハ亦前條ノ列ニ同シ

第七節

脅迫ノ罪  
レノ威勢強ガニテ人ヲ恐レサシタルノ仕置ナリ

第二百二十六條 人ヲ殺サント脅迫シ又ハ人ノ住居シタル家屋ニ放火セント脅

迫シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ

附加ス

毆打創傷其他暴行ヲ加ヘント脅迫シ又ハ財産ニ放火シ及ヒ毀壞劫掠セント脅

迫シタル者ハ十一日以上二月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上十圓以下ノ罰金ヲ

附加ス  
人ヲ殺サント威勢ニテ威シ立テ又ハ人ノ住居ヲ燒カント威勢ニテ威シ立テタル者ノ仕置ナリ 打チ叩キテ縛付ント言ヒ又ハ其ノ外ノ亂暴ヲ爲サント言ヒ又ハ所持品ヲ燒キ及ヒ毀チ或ハ擲ハント威勢ニテ威シ立テタル者ノ仕置ナリ

第二百二十七條 兇器ヲ持シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ各一等ヲ加フ  
兇器ハ刀ヲ持ヘ

第二百二十八條 親屬ニ害ヲ加フ可キ事ヲ以テ脅迫シタル者ハ亦前二條ノ例ニ

同シ  
親類ナドハ害ヲ加フコトヲ威シタル者ハ前二條ニ同ジキ

第三編 第七節 第八節

五十六 法律所



第三百二十九條 此節ニ記載シタル罪ハ脅迫ヲ受ケタル者又ハ其親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス 此ノ節ニ載セタル罪ハ威シテ受ケタル者又ハ其親類ヨリ証ヘ出ザレバ罪ヲ問ハザルナリ

第八節 墮胎ノ罪

圖 孕ニタル子ヲオロス者ノ仕置ヲ示スナリ

第三百三十條 懷胎ノ婦女藥物其他ノ方法ヲ以テ墮胎シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス 圖 孕三婦ガ藥ヤ其ノ外ノ仕置ニテ子ヲオロシタルモノ、仕置ナリ

第三百三十一條 藥物其他ノ方法ヲ以テ墮胎セシメタル者ハ亦前條ニ同シ因テ

婦女ヲ死ニ致シタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス 圖 藥ヤ其ノ外ノ仕置ナリ

第三百三十二條 醫師總汲又ハ藥商前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ各一等ヲ加フ 圖 医リ場ガ藥又ハ藥屋ナドニテ前條ノ罪ヲ犯シタル時ハ各々一等ヲ重ク仕置スルナリ

第三百三十三條 懷胎ノ婦女ヲ威逼シ又ハ誑騙シテ墮胎セシメタル者ハ一年以

刑法第三編

上四年以下ノ重禁錮ニ處ス 圖 孕三婦ヲ斃テ以テ逆リ又ハ騙シテ子ヲオロサシメタル者ノ仕置ナリ

第三百三十四條 懷胎ノ婦女ナルヲ知テ毆打其他暴行ヲ加ヘ因テ墮胎ニ至ラシメタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス其墮胎セシムルノ意ニ出タル

者ハ輕懲役ニ處ス 圖 孕三婦トイフ事ヲ知リナガラ打テ叩キ其ノ乱暴ヲ加ヘテ子ヲオロサシメタル者ノ仕置ナリ

テ爲セシ者ハ右ノ仕置ヨリ重キナリ

第三百三十五條 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ婦女ヲ癡篤疾又ハ死ニ致シタル者ハ毆

打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處断ス

○第九節 幼者又ハ老疾者ヲ遺棄スル罪 圖 子供ヤ老人ヤ病人ナドヲ棄テ

第三百三十六條 八歳ニ滿サル幼者ヲ遺棄シタル者ハ一年以上一年以下ノ重禁

錮ニ處ス

自ラ生活スルヲ能ハサル老者疾病者ヲ遺棄シタル者亦同シ 圖 滿八歳ニ足ラザ

者ノ仕置ナリ ○自分ヲ養ヒシノ出來ザル老人ヤ病人ナドヲ棄テタル者モ同シ



第三百三十七條 八歳ニ滿サル幼者又ハ老疾者ヲ寡獨無人ノ地ニ遺棄シタル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス

滿八歳ニ足ラサル子供ヤ老人ヤ病人ナドヲ寡シクテ人ノ居ラヌ地ニ棄テタル者ノ仕置ナリ

第三百三十八條 給料ヲ得テ人ノ寄託ヲ受ケ保養ス可キ者前二条ノ罪ヲ犯シタル時ハ各二等ヲ加フ

第三百三十九條 幼者老疾者ヲ遺棄シ因テ廢疾ニ致シタル者ハ輕懲役ニ處シ篤疾ニ致シタル者ハ重懲役ニ處シ死ニ致シタル者ハ有期徒刑ニ處ス

子供老人病人ナドヲ棄テ夫レガタノ一生瀕海ヲ又病ニ致シタル者ト死スル程ノ大病ニ致ラシタル者ト死ニ致ラシタル者ト三様ニ仕置ヲ分カテリ

第三百四十條 自己ノ所有地又ハ看守ス可キ地内ニ遺棄セラレタル幼者老疾者アルヲ知テ之ヲ扶助セス又ハ官署ニ申告セサル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス

若シ疾病ニ罹リ昏倒スル者アルヲ知テ扶助セス又ハ申告セサル者亦同シ

圖自分ノ持チ地又ハ借テスル地ノ内ニ棄テアル子供ヤ老人ヤ病人ナドアルコトヲ知リナガラ之ヲ眺ケズ又ハ役所ニ申出デザル者ノ仕置ナリ

○第十節 幼者ヲ略取誘拐スル罪

第三百四十一條 十二歳ニ滿サル幼者ヲ略取シ又ハ誘拐シテ自ラ藏匿シ若クハ他人ニ交付シタル者ハ一年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三百四十二條 十二歳以上二十歳ニ滿サル幼者ヲ略取シテ自ラ藏匿シ若クハ他人ニ交付シタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

若クハ他人ニ交付シタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

若クハ他人ニ交付シタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

若クハ他人ニ交付シタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス



第三百四十三條 略取誘拐シタル幼者ナルヲ知テ自己ノ家屬僕婢ト爲シ又ハ

其他ノ名稱ヲ以テ之ヲ收受シタル者ハ前三條ノ例ニ照シ各一等ヲ減ス無理ニ連レ

出シ又ハ欺シテ連れ出シタル子供ト知リナガラ自ラ家来下如トナシ其ノ外ノ名ヲ付ケテ受取リタル者ハ前二條ノ仕置ヨリ一等ヲ輕クスルナリ

第三百四十四條 前數條ニ記載シタル罪ハ被害者又ハ其親屬ノ告訴ヲ待テ其罪

ヲ論ス但略取誘拐セラレタル幼者式ニ從テ婚姻ヲ爲シタル時ハ告訴ノ效ナシ

第三百四十一條以下ノ罪ハ害ヲ受ケタル者カ其ノ親類カヨリ訴ヘズバ罰セヌナリ但シ其ノ子供式通りノ婚約シタル時ハ訴ヘテモ效ナキナリ

第三百四十五條 二十歳ニ滿サル幼者ヲ最誘拐シテ外國人ニ交付シタル者ハ

輕懲役ニ處ス二十歳以下ノ子供ヲ奪ヒ取り又ハ欺シ取りテ外國人ニ渡シタル者ノ仕置ナリ

○第十一節 猥褻及淫重婚ノ罪猥リナル車ヲ爲シ又ハ男女通シ又ハ二重婚ヲ爲シタル者ノ仕置ヲ示ス

第三百四十六條 十二歳ニ滿サル男女ニ對シ猥褻ノ所行ヲ爲シ又ハ十二歳以上

ノ男女ニ對シ暴行脅迫ヲ以テ猥褻ノ所行ヲ爲シタル者ハ一月以上一年以下ノ

重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス十二歳ニ足ラヌ男女ニ向テ猥リナル車ヲ爲シ又ハ十

二歳以上ノ男女ニ向テ亂暴或ハ威嚇ニテ猥リナル事ヲ爲シタル者ノ仕置ナリ

第三百四十七條 十二歳ニ滿サル男女ニ對シ暴行脅迫ヲ以テ猥褻ノ所行ヲ爲シ

タル者ハ二月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加

ス十二歳以上ノ男女ニ向テ亂暴又ハ威嚇ニテ猥リナル事ヲ爲シタル者ノ仕置ナリ

第三百四十八條 十二歳以上ノ婦女ヲ強姦シタル者ハ輕懲役ニ處シ禁錮等ヲ用

ヒ人ヲ昏睡セシメ又ハ精神ヲ錯亂セシメテ姦淫シタル者ハ強姦ヲ以テ論ス十

二歳以上ノ女ヲ承知セヌニ無理カラ通シタル者ノ仕置ナリ 藥酒ヲ飲セテ昏マシ睡ラセ又ハ正氣ヲ失ハシメテ通ジタル者モ同ジク仕置スルナリ

第三百四十九條 十二歳ニ滿サル幼女ヲ姦淫シタル者ハ輕懲役ニ處ス若シ強姦

シタル者ハ重懲役ニ處ス十二歳ニ足ラヌ女ノ子ニ通シタル者ノ仕置ナリ若シ前條ノ如クシテ通シタル時ハ其ノ罪重シ

第三百五十條 前數條ニ記載シタル罪ハ被害者又ハ其親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ

論ス

第三百五十一條 前數條ニ記載シタル罪ヲ犯シテ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ毆



打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處断ス但強姦ニ因テ癩篤疾ニ致シタル者ハ

有期徒刑ニ處シ死ニ致シタル者ハ無期徒刑ニ處ス第三百四十六條以下ノ罪ヲ犯シ夫レガタメ人ヲ死又ハ傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ罪ノ重キ方ノ仕置トナシ強姦ニテ一生涯ノ病ニ至ラシメル者ハ有期徒刑ニ死ニ致シタル者ハ無期徒刑トナス

第三百五十二條 十六歳ニ滿サル男女ノ淫行ヲ勸誘シテ媒合シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス十六歳以上ヲ勸メテ紳介ヲ為シタル者ノ仕置ナリ

第三百五十三條 有夫ノ婦姦通シタル者ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス其相姦スル者亦同シ

此條ノ罪ハ本夫ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス但本夫先ニ姦通ヲ縱容シタル者ハ告訴ノ效ナシ夫ノアル女ガ他人ト通シタル時ハ男ト女モ同ジク仕置セラレ去テモ效ナキモノナリ

第三百五十四條 配偶者アル者重子ヲ婚姻ヲ爲シタル時ハ六月以上二年以下ノ

重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス連レ合ノアル者ガ二重ノ婚ヲ爲シタル時ノ仕置ナリ

第十二節 誣告及ヒ誹毀ノ罪罪ノナキ人ヲ罪アリト言フテ誣ヘ及ビ人ヲ誹リテ惡ク言フ者ノ仕置ナリ

第三百五十五條 不實ノ事ヲ以テ人ヲ誣告シタル者ハ第三百二十條ニ記載シタル偽證ノ例ニ照シテ處断ス何モ無キ事ヲ有ル事トシテ誣ヘ出デタル者ハ第三百二十條ノ例ニ照シテ處断ス二百二十條ノ例ニ照シテ誣告立テヲ爲シタル者ト同ジク仕置スルナリ

第三百五十六條 誣告ヲ爲スト虽モ被告人ノ推問ヲ始メサル前ニ於テ誣告者自首シタル時ハ本刑ヲ免ス言ヒ掛ケシテ誣ヘ出ルトモ被告人ノ取柄ヲ始メヌ前ニ自白シタル時ハ仕置ヲ免ルナリ

第三百五十七條 誣告ニ因テ被告人刑ニ處セラレタル時ハ第三百二十二條第二百二十二條ニ記載シタル例ニ照シテ處断ス

第三百五十八條 惡事醜行ヲ摘發シテ人ヲ誹毀シタル者ハ事實ノ有無ヲ問ハス左ノ例ニ照シテ處断ス人ノ惡キ事ヲ醜キ行ヒナドヲアラハシテ人ヲ誹リタルモノハ其ノ事ノアルト無キトニ拘ハラズ左ノ如ク處ス

第三百二十條 被害ノ人ヲ誣告スル者ハ左ノ例ニ照シテ處断ス

一 重罪ニ陪ラシムル爲メハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

二 輕罪ニ陪ラシムル爲メハ一年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

三 輕罪ニ陪ラシムル爲メハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス其相姦スル者亦同シ

此條ノ罪ハ本夫ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス但本夫先ニ姦通ヲ縱容シタル者ハ告訴ノ效ナシ夫ノアル女ガ他人ト通シタル時ハ男ト女モ同ジク仕置セラレ去テモ效ナキモノナリ

第三百五十四條 配偶者アル者重子ヲ婚姻ヲ爲シタル時ハ六月以上二年以下ノ

重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス連レ合ノアル者ガ二重ノ婚ヲ爲シタル時ノ仕置ナリ

第十二節 誣告及ヒ誹毀ノ罪罪ノナキ人ヲ罪アリト言フテ誣ヘ及ビ人ヲ誹リテ惡ク言フ者ノ仕置ナリ

第三百五十五條 不實ノ事ヲ以テ人ヲ誣告シタル者ハ第三百二十條ニ記載シタル偽證ノ例ニ照シテ處断ス何モ無キ事ヲ有ル事トシテ誣ヘ出デタル者ハ第三百二十條ノ例ニ照シテ處断ス二百二十條ノ例ニ照シテ誣告立テヲ爲シタル者ト同ジク仕置スルナリ

第三百五十六條 誣告ヲ爲スト虽モ被告人ノ推問ヲ始メサル前ニ於テ誣告者自首シタル時ハ本刑ヲ免ス言ヒ掛ケシテ誣ヘ出ルトモ被告人ノ取柄ヲ始メヌ前ニ自白シタル時ハ仕置ヲ免ルナリ

第三百五十七條 誣告ニ因テ被告人刑ニ處セラレタル時ハ第三百二十二條第二百二十二條ニ記載シタル例ニ照シテ處断ス

第三百五十八條 惡事醜行ヲ摘發シテ人ヲ誹毀シタル者ハ事實ノ有無ヲ問ハス左ノ例ニ照シテ處断ス人ノ惡キ事ヲ醜キ行ヒナドヲアラハシテ人ヲ誹リタルモノハ其ノ事ノアルト無キトニ拘ハラズ左ノ如ク處ス

第三百二十條 被害ノ人ヲ誣告スル者ハ左ノ例ニ照シテ處断ス

一 重罪ニ陪ラシムル爲メハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

二 輕罪ニ陪ラシムル爲メハ一年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

三 輕罪ニ陪ラシムル爲メハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス其相姦スル者亦同シ

此條ノ罪ハ本夫ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス但本夫先ニ姦通ヲ縱容シタル者ハ告訴ノ效ナシ夫ノアル女ガ他人ト通シタル時ハ男ト女モ同ジク仕置セラレ去テモ效ナキモノナリ



加ス  
 二 軽罪ニ陪  
 ラシムル爲メ  
 偽証シタル者  
 ハ六月以上二  
 年以下ノ重禁  
 錮ニ処シ四円  
 以上四十円以  
 下ノ罰金ヲ附  
 加ス  
 三 違警罪ニ  
 陪ラシムル爲  
 メ偽証シタル  
 者ハ一月以上  
 三月以下ノ重  
 禁錮ニ処シ二  
 円以上十円以  
 下ノ罰金ヲ附  
 加ス

分セ  
 ラル  
 一 公然ノ演説ヲ以テ人ヲ誹毀シタル者ハ十一日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ  
 三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス 人前テ公ケニ演説シテ人ヲ誹リタル  
者ノ仕置ナリ  
 二 書類畫圖ヲ公布シ又ハ雜劇偶像ヲ作爲シテ人ヲ誹毀シタル者ハ十五日以上  
 六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス 書キ物ヤ出  
世間ニ示シ又ハ芝居狂言ヤ人形造リ物トヲツクリテ人ヲ誹リタル者ノ  
仕置ナリ  
 第三百五十九條 死者ヲ誹毀シタル者ハ誣罔ニ出タルニ非サレハ前條ノ例  
 二照シテ處断スルヲ得ス 死タル人ヲ誹リタルトモ罪ナキ罪アリト言フニ  
アラスハ前條ノ如ク仕置スルコトハナラヌナリ

第三百六十條 醫師藥劑師護士六代言人辯護人代書人若クハ神宮僧侶其身分職  
 業ニ於テ委託ヲ受ケタル事ニ因リ知得タル陰私ヲ漏告シタル者ハ誹毀ヲ以テ  
 論シ十一日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス  
 但裁判所ノ呼出ヲ受ケテ事實ヲ陳述スル者ハ此限ニ在ラス 偽者ヤ藥屋ヤ取リ  
アケ渡々

刑法 第三編

第三百六十一條 此節ニ記載シタル誹毀ノ罪ハ被害者又ハ死者ノ親屬ノ告訴ヲ  
 待テ其罪ヲ論ス  
 ○第十三節 祖父母父母ニ對スル罪 孫ガ子、バ、ニ對シテ子ガ父母ニ對シ  
テノ罪ヲ仕置スルヲ示スナリ  
 第三百六十二條 子孫其祖父母父母ヲ謀殺故殺シタル者ハ死刑ニ處ス  
 其自殺ニ關スル罪ハ凡人ノ刑ニ照シ二等ヲ加フ 子ガ親ヲ殺シ孫ガ子、バ、ヲ謀  
時ノ仕置ナリ○自殺ニ關係シテノ罪ハ並々ノ人トヨリハ二等ヲ重ク仕  
置スルナリ

第三百六十三條 子孫其祖父母父母ニ對シ殴打創傷ノ罪其他監禁會迫遺棄誣告  
 誹毀ノ罪ヲ犯シタル者ハ各本條ニ記載シタル凡人ノ刑ニ照シ二等ヲ加フ但瘖  
 疾ニ致シタル者ハ有期徒刑ニ處シ篤疾ニ致シタル者ハ無期徒刑ニ處シ死ニ致  
 シタル者ハ死刑ニ處ス 子ガ親ヲ殺シ孫ガ子、バ、ヲ打テ創ヲ與ハセタル罪ヤ  
其ノ外開テ述ベタル威勢ヲ迫リタル罪ナキヲ



罪アリトシタリシタリタル時ハ夫々ノ仕置ヨリハ一等ヲ重ク加ヘルナリ  
但シ不具トナシ死スルノ病人トナシ死ニ致ラス等ハ夫々重キ仕置ニ達セナ  
リ

第三百六十四條 子孫其祖父母父母ニ對シ衣食ヲ供給セス其他必要ナル奉養ヲ  
缺キタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金  
ヲ附加ス

因テ疾病又ハ死ニ致シタル者ハ亦前條ノ例ニ同シ  
ヘズ其ノ外無クテハナラヌ又ハ死ニ致ラス等ノ仕置ハ前條ニ準ズ  
病氣ヲ非キ起シ又ハ死ニ致ラス等ノ仕置ハ前條ニ準ズ

第三百六十五條 祖父母父母ニ對シタル教傷ノ罪ハ特別ノ宥恕及ヒ不諭罪ノ例  
ヲ用フルヲ得ス但其犯ス時知ラサル者ハ此限ニ在ラス  
テ、バ、兩親ナド  
スナドノ罪ハ特別ノ宥恕ヲ論セ又杯ノ例ヲ用ユル事ハナラヌ又ナリ去レ  
ドモ罪ヲ犯ス時ニテ、バ、兩親トイフ事ヲ知ラサリシ時ハ此ノ限リニアラ  
ザルモ  
ノトス

△第三章 財産ニ對スル罪  
人ノ金銭ヤ品物ナドニ對シテ爲シタル罪ノ仕置  
ヲ示ス

○第一節 竊盜ノ罪  
人ノ品物ヲ忍ビテ竊カニ盜三取リタル者ノ仕置ヲ示  
ス

第三百六十六條 人ノ所有物ヲ竊取シタル者ハ竊盜ノ罪ト爲シ二月以上四年以  
下ノ重禁錮ニ處ス  
人ノ所持ノ品物ヲ竊カニ取リタル者ハ竊盜ノ罪トナシテ  
ノ仕置ナリ

第三百六十七條 水地震其他ノ災ニ乘シテ竊盜ヲ犯シタル者ハ六月以上五年  
以下ノ重禁錮ニ處ス  
水出火車地震其ノ外ノ災ニ乘リテ竊盜シタル者ノ仕置  
ナリ

第三百六十八條 門戶牆壁ヲ踰越損壞シ若クハ鎖鑰ヲ開キ邸宅倉庫ニ入り竊盜  
ヲ犯シタル者ハ亦前條ノ例ニ同シ  
門ナリ戸ナリ牆ナリ壁ナリヲ踰シ又ハ損シ又  
ハ鎖ヲ開キテ邸宅倉庫ニ入りテ竊盜シ  
タル者ハ前條ノ如  
ク仕置スルナリ

第三百六十九條 二人以上共ニ前三條ノ罪ヲ犯シタル者ハ各一等ヲ加フ  
二人  
上ノ人ニテ前ノ三條ノ罪ヲ犯シタル者ハ夫々ノ箇條ニ一等ヲ加フルナ  
リ

第三百七十條 兇器ヲ携帶シテ人ノ住居シタル邸宅ニ入り竊盜ヲ犯シタル者ハ  
輕懲役ニ處ス  
兇器ヲ携帶シテ人ノ住居家ニ入り  
竊盜シタル者ノ仕置ナリ



第三百七十一條 自己ノ所有物ト虽ニ典物トシテ他人ニ交付シ又ハ官署ノ命令ニ因リ他人ノ看守シタル時之ヲ窃取シタル者ハ窃盗ヲ以テ論ス

トモ人ニ貸入トナシ又ハ役所ヨリノ言付ケニテ番人ノ附キアル品ヲ竊カニ取リタル時ハ窃盗ト同ジク仕置スルナリ

第三百七十二條 田野ニ於テ穀類菜菓其他ノ産物ヲ窃取シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

田野ニ於テ穀類ニハ田畑ナドニ種ヘアル穀物ヤ青物ヤ菓物ヤ其ノ外ノ作

第三百七十三條 山林ニ於テ竹木礦物其他ノ産物ヲ窃取シ又ハ川澤池沼湖海ニ

於テ人ノ生養シ若クハ營業ニ關スル産物ヲ窃取シタル者ハ亦前條ニ同シ

トニテ竹木礦物其ノ外ノ産物ヲ竊カニ取リ又ハ池澤湖海ナドニテ人ノ養ヒアルモノヤ營業ニ關儀スルモノナドヲ竊カニ取リタル者ハ前條ト同シ仕

置スルナリ

第三百七十四條 牧場ニ於テ牧畜ノ獸類ヲ窃取シタル者ハ二月以上三年以下ノ

重禁錮ニ處ス

第三百七十五條 此節ニ記載シタル輕罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ未遂

刑法第三編

犯罪ノ例ニ照シテ處断ス

第三百七十六條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ附ス

第三百七十七條 祖父母父母夫妻子孫及ヒ其配偶者又ハ同居ノ兄弟姉妹互ニ其

財物ヲ窃取シタル者ハ窃盗ヲ以テ論ス

財物ヲ分チタル者ハ窃盗ヲ以テ論ス

二取ルモ窃盗ト爲サザルナリ 去レドモ他人ト共ニ取リテコレヲ分チタル時ハ窃盗ナリトナス

○第二節 強盜ノ罪

第三百七十八條 人ヲ脅迫シ又ハ暴行ヲ加ヘテ財物ヲ強取シタル者ハ強盜ノ罪

ト爲シ輕懲役ニ處ス

第三百七十九條 強盜左ニ記載シタル情状アル者ハ一個毎ニ一等ヲ加フ

如キ様子アラバ一個ニ付 一等ヲ重ク加ヘルナリ



一二人以上共ニ犯シタル時二人以上ノ組合ニテ強盗シタル時

二兇器ヲ持テ犯シタル時及物ナドヲ携ヘテ強盗シタル時

第三百八十條 強盗人ヲ傷シタル者ハ無期徒刑ニ處シ死ニ致シタル者ハ死刑ニ

處ス強盗ガ人ニ傷ケタル時ト死ニ致シタル時トノ仕置ナリ

第三百八十一條 強盗婦女ヲ強姦シタル者ハ無期徒刑ニ處ス強盗カ婦女ヲ無時ノ仕置ナリ

第三百八十二條 窃盗財ヲ得テ其取還ヲ拒ク爲メ臨時暴行脅迫ヲ爲シタル者ハ

強盗ヲ以テ論ス窃盗ガ金銀品物ナドヲ取リタルヲ取還サントスル時ニ渡ス

第三百八十三條 藥酒等ヲ用ヒ人ヲ酔迷セシメ其財物ヲ盜取シタル者ハ強盗ヲ

以テ論シ輕懲役ニ處ス毒ノ入りタル酒ヲ吞シテ人ヲ酔ヒ解シ其ノ金銀品物ナドヲ盜取リタル者ノ仕置ナリ

第三百八十四條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ減輕ニ因テ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ

六月以上三年以下ノ監視ニ付ス

○第三節 遺失物理藏物ニ関スル罪取リ落シテ失ヒタル物マ地ニ埋メ藏シタル物ニ關係シタル罪ノ仕置ヲ示ス

第三百八十五條 遺失及ヒ漂流ノ物品ヲ拾得テ隱匿シ所有至ニ還付セス又ハ官署ニ申告セサル者ハ十一日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス拾リ物流レ物ナドヲ捨テコレヲ隠シ持チ至ニ還サザルカ又ハ役所ヘ申出デサル者ノ仕置ナリ

第三百八十六條 他人ノ所有地内ニ於テ埋藏ノ物品ヲ掘得テ隱匿シタル者ハ亦前條ニ同シ他人ノ掘ヘ地ニテ埋メタル物ヲ掘リ出シ隠シタル者ハ前條ト同ジク仕置セラルナリ

第三百八十七條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者第三百七十七條ニ掲ケタル親屬ニ係ル時ハ其罪ヲ論セス

○第四節 家資分散ニ関スル罪身代價リヲ爲スニ付キテソレニ關係スル罪ノ仕置ナリ

第三百八十八條 家資分散ノ際其財産ヲ藏匿脱漏シ又ハ虛偽ノ負債ヲ増加シタル者ハ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百七十七條 祖父母及母夫妻子孫及ヒ其配偶者又ハ同居ノ兄弟姉妹互ニ其財物ヲ竊取シタル者ハ竊盜ヲ



以テ論ズルノ  
限ニアラス

情ヲ知テ虚偽ノ契約ヲ承諾シ若クハ其媒介ヲ爲シタル者ハ一等ヲ減ス  
○身代  
限リノ  
言渡ヲ受ケナガラ其ノ金銭土地家屋品物ナドヲ隠シ又ハ取リ除ケ又ハ偽リ  
ノ借金ナド掛ヘタル者ノ仕置ナリ 其ノ事ヲ知リナガラ偽リノ金銭トナリ  
又ハ其ノ世話ヲ爲シタル者  
ハ一等ヲ輕ク仕置スルナリ

第三百八十九條 家賃分散ノ際帳簿ノ類ヲ藏匿毀棄シ若クハ分散決定ノ後債主  
中ノ一人又ハ數人ニ其負債ヲ私償シテ他ノ債主ヲ害シタル者ハ一月以上二年

以下ノ重禁錮三處ス  
○身代限ノ言渡ヲ受ケナガラ帖面ナドヲ隠シ又ハ毀キ飛  
テ或ハ身代限リト決定シテ後チニ金主ノ中ノ人ト一ツト  
ナリ其ノ借金ヲ私カニ拂フテ外ノ金  
至ニ迷惑ヲ掛ケタル者ノ仕置ナリ

第五節 詐欺取財ノ罪及ヒ受寄財物ニ関スル罪  
○人ヲ欺キテ金又ハ品ヲ  
取リタルモノハ罪ヲ預リ  
タル金又ハ品ヲ勝手ニ取  
扱フタル罪ノ仕置ノ示ス

第三百九十條 人ヲ欺罔シ又ハ恐喝シテ財物若クハ證書類ヲ騙取シタル者ハ

詐欺取財ノ罪ト爲シ二月以上四年以下ノ重禁錮三處シ四圓以上四十圓以下ノ  
罰金ヲ附加ス

○太政官十五  
年第三十四号  
布告  
脱税ノタメニ  
土地ヲ欺隱ス  
凡者八四圓以  
上四十圓以下  
ノ罰金ニ處ス

因テ官私ノ文書ヲ偽造シ又ハ増減交換シタル者ハ偽造ノ各本條ニ照シ重キニ

從テ處断ス  
○人ヲ欺キ又ハ威シ附ケテ恐レサセ金銭ナリ証文ナリヲ騙シ取リ  
タル者ハ詐欺取財ト云フテ其ノ仕置ヲナス

第三百九十一條 如者ノ知慮淺薄又ハ人ノ精神錯乱シタルニ乘シテ其財物若クハ

證書類ヲ授與セシメタル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス  
○知慮モ考ヘモナキ子供ニ  
アルヲ幸トシテ其ノ人ノ金銭ナリ証文ナリヲ受ケ取リタル者ハ詐欺取財ナ  
リトスルナリ

第三百九十二條 物件ヲ販賣シ又ハ交換スルニ當リ其物質ヲ変シ若クハ分量ヲ  
偽テ人ニ交付シタル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス  
○品物ヲ賣リ拂ヒ又ハ品ト品ト  
換ヘル時ニ其ノ品物ノ性質ヲ變  
ヘタリ目方ヲ偽リテ人ニ与ヘ  
タル者ハ詐欺取財ナリトナス

第三百九十三條 他人ノ動産不動産ヲ冒認シテ販賣交換シ又ハ抵當典物ト爲シ

タル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス  
○他人ノ持手選ビノ出来ル品物ヲ動カヌ物ナド  
賣リ又買リナドハ偽シタル  
モノハ詐欺取財ナリトス

自己ノ不動産ト虽已ニ抵當典物ト爲シタルモ欺隱シ他人ニ賣與シ又ハ重子テ

現地目ニ依リ  
地價ヲ定メ欺  
隱年間ノ租稅  
ヲ追徵ス但地  
租改正ノ初年  
以前ニ廻ル一  
ヲ得ズ  
其罪ヲ犯シ自  
首スル者ハ罰  
金ヲ免ヌ其追  
徵スベキ租稅  
ハ仍ホ之ヲ納  
メシム



抵當典物ト爲シタル者亦同シ タトヘ自分ノ勤カヌモノナリトモ巴レ人ニ質入書入質ト爲シタルヲ隠シ欺キテ外ノ人ニ手ヘ

又ハ二重ノ質入書入質ト爲シタル時ハ能欺取財ナリトス

第三百九十四條 前數條ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者ハ六月以上三年以下ノ監

視ニ付ス

第三百九十五條 受寄ノ財物借用物又ハ典物其他委託ヲ受ケタル金額物件ヲ費

消シタル者ハ一月以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス若シ騙取拐帶其他詐欺ノ所爲

アル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス 現リタル品物ヤ借リタル品物ヤ質物ヤ人ヨリ

仕置ナリ若シ騙リ取リ持チ逃ケ其ノ外詐リ欺キノ所爲アル者ハ詐欺取財

第三百九十六條 自己ノ所有ニ係ル品官署ヨリ差押ヘタル物件ヲ藏匿脱漏シ

タル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス但家資分散ノ際此罪ヲ犯シタル者

ハ第三百八十八條ノ例ニ照シテ處断ス タトヘ自分ノ所持品タリトモ

リスル者ノ仕置ナリ尤モ身代限りノ時ニ斯クノ如キ事ヲ致シタナラ第三百

第三百八十八條 家資分散

ノ際其財產ヲ藏匿脱漏シヌ

ハ虚偽ノ負債ヲ增加シタル

者ハ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百七十七條 祖父母父

母夫妻子孫及

ハ其配偶者又

ハ同居ノ兄弟

姉妹互ニ其財

物ヲ竊取シタ

ル者ハ竊盜ヲ

以テ論スルノ

限ニアラス

若シ他人共ニ

犯シテ財物ヲ

分チタルモノ

第三百九十七條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯

罪ノ例ニ照シテ處断ス

第三百九十八條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者第三百七十七條ニ掲ケタル

親屬ニ係ル時ハ其罪ヲ論セス

○第六節 贓物ニ関スル罪 盗三品ニ關係ス

第三百九十九條 強盜盜ノ贓物ナルヲ知テ之ヲ受ケ又ハ寄藏故買シ若クハ牙

保ヲ爲シタル者ハ一月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金

ヲ附加ス 強盜盜ノ取リ得タル品物ナリト知リナガラ賣ヒ受ケタリ隠リタ

第四百條 前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ六月以上三年以下ノ監視ニ付ス

第四百一條 詐欺取財其他ノ犯罪ニ關シタル物件ナルヲ知テ之ヲ受ケ又ハ寄

藏故買シ若クハ牙保ヲ爲シタル者ハ十一日以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓

以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス 詐欺取財其ノ外ノ罪ヲ犯シテ得タル品物ナ



ハ竊盜ヲ以テ  
論ス

買フタリ保証人トナリ  
タリセシ者ノ仕置ナリ

○第七節 放火失火ノ罪  
火附ケテシタリ避キテ火事ヲ起シタリシタル罪ノ仕置ナリ

第四百二條 火ヲ放テ人ノ住居シタル家屋ヲ燒燬シタル者ハ死刑ニ處ス  
テ人ノ住ミテ居ル家ヲ燒キタル者ノ仕置ナリ

第四百三條 火ヲ放テ人ノ住居セサル家屋其他ノ建造物ヲ燒燬シタル者ハ無期  
徒期ニ處ス  
テ物ヲ燒キタル者ノ仕置ナリ

第四百四條 火ヲ放テ廢屋及ヒ柴草肥料等ヲ貯フル屋舎ヲ燒燬シタル者ハ重懲  
役ニ處ス  
テ附ケ火ヲシテ廢レ家ヤ薪草肥料ヲ入レアル納屋等ヲ燒キタル者ノ仕置ナリ

第四百五條 火ヲ放テ人ヲ乗載シタル船舶漁車ヲ燒燬シタル者ハ死刑ニ處ス  
其人ヲ無載セサル船舶漁車ニ係ル時ハ重懲役ニ處ス  
テ附ケ火ヲシテ人ヲ乗セ  
燒キタル者ノ仕置ナリ 人ヲ乗セザル船舶漁車ナル時ハ其ノ仕置輕ク  
シテ重懲役ナリ

第四百六條 火ヲ放テ山林ノ竹木田野ノ穀麥又ハ露積シタル柴草竹木其他ノ物  
件ヲ燒燬シタル者ハ輕懲役ニ處ス  
米麥ヤ外ニ積ミアル草木竹ヤ其ノ外ノ品ヲ  
燒キタル者ノ仕置ナリ

第四百七條 火ヲ放テ自己ノ家屋ヲ燒燬シタル者ハ二月以上三年以下ノ重禁錮  
ニ處ス  
テ附ケ火ヲシテ自分ノ家  
ヲ燒キタル者ノ仕置ナリ

第四百八條 放火ノ罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上三年以下ノ監視ニ  
付ス

第四百九條 火ヲ失シテ人ノ家屋財產ヲ燒燬シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ  
罰金ニ處ス  
テ避キテ火事ヲ起シ人ノ家ヤ諸品物ヲドヲ燒キタルモノ、仕置ナ  
リ

第四百十條 火藥其他激發ス可キ物品又ハ煤氣并蒸氣罐ヲ破裂セシメテ人ノ家  
屋財產ヲ毀壞シタル者ハ其故意ニ出ルト過失トヲ分子放火失火ノ例ニ照シテ  
處斷ス  
火藥其ノ外類シク發ケル品ヤ石炭ノ氣ヤ蒸氣ノ罐ナドヲ破ラシテ人  
ノ家ナリ品物ナリヲ燒キタル者ハ故意ト仕タナラ附ケ火ト同ジク過失  
テ仕タナラ過シテ火ヲ起シタ  
ル者ト同ジク仕置スルナリ

刑法第三編

六十七



○第八節 決水ノ罪 國河ヤ池ヤ濠ナドノ堤ヲ切りテ水ヲ漏シ流シタル者ノ罪ヲ示ス

第四百十一條 堤防ヲ決潰シ又ハ水閘ヲ毀壞シテ人ノ住居シタル家屋ヲ漂流シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

若シ人ノ住居セサル家屋其他ノ建造物ヲ漂流シタル者ハ重懲役ニ處ス 人ノ家ヤ其ノ外ノ建テ物ヲ流シ失ヒタル者ノ罪ヲ示ス

第四百十二條 堤防ヲ決潰シ水閘ヲ毀壞シテ田圃礦坑牧場等ヲ荒廢シタル者ハ輕懲役ニ處ス 堤ヲ切り潰シ關ヲ毀テ田圃礦坑牧場ナドヲ荒シタル者ノ罪ヲ示ス

第四百十三條 他人ノ便益ヲ損シ又ハ自己ノ便益ヲ圖ル爲メ堤防ヲ決潰シ水閘ヲ毀壞シ其他水利ヲ妨害シタル者ハ一月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス 人ノ便利ヲ妨ゲタリ已レノ便利ヲ得ンタメ堤ノ切リ潰シ關ヲ毀テ其ノ外水ノ道ヲ妨ゲタル者ノ罪ヲ示ス

第四百十四條 過失ニ因テ水害ヲ起シタル者ハ失火ノ例ニ照シテ處斷ス 過失ニ因テ水害ヲ起シタル者ノ罪ヲ示ス

害ヲ起シタル者ハ過失ニテ火事ヲ起シタルモノト同ジク罰クナリ

第九節 船舶ヲ覆没スル罪 大船ヤ小船ヲ覆シ沈メタル者ノ罪ヲ示ス

第四百十五條 衝突其他ノ所爲ヲ以テ人ヲ乗載シタル船舶ヲ覆没シタル者ハ死刑ニ處ス但船中死亡ナキ時ハ無期徒刑ニ處ス 船中ノ衝突ニテ人ヲ乗リタル大船小船ヲ覆ヘシ沈メタル者ノ罪ヲ示ス

第四百十六條 前條ノ所爲ヲ以テ人ヲ乗載セサル船舶ヲ覆没シタル者ハ輕懲役ニ處ス 前條ノ如クスルモノヲ乗セテナキ大船小船ヲ覆ヘシ沈メタル者ノ罪ヲ示ス

第十節 家屋物品ヲ毀壞シ及ヒ動植物ヲ害スル罪 家屋敷ヤ品物ナドヲ毀テ害シタル者ノ罪ヲ示ス

第四百十七條 人ノ家屋其他ノ建造物ヲ毀壞シタル者ハ一月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス 人ノ家屋敷其ノ外ノ建テ物ヲ毀テ害シタル者ノ罪ヲ示ス

因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ殴打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス 人ノ死傷ヲ致シタル者ノ罪ヲ示ス



タメ人ニ傷ケ又ハ殺シタル時ハ毆打劍傷ノ夫々ノ罪ノ重キ方ノ仕置トナス

第四百十八條 人ノ家屋ニ屬スル牆壁及ヒ圍池ノ裝飾又ハ田圃ノ樊圍牧場ノ柵

柵ヲ毀壞シタル者ハ十一日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ二回以上三十圓

以下ノ罰金ニ處ス圖人ノ家屋敷ニ付キテアル柵ヤ壁ヤ庭池ナドノ飾リヤ田圃

第四百十九條 人ノ稼穡竹木其他需用ノ植物ヲ毀損シタル者ハ十一日以上六月

以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス圖人ノ田圃ニ植付

ヤ其ノ外人間ノ無クテハナラヌ故

第四百二十條 土地ノ境界ヲ表シタル物件ヲ毀壞シ又ハ移轉シタル者ハ一月以

上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス圖甲ト乙トノ

シタル物ヲ毀テ又ハ外ハ

第四百二十一條 人ノ器物ヲ毀棄シタル者ハ十一日以上六月以下ノ重禁錮ニ處

シ又ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス圖人ノ器物ヲ毀テ棄テタル者ノ仕置

移シタル者ノ仕置ナリ

第四百二十二條 人ノ牛馬ヲ殺シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二

圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス圖人ノ牛馬ヲ殺シ

第四百二十三條 前條ニ記載シタル以外ノ家畜ヲ殺シタル者ハ二圓以上二十圓

以下ノ罰金ニ處ス但被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス圖牛馬ノ外ノ家ニ畜シテ

仕置ナリ去レドモ害ヲ受ケタル者

第四百二十四條 人ノ權利義務ニ関スル證書類ヲ毀棄滅盡シタル者ハ二月以上

四年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス圖人ノ權利ト義務

證明トナルベキ書キ物ノ類ノ棄テ

タリ無クシタリスル者ノ仕置ナリ







○十五年太政

官第六十四号  
布告

密賣淫ノ儀ハ

刑法第四百二

十五條第十項

ニ明文有之候

ヘドモ當分ノ

内其取締懲罰

ハ從前ノ通東

京ハ警視廳其

他ハ地方官ヘ

委任ス

九條

第二百十九條

偽証ノ爲メ

八自己ノ所有地内ニ死屍アルヲ知テ官署ニ申告セス又ハ他所ニ移シタル者

九人ヲ毆打シテ創傷疾病ニ至ラサル者

十密ニ賣淫ヲ爲シ又ハ其媒合容止ヲ爲シタル者

十一人ノ住居セサル家屋内ニ潜伏シタル者

十二定リタル住居ナク平常營生ノ産業ナクシテ諸方ニ徘徊スル者

十三官許ノ墓地外ニ於テ私ニ埋葬シタル者

十四違違葬ノ犯人ヲ幽庇スル爲メ偽証シタル者但被告人偽証ノ爲メ刑ヲ免カ

レタル時ハ第二百十九條ノ例ニ從フ本條中ノ第一ヨリ第五迄ハ火ノ用心ニ關係スル罪ニシテ規則ヲ守ラズシテ

出ル品物ナドヲ貯ヘタリ蒸氣ノ器械ヲ燃出シヤ火竈ナドヲ建テタリ修覆

シタリ漏除シタリ役所ノ許モナキニ花火ヲ製シタリ賣リタリ家ノ沢山ア

ル處ニテ溢リニ花火ヲ器ヲ玩ビタリスルモノナリ

第六第十一第十二ハ家屋敷ニ關係スル罪ニシテ役所ヨリ權限ヲ受ケテモ

刑法第四編

被告人正當ノ  
刑ヲ免カレタ  
ル時ハ偽証者  
ノ刑前條ノ例  
ニ照シ各一等  
ヲ加ノ

第七第八第十三ハ死人ニ就キテノ罪ニシテ役所ノ許モナキニ死體ヲ解部

シタリ我ガ持テ地ノ内ニ死體アリト知リナガラ役所ニ申出デズ又ハ外ノ

所ヘ移シタリ役所ノ許シノナキ地ヘ

死體ヲ葬リタリスル者ナドナリ

第九ハ人ヲ打テケル者ナリ

第十ハ内ケルニテ色ヲ賣リ又ハ其ノ仲人

トナリ又ハ其ノ宿ナシタル者ノ罪ナリ

第十四ハ違警罪ヲ犯シタル人ヲ曲ケ庇フテ隠リノ証據立チシタル者ナリ

若シ犯シタル人ガ夫レガタメ仕置ヲ免サレタル時ハ仕置チ一等重ク加ヘ

ルナ

第四百二十六條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ二日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ

五十錢以上一圓五十錢以下ノ科料ニ處ス

一人家ノ近傍又ハ山林田野ニ於テ濫リニ火ヲ焚ク者

二水火其他ノ害ニ際シ官吏ヨリ防禦スヘキノ求メテ受ケ傍觀シテ之ヲ肯セシ者

三不熟ノ藥物又ハ腐敗シタル飲食物ヲ販賣シタル者

四健康ヲ保護スル爲メ設ケタル規則ニ違背シタル者



五人ノ通行スベキ場所ニアル危険ノ井溝其他四所ニ蓋又ハ防圍ヲ爲サ、ル者

六路上ニ於テ犬其他ノ獸類ヲ嘯シ又ハ糞逸セシメタル者

七発狂人ノ看守ヲ怠リ路上ニ徘徊セシメタル者

八狂犬猛獸等ノ咬傷ヲ怠リ路上ニ放テタル者

九喪死人ノ檢視ヲ受ケスシテ埋葬シタル者

十墓碑及ビ路上ノ神佛ヲ毀損シ又ハ汚漬シタル者

十一神祠佛堂其他公ノ建造物ヲ汚損シタル者

十二公然人ヲ罵詈訾弄シタル者但訴ヲ待テ其罪ヲ論ス本條中第一ハ家ヤ山ヤ野ナドニテ遊リニ火ヲ焚シモノニシテ

火ノ用心ノ罪ナリ

第二ハ水出火事ナドニ役人ヨリ防グベント言ヒ付ケラレテモ見ルバカリニテ言ヒ付ケテ受ケザルモノノ罪ナリ

第三第四ハ健康上ノ罪ニシテ飲セ又菓モノヤ腐リタル飲食物ヲ賣リ健康ヲ護ルタメノ規則ヤ流行病ヲ防グ規則ニ背キタル者トモナリ

第五ヨリ第八マテハ御衆人ノ妨ゲヲ爲スノ罪ニシテ往來路ノ井戸ナリ溝ナリ田キ所ナリハ蓋ナリ圍ナリヲ爲サザルヤ路ニテ犬ナリ其ノ外カノ獸

ナリテ嚇カケタリ驚ロカセテ走シタリ發狂人ノ番人が怒タリテ路ヲサマヨワシタリ狂犬ヤ猛キ獸ナドノ驚ギ躓リヲ怠タリテ路ニ放シタリスル者

第九ハ非禮ニ死シタル人ヲ毆メモ受ケスニ鞭リタル者ノ罪ナリ

第十第十一ハ敬ヲ失ヒタル者ノ罪ニシテ石碑ヤ路端ノ神佛ナドヲ毀テ又ハ瀆ガシタリ神ノ社ヤ佛ノ臺ヤ其ノ外公ケノ建物ナドヲ汚ガシ擲ナフタル者

第十二公ケニ人ヲ罵詈訾リシタル者ノ罪ナルガ訴へ出ル者ガナクハ罪ヲ問ハヌナリ

第四百二十七條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ

二十錢以上一圓二十五錢以下ノ科料ニ處ス

一濫リニ車馬ヲ疾驅シテ行人ノ妨害ヲ爲シタル者

二制止ヲ肯セスシテ人ノ群集シタル場所ニ車馬ヲ牽キタル者

三夜中燈火ナクシテ車馬ヲ疾驅スル者

四水石等ヲ道路ニ堆積シテ防圍ヲ設ケス又ハ標識ノ點燈ヲ怠リタル者



五瓦礫ヲ道路家屋圍圍ニ投擲シタル者	六禽獸ノ死屍ヲ道路ニ棄擲シ又ハ取除カザル者	七汚穢物ヲ道路圍圍ニ投擲シタル者	八警察ノ規則ニ違背シテ工高ノ業ヲ爲シタル者	九醫師糞便事故ナクシテ急病人ノ招キニ應ゼザル者	十死亡ノ申告ヲ爲サスシテ埋葬シタル者	十一流言浮説ヲ爲シテ人ヲ誑惑シタル者	十二妄リニ吉凶禍福ヲ説キ又ハ祈禱符咒等ヲ爲シ人ヲ惑ハシテ利ヲ圖ル者	十三私有地外へ濫リニ家屋隣壁ヲ設ケ又ハ軒楹ヲ出シタル者	十四官許ヲ得スシテ路傍又ハ河岸ニ床店等ヲ開キタル者	十五路上ノ植木市街ノ常燈及ヒ厠場等ヲ毀損シタル者	十六道路橋梁其他ノ場所ニ榜示シタル通行禁止及ヒ指道標ノ類ヲ毀棄汚損シタル者
-------------------	-----------------------	------------------	-----------------------	-------------------------	--------------------	--------------------	-----------------------------------	-----------------------------	---------------------------	--------------------------	---------------------------------------

タル者	第九第十八人ノ命ヲ大切ニセザル者ノ罪ニシテ醫者ヲ取アゲ濞ヤガワケモナク急病人ノマネキニ從ハザルヤ死人ノ届出ヲナサザシテ葬リタリスル者	第十一第十二人ハ人ヲ惑ハス者ヲ罪スル者ニシテ根モナキ事ヲ言ヒ觸ラシテ人ヲ惑ハシタリ無暗ニ吉凶ヲ禱ヤ福ナドヲ説キ又ハ祈禱シタリ御符ヲ出シタリ呪ヲナドシテ人ヲ惑ハシ	第十三第十四ハ往來人ノ邪魔トナル事ヲ爲シタル者ヲ罪スルモノニシテ自分ノ持地ノ外へ卒爾ニ家ヲ墻ヤ壁ナドヲ設ケタリ軒ヲ出シタリ役所ノ許モナキニ路端ヤ河ノ岸へ床店	第十五第十六ハ往來人ノ迷惑トナルコトヲ爲シタル者ノ罪ニシテ路ノ植木ヤ町中ノ常夜燈ヤ便所ナドヲ損ジタリ道ヲ橋ヤ其ノ外ノ所ニアル	第十七ハ道ノ敷へ杭ナドヲ置テテ汚シタル者ナドナリ
-----	--	--	--	--	--------------------------

日本刑法詳解 卷下 第三編 第三十三 律書房藏版



第四百二十八條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ一日ノ拘留ニ處シ又八十錢以上二圓以下ノ料料ニ處ス

一官署ヨリ價額ヲ定メタル物品ヲ定價以上ニ販賣シタル者

二渡船橋梁其他ノ場所ニ於テ定價以上ノ通行錢ヲ取り又ハ故ナク通行ヲ妨ゲタル者

三渡船橋梁其他通行錢ヲ拂フ可キ場所ニ於テ其定價ヲ出サスシテ通行シタル者

四路上ニ於テ賭博ニ類スル高業ヲ爲シタル者

五官許ヲ得スシテ劇場其他觀物場ヲ開キ及ヒ其規則ニ違背シタル者

六溝渠下水ヲ毀損シ又ハ官署ノ督促ヲ受ケテ溝渠下水ヲ浚ハサル者

七制止ヲ肯セスシテ路傍ニ食物其他ノ商品ヲ羅列シタル者

八官許ヲ得スシテ獸類ヲ官有地ニ放チ牧畜シタル者

九身體ニ刺文ヲ爲シ及ヒ之ヲ裝トスル者

十他人ノ繫キタル牛馬其他ノ獸類ヲ解放シタル者

十一他人ノ繫キタル舟筏ヲ解放シタル者

假令定メタル品ヲ定リノ直限ヨリ上ニ賣リたり渡船橋梁ナドヲ定メヨリ直上ヲ取り又ハ夫レユヘ往來人ヲ妨ゲ又ハ往來人ヨリ定メノ價ヲ出ササル者ナリ

第四第五ハ社會ノ風儀ニ關ル罪ニシテ路ノ上ニテ博奕ニ似タル商ヒヲナシタリ官ノ許モ受ケズ芝居ヤ舞ヒ物場ヲ開キ又ハ規則ニノムキズルモノナドナリ

第六第七ハ往來人ヲ危フクシ又ハ妨グル者ノ罪ニシテ溝渠下水ヲ毀チ撥シ又ハ役所ノ催促ヲ受ケテモ其ノ浚ヘヨ爲サザリたり止メルオモ聞キ入レズ路端ニ食ヒ物ヤ其ノ外ノ商ヒ品ヲ並べ立テタル者ナドナリ

第八ハ官ノ許ヲ受ケズシテ獸類ヲ政府ノ地面ヘ放チ又ハ畜ヒタル者ノ罪ナリ

第九ハ身體ニ刺文ヲ爲シタリ又ハコレヲ職トスル者ノ罪ナリ

第十第十一ハ人ヲ傷ヒ又ハ人ニ損害ヲ与ヘル者ノ罪ニシテ人ノ繫ギタル牛馬其ノ外ノ獸ナドヲ解キ放シタリ人ノ繫ギタル舟筏ヲ解キ放ス者ナリ



第四百二十九條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ五錢以上五十錢以下ノ科料ニ處ス

一 橋梁又ハ堤防ノ害ト爲ル可キ場所ニ舟筏ヲ繫キタル者

二 牛馬諸車其他物件ヲ道路ニ横タヘ又ハ木石薪炭等ヲ堆積シテ行人ノ妨害ト爲シタル者

三 車馬ヲ並ヘ牽テ行人ノ妨害ヲ爲シタル者

四 水路ニ於テ舟ヲ並ヘ通航ノ妨害ヲ爲シタル者

五 氷雪塵芥等ヲ路上ニ投棄シタル者

六 官署ノ督促ヲ受ケテ道路ノ掃除ヲ爲サ、ル者

七 制止ヲ肯セスシテ路上ニ遊戯ヲ爲シ行人ノ妨害ヲ爲シタル者

八 牛馬ヲ牽キ又ハ繫シテ忽カセニシテ行人ノ妨害ヲ爲シタル者

九 出入ヲ禁止シタル場所ニ濫リニ出入シタル者

刑法第四編

十 通行禁止ノ榜示ヲ犯シテ通行シタル者

十一 道路ニ於テ放歌高聲ヲ発シテ制止ヲ肯セザル者

十二 路町シテ路上ニ喧噪シ又ハ酔トシタル者

十三 路上ノ常燈ヲ消シタル者

十四 人家ノ牆壁ニ貼紙及ヒ樂書シタル者

十五 邸宅ノ番号標札招牌又ハ貸家賣家ノ貼紙其他報告ノ榜標等ヲ毀損シタル者

十六 他人ノ田野園圃ニ於テ菜菓ヲ採食シ又ハ花卉ヲ採折シタル者

十七 公園ノ規則ヲ犯シタル者

十八 通路ナキ他人ノ田圃ヲ通行シ又ハ牛馬ヲ牽入レタル者

ナドノ往來ヲ妨グル者ノ罪ニシテ橋ヤ堤ノ害トナル處ハ舟筏ヲ繫ギタリ牛馬諸ノ車其ノ外ノ物ヲ路ニ横ヘ又ハ木石薪炭ナド積上ゲテ往來人ヲ妨ゲタリ車馬ヲ並ベ牽キテ往來人ヲ妨ゲタリ海河ナドハ舟ヲ並ベテ船ノ通ヒヲ妨ゲタリ氷雪塵芥ナドヲ路ニ投棄テタリ役所ノ催促ヲ受ケナガラ路ノ掃除ヲナサリタリ止メルモ聞カズシテ遊ビ戯レ往來人ヲ妨ゲタリ牛馬ヲ牽キ又ハ繫グコトヲ忽カセニシテ往來人ヲ妨ゲタリスル者

日本刑法講解 卷下 律書房藏版 七十五



ナドナリ

第九第十第十三ハ其ノ為セシ或ヨリシテ外ノ寓ヲ為スコトニ至ルノ罪ニシテ出入スルコトナラマ所へ出入シタリ往來留ノ所ヲ往來シタリ路ノ常夜燈ヲ消シタリスル者ナドナリ

第十一第十二ハ世ノ風儀ヲ紊サントスル者ノ罪ニシテ路ニテ歌ヲ放チ聲ヲ發シテ其ノ止メルヲ阻キ入レザルナリ大澤ニテ路ニテ歌キ立テ又ハ臥シタリスル者ナドナリ

第十四第十五第十六第十八ハ人ノ所有物へ迷惑ヲカケルノ罪ニシテ人家ノ壁ヤ牆ナドへ張り紙シタリ落書シタリ紙ノ番号姓名ヲ記シタル札ヤ看板ヤ貸屋賣屋ノ張り紙ヤ廣告ノ掛ケ札ナドヲ毀チ損シタリ人ノ田畑庭ナドニテ青物菜物ナドヲ採リテ食ヒ又ハ花ナドヲ折リ採リタリ路モナキ人ノ田畑ヲ通り抜ケ又ハ牛馬ヲ牽キ入レタリスル者ナドナリ

第十七ハ公園地ノ内ノ規則ヲ背キタル者ノ罪ナリ

第四百三十條 前數條ニ記載スルノ外各地方ノ便宜ニヨリ定ムル所ノ違警罪ヲ

犯シタル者ハ其罰則ニ從テ處断ス即チ七十一ヶ項ノ罪ヲ除クノ外上地ノ

ノ模倣ニヨリテ別ニ其ノ府ナリ縣ナリ限リノ違警罪ヲ設ケテ前數條ヲ補フ者ナルベキニ其ノ府縣ナリ縣縣ナリヨリ布達シタル違警罪ナ犯シタル者

ハ其ノ違警罪ノ罰ニテ罰キヲナスモノナリ

龍頭參照

日本刑法講解卷下 終

日本刑法講解

七六

律書房藏版



凡例

一治罪法ト刑法トノ關係アルヤ恰モ車輪ノ両々相待テ用ヲ為スガ如ク然リ豈ニ一ヲ欠テ用ヲ為スヲ得ベケンヤ予曩ニ日本刑法講解ニ卷ヲ脱稿シ銅鑄將ニ其竣功ヲ告ク今マ續テ治罪法講解ニ卷ヲ編ス其意蓋シ車輪ノ両ナガラ互持シテ用ヲ為スニ髣髴タリ故ニ編纂ノ方法亦刑法講解ニ準ス

一此法世ニ出テヨリ以來之レニ關スル官省ノ布告達日ニ月ニ繼出シ悉ク枚舉ニ違マアラズト虽凡其緊要ナルモノハ摘テ上欄ニ掲ケ本条ノ参照ニ便ス故ニ讀者法ヲ按スルノ片他書ヲ索ルノ勞ヲ省キ至便亦究マルナケン

明治十六年一月

編者 識



日本治罪法講解目錄

第一編 總則	自第一條 至第三十條	一丁才
第二編 刑事裁判所ノ構成及ヒ權限	計七章	八丁才
第一章 通則	自第三十一條 至第四十八條	八丁才
第二章 違警罪裁判所	自第四十九條 至第五十三條	十一丁才
第三章 輕罪裁判所	自第五十四條 至第六十二條	十二丁才
第四章 控訴裁判所	自第六十三條 至第六十九條	十三丁才
第五章 重罪裁判所	自第七十條 至第七十六條	十五丁才
第六章 大審院	自第七十七條 至第八十二條	十六丁才
第七章 高等法院	自第八十三條 至第九十一條	十七丁才
第三編 犯罪ノ搜查起訴及ヒ豫審	計四章	十八丁才
第一章 搜查	第九十二條 計二節	十八丁才
第一節 告訴及ヒ告發	自第九十三條 至第九十九條	十八丁才
第二節 現行犯罪	自第一百條 計二節	二十丁才
第二章 起訴	自第一百零七條 至第一百零九條	廿二丁才
第一節 檢察官ノ起訴	自第一百零七條 至第一百零九條	廿二丁才

第二節 民事原告人ノ起訴	自第一百十條 至第一百十二條	廿三丁才
第三章 豫審	自第一百十三條 計十節	廿三丁才
第一節 令狀	自第一百十八條 至第一百四十二條	廿五丁才
第二節 密室監禁	自第一百四十三條 至第一百四十五條	三十丁才
第三節 証據	自第一百四十六條 至第一百四十八條	卅一丁才
第四節 被告人ノ訊問及ヒ對質	自第一百四十九條 至第一百五十七條	卅二丁才
第五節 檢証及ヒ物件差押	自第一百五十八條 至第一百六十九條	卅三丁才
第六節 証人訊問	自第一百七十條 至第一百九十九條	卅六丁才
第七節 鑑定	自第一百九十九條 至第二百零九條	四十一丁才
第八節 現行犯ノ豫審	自第二百一十條 至第二百二十九條	四十三丁才
第九節 保釋	自第二百二十九條 至第三百零三條	四十五丁才
第十節 豫審終結	自第三百零三條 至第三百三十四條	四十六丁才
第四章 豫審上訴	自第三百三十四條 至第三百六十一條	五十丁才
第四編 公判	計四章	
第一章 通則	自第三百六十二條 至第三百七十二條	
第二章 違警罪公判	自第三百七十一條 至第三百八十六條	



日本治罪法講解目錄終

第三章 輕罪公判	自第三百四十七條 至第三百七十一條
第四章 重罪公判	自第三百七十二條 至第四百九條
第五編 大審院ノ職務	計四章
第一章 上告	自第四百十條 至第四百三十八條
第二章 再審ノ訴	自第四百三十九條 至第四百四十七條
第三章 裁判管轄ヲ定ムルノ訴	自第四百四十八條 至第四百五十八條
第四章 公安又ハ嫌疑ノ爲メ裁判管轄ヲ移スノ訴	自第四百五十一條 至第四百五十八條
計三章	
第六編 裁判執行復權及ヒ特赦	
第一章 裁判執行	自第四百五十九條 至第四百六十九條
第二章 復權	自第四百七十條 至第四百七十六條
第三章 特赦	自第四百七十七條 至第四百八十八條

日本治罪法講解完全卷之上

播磨 水越成章 閱  
美濃 越石 齊 著

第一篇 總則 此ノ總則トハ治罪法ノ中ニテ總テノ管轄ヲ包ミテ餘スコトナ  
キモノニシテ第二編以下ノ箇條ニ付キテ大ニ其ノ趣ル所トナ  
ルモノナレバ第二編以下ヲ明ラカニ知ラントナラバ先ヅ此ノ總則ヲ能ク  
諳ンゼズシテハナラヌナリ

第二條 公訴ハ犯罪ヲ證明シ刑ヲ適用スルノ目的トスル者ニシテ法律ニ定メ  
タル區別ニ從ヒ檢察官之ヲ行フ 公ケノ訴トハ罪ノアルコトヲ明ラカニ證據  
トスルモノニテ法律ニテ定メアル夫々ノ別子ニヨリテ檢察官トテ檢査ノ役  
トスルモノニテ民事ノ法ニヨリテ其ノ審テ受ケテタ者ヨリ爲スベキモノ  
ナリトス

第三條 私訴ハ犯罪ニ因リ生シタル損害ノ賠償物ノ返還ヲ目的トスル者ニシ  
テ民法ニ從ヒ被害者ニ屬ス 私訴トハ罪ヲ犯シタルヨリ出來ルキタル損失ノ  
賠償トシテ又ハ正シカラヌ品ヲ取リ還スヲ目的  
トスルモノニテ民事ノ法ニヨリテ其ノ審テ受ケテタ者ヨリ爲スベキモノ  
ナリトス

(公訴ト私訴トノ別) 公訴ハ罪ヲ犯シタルニ付キ其ノ罪ヲ刑法ニ當テハイテ仕  
置スルタンノ訴ヘナレバ私訴ノ事ニアラス公ケノ事ナリサレバコレハ民事



ノ為スコトナレドモ私訴ハコレトハ異ニシテ罪ヲ犯シタルヨリシテ害ヲ受ケタル者ガ其ノ害ヲ受ケタルダケノ償ヒアラン更テ請フモノナレハ其ノ害ヲ受ケタル者ガ損失ニハ構ハヌト云ハハ夫レ切リノコトニテ損失ヲ構フト構ハヌトハ其ノ身ノ騰手次第ナルユヘ害ヲ受ケタル者ヨリ私ニ訴ヘ出ルモノナリ去レ此ノ私訴ハ民法ニ從フトハ且ドモ通常ノ民更ノ訴ヘトハ少シク形ノ異ナルモノナリト知ルベシ

**第三條** 公訴ハ被害者ノ告訴ヲ待テ起ル者ニ非ズ又告訴私訴ノ棄權ニ因リテ消滅スル者ニ非ズ但法律ニ於テ特ニ定メタル場合ハ此限ニ在ラズ

**第四條** 私訴ハ其金額ノ多寡ニ拘ハラス公訴ニ附帶シテ刑事裁判所ニ之ヲ爲ス

一ヲ得但法律ニ於テ其裁判所ニ私訴ヲ爲スヲ許サザル場合ハ此限ニ在ラズ

**第五條** 公訴私訴ノ裁判ハ管轄裁判所ニ於テ現ニ施行スル法律ニ定メタル訴訟手續ニ從ヒ之ヲ爲ス可シ

**第六條** 刑事裁判所又ハ刑事裁判所ト民事裁判所トニ於テ公訴私訴並ビ起ル時ハ公訴ノ裁判ニ先テ私訴ノ裁判ヲ爲ス可ク其後遺言渡リ後判言渡アリ

**第七條** 民事裁判所ニ私訴ヲ爲シタル時ハ檢察官ノ起訴アルニ非サレハ願下ヲ爲シ更ニ刑事裁判所ニ私訴ヲ爲シタル時ハ被告人ノ承諾ヲ得テ願下ヲ爲シ更ニ民事裁判所ニ其訴ヲ爲スヲ得

**第八條** 刑事裁判所ニ私訴ヲ爲シタル時ハ被告人ノ承諾ヲ得テ願下ヲ爲シ更ニ民事裁判所ニ其訴ヲ爲スヲ得

**第九條** 民事裁判所ニ私訴ヲ爲シタル時ハ被告人ノ承諾ヲ得テ願下ヲ爲シ更ニ民事裁判所ニ其訴ヲ爲スヲ得

私訴ハ公訴ト雖レテ民事ノ裁判所ヘ訴ヘルコトモ出来ルナリ



へ訴へルコトハナラヌナリ去レドモ刑事ノ裁判所へ私訴セシ時ハ被告人ガ承知ナラバ願下ゲンテ更ニ民更ノ裁判所へ訴へ出ルコトハ出来ルナリ

第八條 被告人免訴又ハ無罪ノ言渡ヲ受ケタリト虽民法ニ從ヒ被害者ヨリ賠償返還ヲ要ムルノ妨礙ト爲ルコトナカレ可シ

被告人ガ公訴ヲ曉ゼラレ又ハ罪ナシト言渡サルモ民法ニヨリテ害ヲ受ケタル者ヨリ償ヒヤ取り還シテ求ムルノ妨礙トハナラヌモノナリ

第九條 公訴ヲ爲スノ權ハ左ノ條件ニ因テ消滅ス

一 被告人ノ死去

二 告訴ヲ待テ受理ス可キ事件ニ付テハ被害者ノ棄權又ハ私和

三 確定裁判

四 犯罪ノ後頒布シタル法律ニ因リ其刑ノ廢止

五 大赦

天皇ノ大勅ナドニテ罪アル人ヲ赦シテ罪ナキ人トセラレシ時

六期満免除

第十條 私訴ヲ爲スノ權ハ左ノ條件ニ因テ消滅ス

一 被害者ノ棄權又ハ私和

二 確定裁判

三期満免除

第十一條 公訴期満免除ノ期限左ノ如シ

一 違警罪 六六月

二 輕罪 八三年

三 重罪 八十年

第十二條 私訴期満免除ノ期限ハ被害者無能力ナル時又ハ民事裁判所ニ其訴ヲ爲シタル時ト虽民法ニ依リ公訴期満免除ノ期限ト同一ナリトス

私訴ヲ免ルハ年限ハ害ヲ受ケタル者ガ一人



前ノ者ニアラザル時タリトモ民事ノ裁判所ヘ訴ヘタル時タリトモ前條ノ公訴ヲ免ルノ年限ト同ジコトナリトス

公訴ニ付キ既ニ刑ノ音渡アリタル時ハ民法ニ定メタル期滿免除ノ例ニ從フ公訴ニテ仕置ノ音渡ガアリタル時ニハ私訴ヲ免ルノ年限ハ民法ニ定メタル通リナリ

第十三條 公訴私訴期滿免除ノ期限ハ犯罪ノ日ヨリ起算ス但繼續犯罪ニ付テハ其最終ノ日ヨリ起算ス  
公訴ニテモ私訴ニテモ免ルノ年限ハ罪ヲ犯シタル日ヨリ起算スヨリ免ルナルナリ若シテ罪ヲ犯シタル時ハ其ノ最モ終リノ日ヨリ起算スルナリ

第十四條 期滿免除ハ刑事裁判所ニ於テ檢察官若クハ民事原告人ヨリ起訴ノ手續ヲ爲シ又豫審若クハ公判ノ手續アリタルニ因リ其期限ノ經過ヲ中断ス其未

タ發覺セザル正犯從犯及ヒ民事擔當人ニ付テモ亦同シ  
於テ發覺カ民吏ノ原告人カノ起訴ヘテ起ス手續ヲナシ又タ下テ起訴ベヤ公判ノ手續アル時ハ其ノ年限ノ中断ヲモナリトス又發覺セ又主タル犯人ヤ從タル犯人ヤ盜三物ヲ擲失ナドテ受クル人ナドニ付テモ同ジコトナリ豫審ノ事ハ第三篇第三章ニ說明シ公判ノ事ハ第四篇ニ說明ス故ニ茲ニ說明セズ  
期滿免除ノ期限ノ經過ヲ中断シタル時ハ起訴豫審又ハ公判ノ手續ヲ止メタル

日ヨリ更ニ其期限ヲ起算ス但前後ノ日數ヲ通算シテ第十一條ニ定メタル期限ノ二倍ヲ超過ス可カラス  
起訴豫審又ハ公判ノ手續其規則ニ背キタルニ因リ無効ニ屬スル時ハ其手續ノ無効ニ屬スル時ハ此限ニ在ラズ  
公判ナドノ手續ガ規則ト違フタルニ付キ效モナクナリタル時ハ此限ニ在ラズ  
公判ナドノ手續ガ規則ト違フタルニ付キ效モナクナリタル時ニハ此ノ限リニハアラザルナリ

第十五條 起訴豫審又ハ公判ノ手續其規則ニ背キタルニ因リ無効ニ屬スル時ハ期滿免除ノ期限ノ經過ヲ中断スルノ效ナカレ可シ但裁判官ノ管轄違フルニ因リ其手續ノ無効ニ屬スル時ハ此限ニ在ラズ  
公判ナドノ手續ガ規則ト違フタルニ付キ效モナクナリタル時ニハ此ノ限リニハアラザルナリ

第十六條 被告人免訴又ハ無罪ノ音渡ヲ受テタル場合ニ於テ其訴訟ノ原由告訴人告發人又ハ民吏原告人ノ惡意若クハ重大ノ過失ニ出テタル時ハ是等ノ者ニ對シ損害ノ償ヲ要ムルコト不得  
被告人ガ公訴ヲ起シテ免レ又ハ罪ノナキ音渡ヲ受ケタル時ニ其ノ訴ヘノ原ハ實ヲ受ケタル訴ヘ出ル人ヤ他人ノ害ヲ受テタル時ハ出ル人ヤ民吏ノ原告人ナドノ惡シキ心ヨリシ又ハ重大ノ過失ニ出テタル時ハ被告人ヨリ右ノ者等ニ損害ヲ償ハレシコト



ヲ請フコトヲ得ルナリ

被告人刑ノ言渡ヲ受ケタリト虽原告訴人告護人又ハ民支原告人ヨリ惡意若クハ重キ過失ニ因リ其犯罪ニ付キ過實ノ申立ヲナシタル時亦同シ  
被告人ガ杜  
多リトモ審ヲ受ケテ訴ヘ出タル人ヤ他人ノ審ヲ受クルヲ訴ヘ出タル人ヤ民  
支ノ原告人ナドガ惡シキ心ヨリシ又ハ重キ過失ニヨリ其ノ罪ヲ犯シタルニ  
付キ實ニ過ナルノ申立ヲシタル時モ前項ト同シ

民支原告人豫審又ハ公判ノ言渡ニ對シ上訴ヲ爲シ敗訴シタル時ハ被告人其上  
訴ニ因リ生シテ損害ノ償ヲ要ムルコトヲ得  
民支ノ原告人ガ下タ調ベ又ハ公判  
言渡ニ不服ニテ上訴ヲナシタルモ  
申分立タザル時ニハ被告人ハ其ノ上訴ノタメノ損失ヲ求ムルコトヲ得ルナ  
リ

要償ノ訴ハ本案ノ裁判言渡アルマデ何時ニテモ其裁判所ニ之ヲ爲スコトヲ得  
ヒテ未ダ上訴ハ其ノ未トナル罪ノ裁判言渡ノアル迄ハ何時デモ其ノ裁判  
所ヘ訴ヘルコトガ出来ルナリ

第十七條 被告人無罪ノ言渡ヲ受ケタリト虽原告裁判官檢察官書記又ハ司法警察  
官ニ對シ要償ノ訴ヲ爲スコトヲ得ス但是等ノ官吏被告人ニ對シ故意ヲ以テ損害

ヲ加ヘ又ハ刑法ニ定メタル罪ヲ犯シタル場合ハ此限在ラス  
被告人ガ罪ノナ  
キ言渡ヲ受ケタル  
時トテモ刑事ヤ檢査ヤ書記ヤ司法警察官ナドニ償ヲ求ムルノ訴ハセラレ  
又ナリ但シ右ノ官人ニテモ被告人ニ故意ト損失ヲ加ヘタルカ刑法ニアル罪  
ヲ犯シタル時ニハ此ノ限ニアラス

第十八條 此法律ニ於テ期限ヲ計算スルニ時ヲ以テスルモノハ即時ヨリ起算シ  
日ヲ以テスル者ハ初日ヲ算入セズ若シ最終ノ日休暇ニ當ル時ハ期限ニ算入ス  
可カラズ但期滿免除ノ期限ハ此限在ラス  
治罪法ニテ期限ヲ算用スルニ何  
時ト云フ者ハ其ノ即時ヨリ算ヘ始  
メ又ナリ尤モ期限滿過キ罪ヲ赦スルノ罪限ニハ此ノ限リニアラス

第十九條 此法律ニ定メタル期限ニハ陸路八里毎ニ一日ノ猶豫ヲ加フ八里ニ滿  
ルハ醫ニ從フ

サレ者ト虽尾三里以上ナル時亦同シ  
治罪法ニテ定ムル期限ハ陸路ノ路ナラハ八里ニ付キ一日  
ノ猶豫ヲ加フ八里ニ滿ルニ至ラズモ陸路以上ナラハ同様ナリ  
島地又ハ外國トノ路程ノ猶豫ハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム  
島又外國トノ距離  
ハ別ニ法律ニ定ムルナリ



○十五年太  
政官第七號  
布告

治罪法第十九  
條第二項海上  
ノ猶豫ハ陸路  
四里ノ割合ヲ  
以テ一日ヲ加  
アルモノト定  
ム

第二十條 此法律ニ於テ訴訟ヲ爲スニ付キ定メタル期限ヲ経過シタル時ハ特別ノ場合ヲ除クノ外其權ヲ失フ可シ  
治罪法ニテ訴訟ハマナスタシメ定メタル期限ヲ過ケル時ハ特別ノ場合ヲ除クノ外其權ヲ失フ可シ其特別ノ場合トハ治罪法第二百五十八條第三百十二條第三百十六條等ヲ云フ

第二十一條 訴訟關係人ハ裁判所々在ノ地ニ住セサル時ハ其地ニ假住所ヲ定メ書記局ニ届置ク可シ否ラサル時ハ書類ノ送達ナシト異議申立ルルヲ得ス  
訴訟關係人ニ關シテ其ノ裁判所ノ在ル地ニ住マヌ時ハ其ノ地ヘ假ノ住所ヲ定メ書記局ヘ其ノ旨ヲ届置クベシ左様セヌ時ハ書類ヲ裁判所ヨリ送ラレズトモ事情ヲ謂フコトナラヌナリ

第二十二條 此法律ニ於テ訴訟關係ノ書類ヲ送達スルニ付キ別ニ規則アラザル時ハ書記局ニ送達書ヲ作り書記局所屬ノ使丁ヲシテ之ヲ送達セシム  
係人ニ書類ヲ送ルルニ付キテノ規則ガ別ニナキ時ハ書記局ガ其ノ送ルルベキ書類ヲ作り書記局ノ使丁ニ持タセ送ラヌナリ其規則トハ治罪法第三百十條第三項ヲ云フ  
若シ書類ノ送達ヲ受ク可キ者裁判所ノ管轄地外ニ在ル時ハ其地ノ裁判所ノ書記ニ送達ノ事ヲ囑託ス可シ  
書類ノ送リヲ受クルモノガ其ノ裁判所ノ支那地外ニ居ル時ハ其ノ居ル地ノ裁判所ノ書記ニ送ル

支ヲ依認スベシ

第二十三條 送達書ハ一通ヲ作り其一通ヲ本人ニ渡ス可シ本人ニ渡スコト得ザル時ハ其住所ニ於テ同居ノ親屬又ハ雇人ニ渡ス可シ  
書類ヲ送ルルニハ一通ヲ作り一通ヲ本人ニ渡スベシ若シ本人ニ渡スコトノ出来ヌ時ハ同居シテイル身依リノ者方雇ヒ人カニ渡スコトハス

送達人ハ之ヲ受取リタル者ヲシテ其一通ニ署名捺印セシム若シ署名捺印スルコトナラハ其時ハ其旨ヲ附記ス可シ  
署名捺印シタル者ニ一通共ハ名ヲ書キ印ヲ押サシムモシ名ヲ書キ印ヲ押スコト出来ヌ時ハ其ノ趣キヲ記サシム

同居ノ親屬又ハ雇人ニ書類ヲ渡スコト得ヌ者ハ是等ノ者之ヲ受取ルコト得ヌ也サレバ其地ノ戸長ニ渡置キ戸長ハ其書類ニ認印シ速ニ本人ニ送達スルノ處分ヲ爲ス可シ  
同居シテイル身依リノモノ又ハ雇人ニ書類ヲ渡スコト出来ヌ又ハ右ノ者ガ受取ラヌ時ハ其ノ地ノ戸長ニ渡シ戸長モ其ノ書類ニ認印シテ早速本人ヘ送ル道ヲ爲スベキナリ

送達人ハ書類ヲ受取リタル者ノ氏名場所及ヒ日時ヲ其一通ニ記載ス可シ



人ハ書類ヲ受ケ取リタル者ノ姓名ヤ場所ヤ日ヤ時ヲ二通共ハ記スベキナリ  
本條ノ規則ニ背キタル時ハ書類ヲ送り届ケタトテ其ノ効ハナキモノトス

送達人ハ其一通ヲ書記局ニ還納シ書記局ニ於テハ送達ノ證トシテ之ヲ保存ス可シ  
送達ノ證トシテ之ヲ保存ス可シ

第二十四條 休暇ノ日及ヒ日出前日没後ハ書類ノ送達ヲ爲ス可カラズ此規則ニ背キタル時ハ其送達ノ効チカル可シ但本人承諾シテ其送達ヲ受ケタル時ハ此限ニ在ラス

第二十五條 官吏ノ作ル可キ書類ハ其所屬官署ノ印ヲ用ヒ年月日及ヒ場所ヲ記載シテ署名捺印シ毎集ニ契印ス可シ若シ官署ノ印ヲ用フルト能ハザル場合ニ於テハ其事由ヲ記載ス可シ此規則ニ背キタル時ハ其書類ノ効チカル可シ  
於テハ其事由ヲ記載ス可シ此規則ニ背キタル時ハ其書類ノ効チカル可シ

○十四年太政官第四十六號  
布告ノ内  
書類送達ニ付  
官制法第二十  
四條ノ制限有  
之候ヘドモ當  
局ノ外ハ不及  
其儘候事

記スベシ此ノ規則ヲ履マザレバ書類ノ効ハナキナリ

官吏ニ非サル者ノ作ル可キ書類ニハ本人自ラ署名捺印ス可シ若シ署名捺印スルコト能ハサル時ハ官吏ノ面前ニ於テ作リタル場合ヲ除クノ外立會人代署シ其事由ヲ記載ス可シ  
事由ヲ記載ス可シ

第二十六條 官吏其他何人ニ限ラス訴訟ニ關スル書類ノ正本又ハ謄本ヲ作ルニ付キ文字ヲ改竄ス可カラズ若シ插入削除及ヒ欄外ノ記入アル時ハ之ニ認印ス可シ文字ヲ削除スル時ハ之ヲ讀得ヘキ爲メ字體ヲ存シ其數ヲ記載ス可シ此規則ニ背キタル時ハ其數更増減ノ効チカル可シ

則ニ背キタル時ハ其數更増減ノ効チカル可シ  
シナド作ルニ字ヲ書キ直スコトハナラス若シ字ヲ書重シタリ削リタリ野ノ外ハ書入レタリスル時ハ時々認印スベシ文字ヲ削リタル時ハ旧トノ字ヲ讀タレヨフニ字ノ邊ヲ置キ幾字削リタルト云フ事ヲ認印スベシ此ノ規則ニ背キタル時ハ文字ヲ増シ減シ更メナドスルノ甲斐ハナキモノナリ

第二十七條 此法律ニ於テ定メタル豫審又ハ公判ニ付テノ規則ハ頒布以前ニ條

○十四年太政官第四十六號



号布告  
大審院各裁判  
所ニ於テ明治  
十四年十二月  
三十一日以前  
審理ニ着手セ  
シ刑事ノ十五  
年一月一日以  
後ト虽尼治罪  
法ニ拘ハラズ  
仍ホ従前ノ規  
則ニ從ヒ處分  
スベシ

ル犯罪ニモ亦之ヲ適用ス  
國治罪法ニ定メアル下ニ  
罪法ヲ行フ時ヨリ前ニ犯  
シタル罪ニモ兩エベキナリ  
頒布以前ニ爲シタル訴訟手續當時ノ法律ニ背カ其時ハ其效アリトス  
リ前ニ爲シタル訴訟ノ手續ハ其ノ時ノ法律ニ背キテナキ時ハ其効アルモノ  
トス

第二十八條 此法律ハ將來頒布ス可キ別段ノ法律ニ於テ豫審又ハ公判ノ手續ヲ  
定メタル犯罪ニモ亦之ヲ適用ス但其法律ニ抵觸スル規則ハ此限ニ在ラス

從前頒布シタル別段ノ法律ニ於テ豫審又ハ公判ノ手續ヲ定メタル犯罪ニ付テ  
ハ前項ノ例ニ在ラス  
國治罪法ハ違クニニ布告スル格別ノ法律ニテ下ヲ調ベヤ  
公判ナドノ手續キヨ定メタル罪ヲ犯シタル者ニモ兩エル  
ナリ左モ其ノ別ノ法律ニ屬ル、規則ハ此ノカキリニアラン別段ノ法  
律トハ出版條例就機規則海關稅則郵便罰則鐵道罰則等ノ如キチ云フ  
令進テ布告シタル格別ノ法律ニテ下ヲ調ベヤ公判ノ手續キテ定メタル罪ヲ犯  
シタル者ニ付テモ前項ト同シキナリ

第二十九條 此法律ハ陸海軍ニ關スル法律ヲ以テ處分ス可キ者ニ適用スルヲ  
得ス  
國此ノ治罪法ハ陸軍マ海軍ニ關スル法律ニテ處クベシモノニハ兩エベ  
カラザルナリ

第三十條 此法律ニ於テ親屬ト稱スルハ刑法第百十四條第百十五條ノ例ニ從テ  
得ス

國此ノ治罪法ニテ親類ト云フモノハ刑法ニ調フ處ト同シコトナリ

第三篇 刑事裁判所ノ構成及ヒ權限  
國此ノ篇ハ刑吏ノ裁判所ノ權限ハマ刑事  
裁判所ノ權限

第一章 通則  
國通則トハ此ノ第二篇中ニテ數々ノ章マ數々條ヘ適用スルモ  
ノニシテ同ジ事ヲ再三出サ又爲メニ此ノ通則ナル一章ヲ設ケ  
タルナリ

第三十一條 通常刑事ノ裁判權ハ民事ノ裁判權ト同一ノ裁判所ニ屬ス  
國通常ノ  
クベキ刑事ノ裁判ノ權ハ民事ノ裁判ノ權ト同ジ裁判所ニ屬スベキモノトス

第三十二條 裁判所ノ位置及ヒ管轄ノ區劃ハ司法卿ノ奏請ニ因リ上裁ヲ以テ之  
ヲ定ム  
國裁判所ヲ置ク上裁ト共ノ奏請ノ區劃ハ司法卿ヨリ 天皇陛下ヘ奏聞  
天皇ヨリ裁シテ定メラルコトトス

第三十三條 裁判所ニハ檢察官一名又ハ數名ヲ置ク  
國夫々ノ裁判所ニハ檢察官  
トナルベキ官員ヲ一名カ又タハ數名カ置クナリ

第三十四條 刑事ニ付キ檢察官ノ職務左ノ如シ  
國人ヲ仕置スル責任ニ付キテ  
檢察官ノ職務ハ左ノ條々ナリ



一 犯罪ヲ捜査ス 國罪ヲ犯シタル人ヲ擧リ索ルナリ

二 犯罪ニ付キ取調ノ處分及ヒ法律ノ適用ヲ裁判官ニ請求ス 國罪ヲ犯シタルニ付キ取調ヲナシ且ツ其ノ罪ニ付キ如何ノ仕置ニスベシト請フコトヲ裁判官ニ請フナリ

三 裁判所ノ命令及ヒ言渡ノ執行ヲ指揮ス 國裁判所ノ申付ケマ言渡ノ執行行ヒテ指揮スルナリ

四 裁判所ニ於テ公益ヲ保護ス 國裁判所ニ於テ公益ノ益トナルベキ事ヲ護ルナリ

第三十五條 檢察官一名ハ公廷ニ立會フ可シ 國裁判ノ時ニ檢察官一名ハ公廷ニ立會フベキモノトス

第三十六條 裁判所ニハ書記一名又ハ數名ヲ置ク

第三十七條 書記ハ豫審及ヒ公判ニ立會ヒ調書公判始末書其他訴訟ニ關スル一切ノ書類ヲ作ルベシ

又裁判言渡書其他一切ノ書類ヲ保存ス可シ 國憲法ハ下タ調ヘマ公判ノ時ニ立會ヒ調書ヤ公判始末書マ其ノ外詠シ置クベシ

第三十八條 犯罪ノ種類ニ因リ裁判管轄ヲ定ムルノ左ノ如シ 國罪ニタル罪ニヨリテ裁

判ノ支那ヲ左ノ如ク定ムルナリ

一 違警罪ハ違警罪裁判所

二 輕罪ハ輕罪裁判所

三 重罪ハ重罪裁判所

重罪及ヒ輕罪又ハ輕罪及ヒ違警罪ニ付キ同時ニ同一ノ被告人ニ對シテ訴アリタ

ル時ハ附帶ノ犯罪ニ非スト虽用上等ノ裁判所併ヒテ之ヲ管轄ス 國重罪ト輕罪ト違

警罪ニ付キテ同時ニ同一ノ被告人ヲ訴ヘル時ニハ職ナリ合フタル罪デナク

トモ其ノ罪ノ内ノ重キ方即チ上等ノ裁判所ニテ支配スルナリ

第三十九條 左ノ場合ニ於テハ附帶ノ犯罪ナリトス 國罪ナリ合フタル罪トハ左

一同一ノ場所ニ於テ同時ニ一人又ハ數人ニテ數罪ヲ犯シタル時 國同ジ場所ニ

人カ亦ハ數人シテ數々ノ罪ヲ犯シタル時ナリ

二 數人通謀シテ日時又ハ場所ヲ異ニシ數罪ヲ犯シタル時 國數々ノ人ガ謀リ合

テ異ニシテ數々ノ罪ヲ犯シタル時ナリ



○十四年九月第四十六号布告

治罪法第四十  
条ニ犯罪ノ地  
ヲ以テ裁判管  
轄ト規定有之  
候區當分ノ内  
犯罪ノ地分册  
ナル被告人ト  
重庄管轄裁判  
所ヨリ屬託ア  
リタル時ハ其  
被告人逮捕ノ  
地ノ裁判所立  
ヲ管轄スベシ

三百已又ハ他人ノ犯罪ヲ容易ニスル爲メ又ハ其罪ヲ免カレ、爲メ他ノ罪ヲ犯シタル時、同自來ヤ又ハ他人ノ罪ヲ犯シ難クスルタメ又ハ犯シタル罪ヲ免カレシメントシテ外ノ罪ヲ犯シタル時ナリ

第四十條 同等ノ裁判所ニ於テハ犯罪ノ地ノ裁判所ヲ以テ豫審及ヒ公判ノ管轄ナリトス。同同シ位ノ裁判所ヲバ罪ヲ犯シタル地ノ裁判所ガ下課ベモ公判モ支那スルモノナリトス

犯罪ノ地分册ナラザル時ハ被告人逮捕ノ地ノ裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス。ヲ犯シタル地ガ明カナラ又時ニハ被告人ヲ捕ヘタル地ノ裁判所ニテ支配スルコトトス

第四十一條 數箇ノ裁判所ノ管轄地内ニ於テ同時ニ又ハ繼續シテ一箇ノ罪ヲ犯シタル時ハ其中ニテ被告人逮捕ノ地ノ裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス

數罪俱發ノ場合ニ於テモ亦同シ。數々ノ裁判所ノ支配下ニテ同時ニ又ハハシタル地ノ裁判所ニテ支配スルモノナリトス數々ノ罪ガ俱ニ發シタル時モ同シキナリ

第四十二條 犯罪ノ地ニ非ザル裁判所ノ管轄地内ニ於テ被告人ヲ逮捕シタル時ハ最近ノ管轄裁判所ニ送致ス可シ。罪ヲ犯シタル地ニアラザル裁判所支配下ニテ被告人ヲ捕ヘタル時ハ最近ノ管轄裁判所ニ送致ス可シ

裁判所へ送ルコトトス

今狀ヲ以テ被告人ヲ逮捕シタル時ハ其令狀ヲ發シタル裁判所ニ送致ス可シ。状令狀ノコトハ第三編第三三三條ニテ被告人ヲ捕ヘタル時ハコトトテ令狀ヲ發シタル裁判所ニ送ルコトトス

第四十三條 數箇ノ裁判所ノ管轄ナル場合ニ於テ被告人ヲ逮捕スルノ能ハス若クハ法律上逮捕スルノ許サ、ル時ハ其中ニテ最初豫審又ハ公判ニ着手シタル裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス。圖數々ノ裁判所ノ支配ナルモ被告人ヲ捕ヘルコトト出ササルガ又ハ法律ニテ捕アルコトヲ許サ又時ニハ其ノ中ニテ初メニ下課ベ又ハ公判ニ手ヲ着ケタル裁判所ノ支配ナリトス

第四十四條 從犯ハ正犯ヲ管轄スル裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス。圖附キ從犯ノ罪人ヲ支配スル裁判所ノ支配ナリ

數箇ノ裁判所ノ管轄ニ屬スル正犯數名アル時ハ其中ニテ最初豫審又ハ公判ニ着手シタル裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス。圖數々ノ裁判所ノ支配ナル正犯數々アル時ハ其ノ中ニテ初メニ下課ベ

公判ニ手ヲ着ケタル裁判所ガ支配スルコトトス



高等法院及陸海軍裁判所ノ管轄ニ付キ法律ニ於テ特ニ定メタル場合ハ本條ノ例ニ在ラズ

第四十五條 外國ニ在テ犯シタル罪日本國ノ法律ニ依リ處断ス可キ者ニシテ内地ニ於テ被告人ヲ逮捕シタル時ハ逮捕ノ地ノ裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス又

外國ヨリ送致シタル時ハ送致ノ地ノ裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス

凡者ヲ日本法律ニテ仕置ニスベキ者ヲ日本ニテ捕ヘタル時ハ捕ヘタル地ノ裁判所ニテ支配スルコトハス若シ外國ヨリ送リ來ルハ其送リ來ル地ノ裁判所ニテ支配スルモノトス

關席裁判ヲ爲ス可キ場合ニ於テハ被告人最終住所ノ地ノ裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス其住所不明ナラザル時ハ裁判管轄ヲ定ムルノ訴ヲ爲ス可シ

ハ出テスシテ裁判スル時ニハ被告人ガ終リニ住シタル地ノ裁判所ニテ支配スルナリ若シ住所不明ナラザル時ニハ裁判ノ支配ヲ定ムルノ訴ハ出テスベキモノナリトス

第四十六條 商船内ノ犯罪ニ付テノ管轄及ヒ訴訟手續ハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム

高船内犯罪

取扱規則

第一條 何人タリトモ高船内ニ於テ重罪輕罪アルトシテ認知シ又ハ重罪輕罪ニ因リ船中ヲ受ケタル者ハ船長ニ告

訴告登ヲ爲スルヲ得

第二條 船長告

第四十七條 豫審ヲ爲シタル裁判官ハ其公判ニ于テ預ス可カラス前ニ豫審又ハ公判ヲ爲シタル裁判官ハ哀訴及ヒ關席裁判ニ對スル故障ヲ除クノ外其ノ訴ノ裁

判ニ于テ預ス可カラス此規則ニ背キタル時ハ其言渡ヲ效ナカル可シ

裁判官ハ公判ニ豫カレコトハナラヌナリ又々前ニ下テ預バヤ公判ヲナシタル裁判官ハ哀訴トテ裁キテ豫テ述アル訴ハト關席裁判ニ對シテ故障ヲ申

立ルトテ豫クノ外ハ其ノ上訴ニ付キテノ裁判ニ預カレコトハナラヌナリ此ノ規則ニ背ク時ハ言渡スルモ申張ナキモノトス

第四十八條 裁判所ハ訴ヲ受ケタル事件ニ付テ自ラ其管轄ナリヤ否ヲ判決スルノ權アリ其判決ニ付テハ本條ノ事件終審ナル可キ場合ト最モ通常ノ規則ニ從

ヒ檢察官其他訴訟關係人ヨリ上訴スルコトヲ得

第三章 違警罪裁判所

違警罪ノコトハ刑法ノ第四篇ニモ



分ヲナシ且証  
憑及ヒ事案考  
考トナレハキ  
車物ヲ集取シ  
調書ヲ作ルベ  
シ但シ調書ヲ  
作ルハ第三條  
ニ記載シタル  
官吏ニ其申立  
ナナスベシ  
前項ノ場合ニ  
於テハ立會人  
二名以上アル  
ヲ要ス

第三條船長ハ  
証憑及ヒ車物  
參考トナスハ  
キ車物ヲ取調  
ノ被害人ト共  
ヲ要ス

第四十九條 治安裁判所ハ違警罪裁判所トシテ其管轄地内ニ於テ犯シタル違警罪ヲ裁判ス  
國民吏ノ最モ下等ナル治安裁判所ハ其ノ支配地ノ内ニテ犯シタル  
違警罪ヲ裁判スルタメ違警罪裁判所トナスナリ

第五十條 違警罪裁判所判事ノ職務ハ治安裁判所判事ノ職務ニ準ジテ之ヲ行フ  
判事差支アル時ハ判事補其職務ヲ行フ  
違警罪裁判所ノ判事ハ治安裁判所判  
時ニハ判事補が判事ノ職務ヲ行フコトナス

第五十一條 違警罪裁判所檢察官ノ職務ハ其裁判所々在ノ地ノ警部之ヲ行フ

第五十二條 違警罪裁判所檢察官ハ毎月未決既決ノ事件表ヲ作り輕罪裁判所檢  
事ニ差出ス可シ

事件表ニハ違警罪裁判所判事認印シ且意見アル時ハ之ヲ附記ス可シ  
檢察官ハ毎月マニ罪ノ定リシ者ト罪ノ定ラザル者トノ數額ノ表ヲ作りテ  
輕罪裁判所ノ檢事ニ差出スコトナス其ノ表ニハ違警罪裁判所ノ判事認印  
シ何方存置ノアル時ハ其ノ支テ記スベキモノトス

二款船底泊又  
ハ着港ノ地ノ  
檢事又ハ司法  
警察官ニ引渡  
入ベシモシ外  
國ノ港埠ニ停  
シタル時ハ其  
地駐留ノ憲兵  
ニ之ヲ引渡ス  
ベシ

十四年十二  
月大政官六  
十五号布告  
十四年十二  
月第八十号  
布告

違警罪ノ最ハ  
本年第三十六  
号布告ニ依リ  
明治十五年一

第五十三條 違警罪裁判所書記ノ職務ハ治安裁判所書記之ヲ行フ

第三章 輕罪裁判所  
輕罪裁判所  
仕攝ヘヤ其ノ權ノ限リヲ示ス

第五十四條 始審裁判所ハ輕罪裁判所トシテ其管轄地内ニ於テ犯シタル輕罪ヲ  
裁判ス  
國民吏ノ始審裁判所ハ其ノ支配地ノ内ニテ犯シタル輕罪ヲ裁判スルタ  
メ輕罪裁判所トナスナリ

又重罪及ヒ輕罪ノ檢事ヲ行フ  
重罪ヤ輕罪ノ下ニ請バモ行フナリ

又其管轄地内ノ違警罪裁判所ノ始審ノ裁判ニ對スル控訴ヲ裁判ス  
内ナル違警  
罪裁判所ニテ始メテ爲セシ裁判ノ控訴ヲモ裁判スルナリ

第五十五條 輕罪裁判所判事ノ職務ハ裁判所長ヨリ始審裁判所判事一名又八數  
名ニ順次滿一年間之ヲ命ス

又滿一年間更ニ其職務ヲ繼續セシムルコトヲ得  
輕罪裁判所判事ノ役前ハ始審  
裁判所ノ長ヨリ其ノ裁判所ノ判  
事一名カ數名カ一ヶ年限リトシテ順次ニ命スルコトナス尙ホ一年ノ間  
役目ヲ繼ガシムルコトモ出來ルナリ







取可キノ囑託ヲ受クルコトアル可シ  
凡タノ其支那地ニテ證據物ヤ實事ヲ探ルノ者ハトナルベキ實情ナリ  
リヲ取リ集ムル被疑ヲ受クルコトアルナリ

第六十二條 檢査ハ二月毎ニ豫審及ヒ公判ノ未決既決ノ事件表ヲ作り控訴裁判所檢事長ニ差出ス可シ  
檢査ハ二月毎ニ下夕講ベマ公判ノ未決既決セザルト  
既ニ決シタルトノ既判ノ表ヲ作りテ控訴裁判所ノ檢事長ニ差出スコトアル

又遺棄罪裁判所檢事官ヨリ差出シタル事件表ヲ同時ニ檢事長ニ差出シ且意見アル時ハ之ヲ附記ス可シ  
又遺棄罪裁判所ノ檢事官ヨリ既罪裁判所ハ差出シタル更相ノ表モ同シク檢事長ニ差出シ意見アラバ意見ヲ記スモノトス

事件表ニハ裁判所長認印シ且意見アル時ハ之ヲ附記ス可シ  
判所長カ認メ印ヲナシ又文章見アラバ其ノ趣キヲ附ケ記スナリ

第四章 控訴裁判所  
既罪裁判所ノ裁判ヲ不服ナリトシテ訴ヘ出デタル者再ビ審べル所ニテ其ノ裁判所ノ仕擧ヘヤ其ノ權ノ限リヲ示ス

第六十三條 控訴裁判所ニ刑事局ヲ置キ輕罪裁判所ノ始審ノ裁判ニ對スル控訴ヲ裁判ス但其裁判ハ判事三名以上ニテ之ヲ爲ス可シ  
控訴裁判所ニ仕置ニ係ル訴ヲ取扱フ局ヲ置キ輕罪裁判所ニテ始メテ裁判セシテ不服ナリトテ訴フル者ノ裁判ヲナスコレヲ爲スニハ判事三人以上ナリトス

第六十四條 刑事局判事ノ職務ハ裁判所長ヨリ其裁判所判事數名ニ順次滿一年間之ヲ命ズ  
刑吏局ノ判事ノ役目ハ控訴裁判所ノ長ヨリ其ノ裁判所判事ノ數名ニ順次滿一年間之ヲ命ズ

第六十五條 刑事局判事差支アル時ハ裁判所長ヨリ民事局判事ヲシテ其職務ヲ行ハシム  
刑吏局ノ判事ニ差支ノ出来タル時ニハ裁判所ノ長ヨリ民事局ノ判事ニ其ノ役目ヲ行ハシムルナリ○裁判所ノ長ハイツニモ刑吏裁判ノ長トナルコトガ出来ルナリ

第六十六條 刑事局檢事官ノ職務ハ其裁判所檢事長又ハ其指名ニ檢査之ヲ行  
刑吏局ノ判事ニ差支ノ出来タル時ニハ裁判所ノ長ヨリ民事局ノ判事ニ其ノ役目ヲ行ハシムルナリ○裁判所ノ長ハイツニモ刑吏裁判ノ長トナルコトガ出来ルナリ

日本刑罰法講解 卷上 法律學叢書 第十四 刑事局判事



第六十七條 檢事長ハ其裁判所ノ管轄地内ニ於テ輕罪裁判所檢事ニ屬スル司法

警察及ヒ起訴ノ職務ヲ行ヒ又ハ其所屬ノ檢事ヲシテ之ヲ行ハシムルヲ得

又起訴及ヒ其他ノ職務ニ付キ其管轄地内ノ檢察官ニ告發スルヲ得

又起訴及ヒ其他ノ職務ニ付キ其管轄地内ノ檢察官ニ告發スルヲ得

又起訴及ヒ其他ノ職務ニ付キ其管轄地内ノ檢察官ニ告發スルヲ得

又起訴及ヒ其他ノ職務ニ付キ其管轄地内ノ檢察官ニ告發スルヲ得

第六十八條 檢事長ハ三月毎ニ豫審及ヒ公判ノ未決既決ノ事件表ヲ作り司法

二差出ス可シ

又輕罪裁判所檢事ヨリ差出シタル事件表ヲ同時ニ司法廳ニ差出シ且意見アル

時ハ之ヲ附記ス可シ

事件表ニハ裁判所長認印シ且意見アル時ハ之ヲ附記ス可シ

又輕罪裁判所ノ檢事ヨリ出シタル事件表ヲ表ヲモ同時ニ司法廳ニ差出シ存審ア

ラバ其首ヲ附テ記スナリ

右ノ事件表ニハ裁判所ノ長認印ヲナシ且ツ存審ノ筋アラバ其ノ首ヲ

第六十九條 刑事局書記ノ職務ハ其裁判所書記之ヲ行フ

第五章 重罪裁判所

第七十條 重罪裁判所ハ其管轄地内ニ於テ犯シタル重罪ヲ裁判ス

第七十一條 重罪裁判所ハ三月毎ニ之ヲ開ク

若シ事件夥多ナル時ハ控訴裁判所長及ヒ檢事長ヨリ司法廳ニ具申シ其許可ヲ

得テ臨時開廳スルヲ得

脚ニ申出テ謀シテ得テ臨時ニ開クコト出来ルナリ



○十六年一月  
月大政官第  
三号布告  
始審裁判所ニ  
於テ重罪裁判  
所ヲ開ク時ハ  
當分ノ内始審  
裁判所長ヲ以  
テ其裁判長ト  
爲スコトヲ得  
但沖繩縣札幌  
縣根室縣ノ儀  
ハ従前ノ通り  
タル可シ

第七十二條 重罪裁判所ハ控訴裁判所又ハ始審裁判所ニ於テ之ヲ開ク

第七十三條 重罪裁判所ハ左ノ職責ヲ以テ裁判ヲ爲ス可シ

一 裁判長一名但控訴裁判所長ヨリ其裁判所判事ニテ之ヲ命ス

二 陪席判事四名但控訴裁判所ニ於テ開ク時ハ裁判所長ヨリ其裁判所判事ニ

テ之ヲ命シ始審裁判所ニ於テ開ク時ハ其裁判所長及ヒ先任ノ判事ヲ以テ之

ニ充ツ 重罪裁判所ノ裁判ノ長一名ハ控訴裁判所ノ長ヨリ控訴裁判所ノ判

事ニ充ツ 重罪裁判所ノ判事ニテ申附ケ列席スベキ判事四名ハ控訴裁判所ニテ開ク時ニハ

第七十四條 重罪裁判所檢察官ノ職務ハ控訴裁判所檢察官又ハ其指名シタル檢

事之ヲ行フ

始審裁判所ニ於テ開ク時ハ檢察官ヨリ始審裁判所判事ヲシテ其職務ヲ行ハシ

ムルヲ得 重罪裁判所ノ檢察官ノ後任ハ控訴裁判所ノ檢察官ハ檢察官ヨリ

ニハ檢察官ヨリ始審裁判所ノ檢察官ニ其ノ後任ヲ行ハシムルコトハス

第七十五條 重罪裁判所書記ノ職務ハ開廳ス可キ裁判所ノ書記之ヲ行フ

第七十六條 控訴裁判所檢察官ハ開廳ノ後既決事件表ヲ作り司法卿ニ差出ス可

シ

事件表ニハ控訴裁判所長認印シ且意見アル時ハ之ヲ附記ス可シ 國檢吏ノ長ハ

開ク時ニハ控訴裁判所ノ長認印ヲ作リ司法卿ニ差出ス可トハス 國檢吏ノ長ハ

ノ表ニハ控訴裁判所ノ長認印ヲ作リ司法卿ニ差出ス可トハス 國檢吏ノ長ハ

第六條 大審院 大審院トハ日本國中ニテ最モ上等ノ裁判所ニテ只東京

裁判所ノ任據ヘマ其ノ權ノ限リヲ示ス

第七十七條 大審院ニ刑事局ヲ置キ左ノ條件ヲ裁判ス

一 上告

二 再審ノ訴

三 裁判官職ヲ定ムルノ訴